

ハ徒法ニ屬スベシ。抑々大臣ノ責任ニ通常ノ刑法及民法上ノ責任ト道德及政事上ノ責任トノ二種アリ。道德及政事上ノ責任ハ、其一ハ大臣ハ其行爲ニ關シ議院ニ於テ辯解スベキコト、其二ハ議院ハ國王ニ訴願或ハ建言ヲナシ、以テ大臣ノ免職ヲ請フコト是レナリ。但實際ニ適セザル裁判上ノ彈劾ヲ許スベカラザルノミ。

四 大臣モ其餘ノ國民ト均ク通常ノ刑法上及民法上ノ責任ヲ有スルコトハ勿論ニシテ、大臣ヲ彈劾スル特別ノ權利ハ、憲法或ハ法律違犯ノ場合ニ於テノミ之ヲ與フルモノトス。故ニ此違犯タルハ刑法ノ犯罪ニアラズシテ純然政事ノ性質ナリト云フヲ以テ、故ニ又通常ノ懲戒上ノ犯罪トナスヲ得ズ。此犯罪ヲ處スルニハ「パウイエル」國ニ於ケル如ク、唯免職ノ一アルノミ。此ノ處分ノ爲ニ特別ノ裁判所ヲ設クルハ余ハ之ヲ必要ト認メズ、況ヤ大臣ノ通常ノ犯罪ニ於テハ尤モ其謂レナシトス。何トナレバ如斯特別裁判所ハ實驗ニ乏シキノミナラズ、且ツ公平ノ信用ヲ置クコト能ハザレバナリ。此憲法及法律違犯ニ關スル處分ハ、之ヲ最高法院ノ總會ニ委ヌルヲ最モ適當トス。何トナレバ他ニ此ト同様ノ威權及信用ヲ備フル裁判所ナケレバナリ。

千八百八十六年十二月十七日

ハ・ロエスレル

## 大臣責任ニ關スル意見

予ハ意見ヲ陳ブルニ當リ、大臣責任ニ關スル各種ノ憲法及法律ハ已ニ熟知セラル、モノト豫定シ、予ニ與ヘラレタル下問ニ答フルノミヲ以テ足レリトスベシ。

一、予ハ大臣ガ國王ノ身ニ對シ、或ハ國民ニ對シテ責任ヲ有シ、或ハ國會ニ對シ責任ヲ有スルヤノ往々世ニ行ハル、ノ問題ハ、國家ノ本體ヲ誤解スルヨリ生ズルモノナルコトヲ信ズ。此ノ問題ハ立憲國ニ於テ國憲ヲ分割スル昔時ノ主義ニ勢力ヲ有セシムルモノニシテ、此主義ハ國家ノ統一ヲ分裂セシメ、若シ之ヲ實際ニ行フニ於テハ遂ニ國家ノ破壊ヲ來タスニ至ルベシ。

國家ハ統一體ナリ。大臣ハ國家ノ機關タリ又國家ノ官吏タリ。國家ノ官吏トナリテハ其負擔シタル職務上ノ義務ヲ盡サルベカラズ。故ニ大臣ハ國王ノ官吏ニモアラズ、又國民ノ官吏ニモアラズ、其職務執行ノ標準ハ國王ノ利益ヨリ出ルニアラズ。又國民ノ利益ニ因ルニアラズ。獨リ國家ノ利益即チ國家全體ノ幸福ニ在リ、國君ト國民トハ相敵視スルモノニアラズ。又國家



ノ外ニ存スルモノニアラズ。此ノ二者ハ則チ缺クベカラザル國家ノ成分ナルガ故ニ、國王ト國民ノ利益ハ國家ノ利益ト別異ナルベキニアラズ。職務執行ノ際國家ノ幸福ヲ以テ唯一ノ標準トナスノ大臣ハ、國王及臣民ノ眞成ナル幸福ヲ圖ルモノナリ。

故ニ予ノ見ル所ニ據レバ。大臣ハ何人ニ對シテ責任ヲ有スルヤノ問題ニ對シテハ、官吏タルモノハ即チ國家ニ對シテ責任ヲ有スト答フベキナリ。

予ハ大臣ガ國王或ハ國民ニ對シ責任ヲ有スルヤノ誤謬ノ問題ニ對シテハ直ニ嚴烈ナル反對ヲナスノ必要ナルヲ信ズ。此問題ハ日本新聞紙ニ往々見ル所ニシテ、是ニ由テ主權ハ國王或ハ國民ノ掌握スベキモノナルヤノ問題ヲ生ズベシ。予ノ所見ニ於テハ此問題ト難ルベカラザル國家ノ本體ヲ分裂スルノ主義ニハ斷然反對ヲナサルヲ得ズ。此主義ニ從ヘバ國王ト國民トハ其利益ヲ異ニスルト云フノ思想ヲ國民ノ腦中ニ感染セシメ、自ラ兩者ノ間ニ軋轢ヲ生ゼザルヲ得ザルニ至ルベシ。國王ト國民トハ互ニ相敵視スベキモノニアラズ。共ニ國家全體ノ一部ニシテ、均ク國家ノ幸福ニ關係スルモノナリト云フノ思想ヲ國民ニ有セシメザルベカラズ。

予ハ贅言ヲ費サルモ、左ノ主義ヲ取ルハ論理及法理的ニ於ルノミナラズ、政事上ノ理由ヨリスルモ亦尤正當ナリト信ズ。

大臣ハ國家ノ官吏ナルガ故ニ、其職務執行ニ就テハ國家ニ對シ責任ヲ有ス。

二 然レドモ國家ハ其機關ニ依テ始メテ其意思ヲ發シ、其行爲ヲ施スヲ得ルモノナルガ故ニ左ノ問題ヲ生ズベシ。

國家ニ對シタル大臣ノ責任ヲ各個ノ場合ニ當テ實行スルノ權アル機關ハ何ナリヤ。

大臣ヲ任免スルノ權ハ立憲制ノ國法ニ據ルモ國王ニ屬シ、國會ハ法律上之ニ參與スルコトナシ。國家ノ最上官吏ヲ選任スルニ當リ、國王ヲ肘掣スルハ君主政ノ主義ニ抵觸スルモノト謂フベシ。余ハ數百年ノ沿革ヲ經テ漸次ニ進化シ來レル英國ノ制度ニハ論及セズ。此制度ニ據レバ其實議院多數ノ總代タル者大政ヲ掌握シ、國王ガ官吏ヲ任免スルノ權ハ通例單ニ儀式上ニ存スルノミ。予ガ此英國ノ制度ニ論及セザル所以ハ、日本ニ於テ將來如此制度ヲ輸入シ能フコトヲ是認スル人ナキヲ認ムルガ故ナリ。故ニ隨意ニ大臣ヲ任免シ得ル國家ノ機關ハ、又其責任ヲ實行セシムルノ權利ト義務トヲ有セザルベカラズ。而シテ此責任ハ其限極免職ニ止マルベキナリ。

立憲制ノ國家ニ於テハ國會ガ國王ノ決意ニ勢力ヲ及ボシ得ルハ疑ナシ。立憲制ヲ設ケタル國家ハ總テ國會ヨリ國王ニ建議ヲナスノ權ヲ有シ、大臣ノ事務執行ニ關ル訴願ヲ以テ其裁判ヲナスベキ位地ニ提出スルノ方法ヲ有ス。蓋此權ノ價值ハ決シテ少小ニアラズ。國王其王位ノ安全ヲ保タント欲セバ必ず此訴願ヲ拒絶シ能ハザルベシ。然レドモ他ノ一方ヨリ視ルトキハ困難



ナル憲法上争議ノ際ニ在リテハ、縦令國會ニ確實ナル大臣彈劾ノ權アリト雖大臣ノ憲法違反ニ對シ一モ保障ヲナスニ足ラザルコトハ之ヲ歴史ニ徴シテ明カナリ。如斯國家ノ病患アルニ當テ裁判ヲナスモノハ法律ニアラズシテ勢力ナリ。

三 日本ニ於テ大臣ニ對スル祈願ヲ皇帝ニ提出スル權ヲ國會ニ與フルモ妨ゲナキノミナラズ之ヲ與フルノ當然ナル疑ナシ。然レドモ予ハ皇帝ノ裁判ヲ制限シ、或ハ之ヲ其裁判所（上院又ハ特別ノ政事法院）ニ委スルノ時機ハ未ダ來ラズト信ズ。日本ニ於テ立憲主義ヲ實行スルノ任アル賢明ナル政事家ハ、此主義ヲ實行スルニ缺クベカラザル原素ノ不充分ナルコトヲ知了スルナラン。政事上ノ發育ハ未ダ人民ニ普及セズ、多少其發育アルモ惜哉今尙ホ未ダ英佛風ノ民主主義ノ支配ヲ脱スル能ハズ。恐ラク日本ニ於テハ、節制ナキノ議院ヲ見ルナルベシ。若シ議院ニシテ節制ナキニ於テハ異種ノ原素同心叶カスルハ得テ望ムベカラザルノ事ニシテ、立憲ノ制ハ必ズ此節制ヲ缺クベカラズ。如斯未熟ナル議院ニ向テ大臣彈劾ノ權ノ如キ銳利ナル柵柄ヲ與フルトキハ、憲法ノ意義及其範圍ニ關シ議院ト大臣ト意見ヲ異ニスル場合ニ於テ、彈劾ノ鋒鏑（往古兵器ヲ執リシガ如ク）ヲ試ミルニ至ルハ必然ニシテ、其結果ハ大臣ト國會トノ間ニ憲法上ノ争絶スルコトナク、國民經濟ノ發達ノ如キ最要ナル職掌ヲ顧ミザルニ至ルベシ。予ノ見ル所ニ據レバ日本現在ノ狀況ニ於テハ可成政府ノ運動ヲ自由ニシテ之ヲ牽制セザルヲ緊要トス。

若シ大臣ト國會ト意見ヲ異ニシタル場合ニ於テ彈劾ノ端ヲ開クトキハ、爲ニ政府ノ活動ヲ失ヒ、從テ國民ノ進歩ニ必要ナル處置ヲ廢スルニ至ルベシ。故ニ予ハ今起草ノ憲法ニ於テ大臣彈劾ノ權ヲ國會ニ與フベカラズト信ズ。

加之、各國ノ實際ニ於テモ國法學者ノ議論ニ於テモ、大臣彈劾ノ要件ト方法ニ關シ未ダ一定スルニ至ラズ。據テ以テ模範トナスベキ確實ノ前例ナシ、實驗ナキ政事上ノ試験ヲナスハ日本ノ現狀ニ於テハ可成避クベキ所ナリ。

四 以上陳述セル如ク大臣彈劾ノ權ヲ國會ニ與フベカラザルハ予ノ所見ナレドモ、又他ノ一方ヨリ觀レバ憲法中ニ大臣責任ノ事ヲ默過スルハ其宜ニアラズト信ズ。立憲政治ニ於テハ國王ノ親政ニ對シ其責任ヲ擔任スル大臣ノ參與アルヲ要ス。此ニ因テ國王ハ政黨ノ軋轢ヲ免ル、コトヲ得ベク、其攻撃ハ舉ゲテ責任大臣ニ歸スベシ。故ニ大臣責任ノ主義ヲ實行スルニ於テハ國王ノ地位ヲ鞏固ニシ、又國王ニ對スル不敬ノ攻撃ヲ拒キ因テ以テ國家ヲ防護スベシ。

故ニ獨逸憲法ニ於テ簡略ニ掲ゲタル如キ明文ヲ採用スルヲ可トス。（獨逸憲法第十六條）  
皇帝ノ指揮命令ニシテ其效力ヲ有スルニハ責任ヲ負擔スル大臣ノ副署アルヲ要ス。

然レドモ予ハ特別ノ大臣責任法ヲ約束スルガ如キ明文ヲ掲グルヲ便宜ト言フニ非ズ（普國第六十一條第二項ノ如シ）日常ノ生活ニ於テモ本心履行スルヲ欲セザル約束ヲナスベカラズ。政



事上ノ生活ニ於テハ如斯約束ニ關シ苦痛ヲ感ズルコトハ猶傷痍ノ身ニ於ケルガ如シ。即チ憲法上ノ爭議ハ絶スルコトナク、徒ニ政事上攻撃ノ材料ヲ與フルノミニシテ、一モ實際ノ利益アルコトナシ、憲法ニ於テ如斯約束ナキモ必要既ニ生ズルトキニハ何時タリトモ其法律ヲ發スルヲ得ベシ。若シ如斯約束ヲ揭ゲナガラ其必要アラザルニ於テハ其害ハ實ニ甚シ。

大臣ヲ彈劾スルノ權ヲ國會ニ與ヘザレバ、憲法上大臣責任ノ際ノミヲ揭グルモ曖昧ニシテ價値ナシト云フモノアラン。

憲法上責任ノ條ノミヲ揭グルモ法律上ノ效用ハ固ヨリ大ナルニ非ズ。然レドモ亦法律上ノ效用無シト謂フベカラズ。蓋責任大臣ハ普通ノ民法上及刑法上ノ責任ヲ負擔セザルベカラズ。若シ職務上ノ行爲若クハ其措置ニ因テ民法上ノ原則ニ從ヒ、損害賠償ノ義務ヲ生ズルトキハ、被害者ヨリ大臣ニ對シ訴訟ヲ以テ之ヲ實行スルヲ得ベシ。若シ又如斯行爲或ハ措置ニシテ犯罪ノ事實有ルトキハ刑事裁判ニ於テ彈劾セラルベシ。

此責任ハ大臣ノ憲法違犯ニ對シ充分ナル保障ヲ與ヘザルハ固ヨリナルヲ以テ、人或ハ議院ニ大巨彈劾ノ權ヲ與ヘザルニ於テハ、憲法ハ法律上ノ保障ヲ缺クト謂ハン。

然レド憲法ニ大臣彈劾ノ權ナキハ全ク大臣ノ專横ニ放任シテ一モ保障ヲナサザルニ非ズ。即チ國君ハ國會ニ比スレバ更ニ重大ノ任ヲ負ヘル憲法ノ保護者ナリ。國君ハ憲法ニ對シ宣誓ヲナ

スモノナリ。又宣誓ヲナサズ或ハ其宣誓ヲ重ンゼザル場合ニ於テモ同君、ハ故事上ノ遠謀ニ於テ自己ノ地位ノ基礎タル原規ヲ動搖スルコトヲ欲セザルベシ。國君其王位ヲ維持セントセバ、大臣ノ故意違犯ヲ許容スルノ謂レナシ。然レドモ國君又ハ大臣ト國會トノ間ニ於テ憲法ノ解釋ヲ異ニスル場合ニ於テハ、彈劾ノ方法ヲ以テ大臣ヲ糺彈スルヲ得ズ、又ハ糺彈スベカラザルノミ。

又他ノ一方ヨリ視レバ大臣彈劾ノ權ヲ國會ニ與ヘタル國ニ於テモ、猶憲法ノ違背アルヲ免レザルハ歴史ニ徵見スベシ。國家ノ生活ニ於テ不可避ノ狀況アリテ、國家ノ利害ト憲法ト相背馳スル時ニ當テハ、憲法ハ國家ノ利害ニ向テ一步ヲ讓ラザルベカラズ。若シ此ノ場合ニ於テ國會ハ事後承認ヲ拒ムニ於テハ憲法上ノ爭議ヲ生ズベク、而シテ之ヲ裁判スルモノハ通常ノ訴訟ニアラズシテ歴史是レナリ。

大臣ノ法律上ノ責任ニ比シテ更ニ尤モ緊要ナルモノハ大臣ノ道德上及政事上即チ國會ニ對スル責任是レナリ。

道德上ノ責任ハ宣誓ノ有無ニ拘ラズ、憲法ヲ遵守スベキ大臣ノ義務ニ於テ自ラ明瞭ナリ。故ニ故意ニ出ル憲法ノ背犯(前ニ述べタル已ムヲ得ザル場合ヲ除キ)ハ即チ大臣ニ於テ誓ヲ破リ或ハ義務ニ背キタル者ニシテ、如斯大臣ニ對シテハ法律上ノ責任モ一モ保障ノ用ヲナスコトナ



シ。蓋、當局ノ政事家ハ其地位高尚ナルガ爲ニ、現世及後世ノ判斷ヲ重ズルコト裁判所ノ判決ニ比スレバ更ニ大ナルモノナリ。

道德上ノ責任ハ外部ニ顯ハレズト雖、政事上ノ責任ハ實ニ國會ニ一ノ權力ヲ與フルモノナリ。即チ大臣ハ議院ニ於テ其政務ヲ代表セザルベカラズ、故ニ近世ノ憲法ニ於テハ大臣ハ議院ノ求メニ依リ議院ニ出席シテ辯明ヲナスノ責務アル明文ヲ掲ゲタリ、縱令斯ノ明文ナシトスルモ自己ノ利益ノ爲輿論ノ批評ニ對シ議院ニ於テ辯護スベキ已ムヲ得ザルノ地位ニ立ツモノナリ。加之國會ハ建議及決議ヲ提出スルノ權ヲ有シ又其豫算可否決議ヲ有スルガ故ニ、政府ハ幾分力議院ニ牽制セラル、モノナリ。故ニ大臣ノ政事上ノ責任ニ於ケル効果ハ實ニ明確ナリ。

以上論ジタル事項ハ平時ニ於テ國家ノ最高等官タル者ノ故意ニ憲法及法律ニ背犯スルヲ防グニ充分ナリ。然レドモ危急ノ場合ニ於テハ既ニ陳ベタル如ク範圍廣大ナル法律上ノ責任ト雖、保障ノ效ヲナスコトナシ。

其他大臣彈劾ハ不羈獨立ノ行政裁判所ヲ設クルニ至リ殆ンド全く其實際ノ必要ヲ失フベシ。憲法ニ於テ各個人ニ與ヘタル權理ハ大臣ノ隨意及其解釋ニ依テ左右セラレズシテ、獨立裁判所ノ保障ヲ受ルニ於テハ實ニ法律ヲ維持スルノ注意至レリト謂フベシ。

以上陳ベタル理由ニ依リ、予ハ今日起草ノ憲法ニ於テ單ニ大臣責任ノ條ヲ掲ゲ、其大成ヲ歷

史上ノ進歩ニ任ズルヲ當然ト信ズ。

五 予ノ說ニ同意セラル、ニ於テハ是ヨリ下附セラレタル第三問ニ答ヘント欲ス。予ノ見ル所ニ據レバ凡ソ國會ニ大臣彈劾ノ權ヲ與フベシトスルハ唯故意ヲ以テ國法ニ背犯スル場合ニ限ルベク、且其判決ハ終身國家ノ官吏タルノ能力ヲ失ハシムルヲ以テ足レリトスベシ。刑事裁判ニ於テ告訴ノ權ヲ檢事ニ屬セシムルトキハ、大臣ノ職務犯ニ於テ檢事ノ告訴ナキ場合ニハ國會ニ其告訴權ヲ與フベシ。然レドモ彈劾ト告訴トハ自ラ其處理ヲ異ニセザルベカラズ。何トナレバ告訴ノ場合ニ於テハ固ヨリ通常ノ刑事裁判ニ屬シ、而シテ其異ナル所ハ單ニ檢事ノ告訴ニ據ラズシテ國會ノ告訴ニ據ルニアレバナリ。

予ノ主意ニ同意セラレザルニ於テハ其詳細ナル理由ヲ與ヘラレンコトヲ希望ス。

千八百八十七年一月七日

モ ス セ 拜

第十四條

內閣總理大臣各省大臣ノ進退ハ總テ天皇ノ大權ニ由ル。

第十五條



法律勅令及其他國事ニ係ル詔勅ハ、内閣總理大臣及主任ノ大臣又ハ臨時代理ノ大臣奉勅對署ス。

### 大臣ノ對署

凡ソ君主ノ裁可ヲ經テ發布スル所ノ法律一般ニ關スル規則及命令ハ、主任ノ大臣之ヲ起草說明シテ君主ニ具上シ、親署ヲ受クルヲ以テ例トナス。

數省ニ關ル法律規則ハ其長官相合議シテ之ヲ起草シ、君主ニ具上セザルベカラズ。而シテ又各省ニ關ル法律規則又ハ全國一般ニ關ル重要ノ法則ハ、諸長官ノ合議起草ニ成ルヲ以テ例トナス。

凡テ君主ノ名ヲ以テ公布スル法則ニハ其主任ノ長官或ハ數長官或ハ其事件ニ依リ諸長官ノ對署アルヲ例トス。何トナレバ此法則ハ常ニ各長官ノ手ニ成ルヲ以テナリ。

此ノ制度ニ付獨逸各邦ノ憲法中ニ明文アリ。今其例ヲ舉グレバ「バイエルン」國千八百四十八年五月四日ノ大臣責任法第四條第四條ニ云、

國王ノ發布スル條則ニハ其主任ノ大臣又ハ臨時ノ代理官ヲシテ對署セシム。此對署ナキト

キハ其條則ハ之ヲ實施スルヲ得ズ。

大臣ノ對署ナクシテ發布セシ條則ノ施行ヲ擔任スル官吏ハ其職權ヲ濫用シタルモノトス。舊司撰侯國「ヘッセン」千八百三十一年憲法第百八條ニモ亦數省又ハ諸省ニ關係スル政務ニ付發令スルニハ其各大臣之ニ對署スベキ旨ヲ掲ゲタリ。

此制度ノ事理ニ適スルハ斯ノ明文ナキ國々ニ於テモ實際ニ此制ヲ用ユルニ依テ知ルコトヲ得ベシ。且夫一大臣他ノ大臣ノ同意ヲ待タズシテ自己ノ意ヲ其職權ニ專用セバ、是其大臣ハ實ニ其職ヲ奪ハレタルニ均シ。而シテ主任ニ非ル大臣其發令セシ條則ノ實施ヲ遜讓スルヲ以テ主任ノ大臣ニ要請スルハ理ノナシ能ハザル所ナルベシ。大臣侮辱ヲ被ムル事果シテ斯ノ如クナルバ、有名無實ノ大臣タルニ甘ズレバ已マン。然ラザレバ其職ヲ退クノ一方アランノミ。一省ヲ統理スルニ名實其人ヲ殊ニスル如キ不穩ノ情況ハ況シテ永續スルノ理アラザルベシ。

普魯西國千八百五十年ノ憲法第四十四條ニハ前ノ如キ規定ヲ載セズシテ、單ニ國王ノ政令ハ一大臣ノ對署ヲ要スト云ヘリ。而シテ此條ニ依リ政令ハ二重ノ效力ヲ有ス。一ニ曰ク其政令ハ此對署ニ由テ有效トナル。即チ實施セラル、ヲ得、二ニ曰ク其署名セシ大臣ハ責任ヲ有スル是ナリ。

第二ノ點ハ未ダ其重要ナルヲ見ズ。何トナレバ普國ニ於テハ大臣ハ唯國王ニ對シテノミ



責任ヲ有スルヲ以テナリ。但シ將來ニ制定スベキ大臣責任法ハ今ニ至ル迄未ダ發布セラレズ。

第一ノ點ニ至テハ諸官衙ハ勿論民衆ニ就テモ亦重要ノ關係アリ。何トナレバ一ノ大臣ノ對署ヲ經ザル條則ハ、何人ニ就テモ無効ニシテ、裁判所及行政ノ官衙ハ之ヲ施行スルノ義務ナケレバナリ。

此四十四條ノ精神ハ其發令ニ關係スル諸大臣、或ハ少ナクトモ其中ノ一大臣ノ對署ヲ要スト云フニ在リ其理左ノ如シ。

- 一 事理ニ於テ然ラザルヲ得ザレバナリ。
- 二 千八百十七年十一月三日ノ勅令ニテ各大臣ハ其省ニ關係アル法律規則ノ草按ヲ起シ、內閣ノ議定ヲ經テ國上ニ具上スルノ制ヲ定メタレバナリ。
- 三 已ニ千七百十九年ノ規則ニ依リ總テ公布セントスル條則ハ其關係大臣ノ署名ヲ要スルコトヲ定メタリ、是當時國王ノ親署ヲ公正ナラシメテ其濫用ヲ防グノ趣旨ナリシナリ。
- 四 各大臣ハ其主任ノ政務ニ付議院ニ向テ辯護ヲ爲スノ責アレバナリ。是レ議院ノ信任ヲ得タル人ヲ以テ內閣ヲ組織スル制ニ依ラズ、從テ諸大臣ハ君主及議院ニ對シテ聯帶責任ヲ有スルコトナキ國ニ於テハ殊ニ必要ナリトス。

是故ニ普國ニ於テハ凡テ君主ノ發令ハ其事件ニ依リ一大臣又ハ數大臣又ハ諸大臣之ニ對署スルヲ以テ例トナスト雖ドモ、憲法上此等ノ事ヲ明記セシニ非ザレバ其發令ノ唯一大臣ノ對署アルハ、ミニシテ、官衙及人民ニ對シテ既ニ有效ナリトス、而シテ其對署セシ大臣ハ責任ヲ負フニ充分ナリト爲サルベカラズ、

此條ハ又其對署セシ大臣ノミ其責任ヲ負フニアラズ、之ヲ合議起草セシ各大臣ハ皆然リトハ精神ナリト解スベシ。蓋シ一大臣其主任政務ヲ處理スルニ際シテ、之ニ參與セザルノ理ナキヲ以テ、其大臣ハ通例其事ニ就キ責任ヲ有スル者ト認定セザルベカラズ。故ニ假令主任外ノ大臣其發令ニ對署スト雖ドモ、是レ責任大臣ニ代リ人民ニ向テ其責ニ任ズルモノニシテ、則チ責任大臣ノ代理者トシテ對署セシモノノミ。

故ニ此條ノ精神ニ從ヘバ各大臣互ニ相代理スルヲ得、而シテ其相代理スルヲ得ルハ常ニ責任大臣ノ故障アルノ場合ニ限ル。

然レドモ是レ唯通常ノ場合ニ就テ言フノミ、本條ノ文面上ハ只一大臣對署スベシトノミアリテ其何大臣タルベキヤハ之ヲ掲グズ。

是ヲ以テ國王數大臣又ハ主任大臣又ハ議院ト爭議ヲ生ゼル時ニ當リ、國王ハ憲法ノ文面ニ據テ其發布スル條則ニ主任外ノ大臣ヲシテ對署セシムルノ變體ナシト云フベカラズ。但シ普國ニ



於テハ國王自己ノ意ヲ以テ自由ニ諸大臣ヲ任免スルコトヲ得ルヲ以テ、此事容易ニコレナカルベシ。何トナレバ大臣ハ常ニ君主ノ信用ヲ有セザルベカラズシテ、大臣ハ議院ノ少數ニモ拘ラズ政務ヲ執ルコトヲ得レバナリ。若シ議院ノ信任ヲ得タル人ヲ以テ内閣ヲ組織スルノ國ニ於テハ、國王ハ大臣ヲ自由ニ任命スルコトヲ得ズ。且諸大臣ハ聯帶責任ヲ有スルヲ以テ、一大臣ノ署名ハ政事上重要ノ事ニ非ズ。

之ヲ要スルニ主任外ノ大臣ヲシテ對署セシムル場合ニアリ。一ニハ内閣ニ於テ紛議ヲ生ジ、又ハ君主ト内閣ノ間ニ紛議ヲ生ズルガ如キ、總テ君主ト内閣トノ間ニ異例關繫アルトキ。二ニハ主任大臣故障アルヲ以テ他ノ大臣ヲシテ代理セシムル時是ナリ。

若シ普國ノ内閣ニシテ聯合内閣ナラシメバ、其發布セントスル諸法律ニ大宰相ノ對署アレハ充分ナルベシ。然レドモ普國ニ於テハ諸大臣ハ其主任ノ政務ニ於テハ皆獨立シテ之ヲ處理セリ。故ニ其主務長官ノ署名ニ代ルニ大宰相ノ署名ヲ以テスルコト能ハザルヲ例トス。

普國憲法第四十四條ニ就キ一定ノ見解ヲ下スベキ一ノ場合アリ。即チ公共ノ安寧ヲ維持シ、或ハ非常ノ國難ヲ防止スル爲ニ法律ノ效力アル命令、即チ臨時法ヲ發布スルノ場合はナリ。此命令ヲ發布スルハ憲法第六十三條ニ記スル如ク内閣諸大臣皆責任ヲ有スベキガ故ニ、又常ニ諸大臣ノ對署ヲ經ベキナリ。

ロエスレル

大臣ノ對署ノ件ニ關シ、

ゲラルグマイエル著獨逸國法論云

大臣ノ對署ハ別段ノ規定アラザル限りハ大臣一名ノ對署スルヲ要ス。然レドモ大臣一名ノ對署ハ唯其對署シタル大臣ノ政務ニ參預シタルコトノミヲ證明スルモノニシテ、他ノ大臣ノ之ニ參預シタルヤ否ニ付キ證明ヲ與ヘザルモノナリ。又對署ハ勳章及名譽記章ヲ授與シ又ハ君主一己ノ意見ヲ表シ（國會ニ勅使ヲ差シテ演述セシムル場合等）軍隊ニ命令ヲ發スル場合ニ於テハ之ヲ要セズ。但兵政ノ事項ニ關シテハ之ヲ要ス。又君主ノ新教會ニ對シ、僧正ノ權利ヲ施行スル場合ニ於テモ之ヲ要ス。何トナレバ此事國務ニ屬セザレバナリ。此ニ反シ大臣ヲ任命シ特赦ノ權利ヲ施行スルニハ對署ヲ要ス。云云

第十六條

參事院ハ内閣ノ諮問ニ應ヘ、法律勅令ヲ草按シ及特定ノ條項ニ就テハ行政ノ事務ヲ審査ス。



(參事院ハ法律ノ疑義ヲ説明ス)

(問)

參事院ノ設ハ各國ニ於テ其構成ト需要ヲ異ニシ未ダ政事家ノ歸一ノ論點アラザルガ如シ。  
 或ル國ニ於テハ中古ノ沿習ニ從ヒ、參事院ヲ以テ即チ内閣トシ、政事上最高ニシテ又最樞要  
 ナル機關トスルアリ(瑞典丁抹ノ如シ)又或國ニ於テハ參事院ヲ以テ内閣ニ次グノ<sup>イニシテ</sup>獨立及  
 永<sup>ルチベユエル</sup>久ノ機關トシ、立法上練達ノ人物ヲ得、且内閣ヲ監督スルノ權任ヲ帶ビ、以テ君主ヲ補翼  
 セシムルアリ(佛國拿破翁氏ノ時ノ如シ)又或國ノ如キハ單ニ榮譽上ノ<sup>イニシテ</sup>組織トシ、此ヲ以  
 テ老幼及碩學ノ人ヲ牢落スル空名ノ器械トナシ、之ヲ實用ニ充テザルナリ。  
 參事院ノ設立ハ果シテ立憲國ニ於テ欠クベカラザル必要アル乎。又ハ若シ歷史上ノ沿革ニ於  
 テ特別ノ事情ナカラシメバ新ニ之ヲ設クルノ要用アラザルベキ乎。  
 若シ參事院ニシテ獨立機關タルノ性質ヲ有セズ、其僚員ハ唯タ内閣ノ指揮ノ下ニ勤務スル者  
 ナラシメバ、是レ一ノ書記室ニシテ參事院ニハ非ザルベシ。  
 右ノ問題ニ付貴下ノ意見ヲ煩ハス。

明治二十年五月十日

ロエスレル氏貴下

井上

(答)

重要ナル諸國ニ於ケル參議院ニ關スル規定ヲ左ニ列舉ス。  
 普國、千八百十年十月廿七日ノ勅令。  
 參議院ハ皇族、大宰相、大臣其他ノ行政部長官<sup>スタルククレイエル</sup>内閣書記官及任期ヲ限り、或ハ或ル事件ニ關シ  
 テ國王ノ任命スル人ヨリ成立ス。參議院ノ職掌ハ單ニ諮問評議ニ止マルモノニシテ、法律勅令  
 ヲ發スルトキ、又ハ諸省ニ共通スル事件ニシテ協議合ハズ、殊ニ參議院ノ意見ヲ問ヒタルトキ  
 ニ於テ之ヲ行フ。千八百十七年三月廿日ノ勅令ヲ以テ參議院ノ組織ヲ改正シ、大臣ノ外最高等  
 文官即チ最高法院長、會計検査院長、州長、國王ノ樞密議官及大將、司令將官ヲ以テ議官トシ  
 只國王ヨリ其議ニ付シタル事件ノミヲ評議スベキモノトセリ。參議院ハ普國ニ於テ法律上之ヲ  
 廢シタルニ非ザルガ故ニ、何日タリトモ其會議ヲ開クヲ得、然レドモ其職務ハ千八百四十年ニ  
 憲法ヲ施行シタルニ依リ中絶シ、爾來其會議ヲ開クハ甚稀レニシテ、其之アルハ例外ナリト  
 ス。實際其職掌ハ千八百十四年ニ組織シタル内閣ノ手ニ歸セリ。



埃國、千八百六十一年二月二十六日ノ勅令。

參議院ハ皇帝及内閣ニ對シ評議上ノ保證ヲナシ、法律案、普通ノ命令及其他ノ事件ニ關シテ意見ヲ陳ブ。予ハ此勅令ノ原文ヲ有セザルガ故ニ其詳ナルコトヲ知ルコト能ハズト雖、大凡其組織ハ普國ニ於ケルモノト同一ナリト思考ス、千八百六十八年六月十二日法律ヲ以テ參議院ヲ廢シタル主モナル理由ハ、皇帝ト主任大臣トノ間ニ無責任ナル皇帝ノ輔佐官ヲ置クヲ以テ便宜ニ非ズト謂フニ在リ。

巴威爾國、千八百二十五年十一月十八日ノ訓令。

參議院ハ國王ノ勅選シタル皇族、大臣及退官ノ大臣其他ノ高等官吏ノ任命セラレタルモノヨリ成ル。而シテ其職掌ハ法律案及勅令ニ對シテハ評議ノ官トナリ、歸化、官吏懲戒、權限爭議ノ事件ニ對シテハ議決ノ官トナル。然ルニ權限爭議裁判所及行政裁判所ヲ設立シタル以來其權限爭議ニ關スル職掌ヲ制限セラレタリ。憲法ニ據レバ巴威爾國ニ於テハ豫メ參議院ノ意見ヲ問ヒタル上ニ非ザレバ法律ヲ發布スベカラズ。但其承諾ヲ得ルノ必要ナルニ非ズ。

索撒國、憲法第四十一條。

參議院ハ之ヲ設クルコトヲ得ベク、其議官ハ諸省長官ノ外國王ニ於テ適任ト認メタル人ヨリ成ル。其存廢任意ナル參議院ノ外、最高等合議廳タル内閣アリ。

華諾爾國、憲法第六十九條。

參議院ハ必ズ之ヲ設クベキモノニシテ其職掌ハ重要ナル政務、殊ニ國王ノ發布スベキ法律勅令及行政官ノ免職ヲ評議シ、裁判所ト行政官廳トノ間ノ爭議ヲ裁決スルニ在リ。但其構制ハ獨リ國王ノ定ムル所ニ依ル。

瓦敦堡國、憲法第五十四條乃至第六十一條。

樞密院ハ國王ニ直隸スル最高等官廳ニシテ其職掌ハ專ラ評議ニ止マル。其議官ハ大臣又ハ行政各部ノ長官及特ニ國王ノ任命シタル參事官ヨリ成ル。凡テ大臣ヨリ國王ニ奏上スル重要ナル事件即チ憲法、官廳ノ編制一般ノ國家行政法律及普通ノ命令ニ關スル事件ハ、樞密院ニ於テ評議シタル後其意見ヲ添ヘテ國王ニ呈出スベシ。又或ル事件ニ於テハ裁決ヲナスベシ。

「クールヘッセン」國、憲法第八十四條第八十五條。



各省ノ長官ハ國君ノ特ニ任命シタル官吏ト共ニ内閣ヲ成ス。内閣ハ國君ノ裁決ヲ要シ、或ハ其重大ナルガ爲、各省ヨリ會議ニ付スル國務ヲ評議シ、各省ノ處分ニ對スル訴願及各省間ノ權限爭議ノ如キ事件ヲ裁決ス。

## 英國

參議院（ブリヂイカヴンシル）ハ大臣（キャビネット）及國王ノ特ニ任命スル者ヨリ成ル。參議院ハ凡テノ國務ニ於ケル最高等評議官廳ナリ。如此廣漠ナル意義ニ於ケル參議院ノ議官ハ其數甚多シト雖、是レ徒ニ其名アルノミニシテ實際其議ニ加ハルモノハ内閣員ノミナリ。之ヲ詳言スレバ英國ノ大臣ハ實際參議院ヲ組織スルモノナリ。又其或ル事務ハ通商局教育局ノ如キ特別ナル新設ノ官廳ニ遷レリ（其長官ハ大臣ノ列ニ加ハルモノナリ）參議院ニ於テハ國王親ヲ上席シ、或ハ首相ヲシテ上席セシムルコトアリ。參議院ノ集會ハ有名無實ニシテ内閣即チ大臣會議ニ於テ凡テノ事件ヲ評議決定ス。故ニ英國ニ於テハ實際内閣ノ外ニ參議院ナシ。

## 佛國

參議院ハ第一ニ行政裁判所及權限爭議裁判所タリ。第二ニ法律勅令及重要ナル行政事件ニ關

シ評議ヲナスノ機關タリ。參議院ハ多數ノ議員ヨリ成ル所ノ特別ノ官廳ニシテ、其議官中ニハ院長、議官其他ノ職員ノ階級ヲ分ツ。而シテ國君親ヲ其隨意ヲ以テ上席スルコトアリ、大臣ハ其職員タリト雖、常務ニ加ハラズ。抑々參議院ノ制ハ佛國ニ於テ盛行ハレタルモノニシテ、既ニ路易十四世ノ復古君主制ニ始マリ、拿破列翁第一世第三世ノ時ニ尤モ盛ナリシ。而シテ其目的トスル所ハ一方ニハ大臣ノ勢力ヲ權限シ、他ノ一方ニハ議院ノ勢力ヲ權限セントスルニ在リ。元來參議院ハ最高行政廳ナルガ故ニ、凡テ純粹ノ執行ニ屬セザル最高行政權ヲ行ヒシナリ。然レドモ吾人ガ嘗テ七月君主政<sup>ユリイモナリヒ</sup>ノ時代ニ於テ見タリシ如キ佛國參議院ノ地位ハ、今日ニ至リテ大ニ墮落シタリ。何トナレバ、其常議員ハ代議士院ヨリ任命セラル、ノミナラズ、特ニ其會議ニ付シタル事件ニ非ザレバ評議ヲナスヲ得ズ。其意見ヲ問フコトヲ必要トスルモノハ特ニ勅令ノミナレバナリ。但シ行政裁判所タル職掌ハ今日尙參議院ニ屬ス。

## 白國

白國ニ於テハ參議院ノ設ケナシ。然レドモ各省ノ長官タル大臣ノ外行政權ナキ大臣ヲ以テ大臣會議院ニ列セシムルヲ得。



瑞典國、千八百九年ノ憲法第四條以下ニ於テ「國王ハ政體ヲ定ムルヲ得ル如ク獨リ國ヲ統治ス」ト掲ゲタリ。然レドモ國王ハ參議院ノ意見ヲ聞キ其輔佐ヲ受クベキ者トス。又裁決ノ權ハ國王ニ在リト雖、參議院ノ議官ハ其意見ニ關シ責任ヲ有ス。參議院ノ議官ハ大臣又ハ國務尙書及議官六名、宮内大臣一名ヨリ成ル此レ等ハ皆國王之ヲ任命ス。

諾威國、千八百十四年ノ憲法第十二條以下ニ據レバ參議院ハ大臣一名及國王ノ任命スル議官七名以上ヨリ成ルト雖、臨時ノ事件ニ關シテハ又他ノ議官ヲ任命スルヲ得、國家行政ノ事務ハ國王ヨリ之ヲ議官ニ配付シ、凡テ重要ナル事件ハ之ヲ參議院ノ議ニ付シ、國王之ヲ裁決ス。議官ハ高等法院ニ於テ其意見ニ關スル責任ヲ有ス。

故ニ瑞典諾威ニ於ケル參議院ハ内閣ニ外ナラズ。然レドモ（荷蘭千八百十五年ノ憲法第七十一條乃至第七十六條西班牙千八百十二年ノ憲法第二百三十一條乃至第二百四十一條）荷蘭西班牙ノ如キ他ノ國ニ於テハ、參議院ヲ全ク諸省ト分離ス。荷蘭ニ於テハ大臣ヲ參議院ノ會議ニ加ハラシムルヲ得、葡萄牙千八百二十二年ノ憲法第五十四條ニ據レバ參議院ハ上ノ諸國ト同一ノ地位ニ立ツモノナリ。其議官ハ代議士ノ推選ヲ以テ任命セラル、モノナリ。予ハ此等ノ諸國ノ新憲法ヲ見ルコトヲ得ザルガ故ニ明言スルヲ得ズト雖、參議院ノ地位ハ今日已ニ改革セラレ

シナラン。

上ニ陳ベタル所ヲ通覽スルトキハ左ノ結果ヲ見ルベシ。

奧國白國ニ於テハ參議院ナルモノナシ。英國普國ニ於テハ實際内閣ニ於テ參議院ノ職掌ヲ行ヒ、稀ニ眞ノ參議院ヲ開クハ一定ノ場合ニ限り、或ハ國王ノ隨意ニ付ス。

各小國ニ於テハ參議院ハ單ニ内閣ヨリ成ルアリ。或ハ他ノ議官ヲ加ヘタル内閣ヨリ成ルアリ。佛國巴威爾國ニ於テ、内閣ノ外ニ特別ナル參議院ヲ設クト雖、其意見ヲ問フヲ必要トスル場合ハ法律ヲ以テ之ヲ定メタリ。

荷蘭西班牙葡萄牙ノ如キ二三ノ國ニ在テハ、舊憲法ニ據レバ重要ナル國務ニ關シテハ内閣ノ外ニ參議院ヲ置キ、諸般ノ事ヲ評議スル最高官廳トセリ。

予ノ意見ニ據レバ、參議院ハ專制君主國ニ於テノミ必要ナリトス。何トナレバ專制君主國ニ於テハ君主ハ經驗ニ富ミ、敏恬ニシテ法律ニ達スル人ノ輔佐ニ賴ラザルベカラザレバナリ。然レドモ專制君主國ノ内閣ハ元來參議院ナリ。各大臣ハ行政諸部ノ長官トナリ參議院ノ決議ヲ施行スル事務ヲ有スルノミ。

立憲國ニ於テ參議ヲ設クルモ、立憲ノ主義ニ戾ルモノニ非ズ。何トナレバ法律勅令等凡テ重要ナル事件ヲ精確ニ評議スルノ必要ハ、立憲國ニ於テモ亦同ジケレバナリ。然レドモ立憲國ニ



於テハ責任アル大臣ノ地位ニ對シテ、參議院ノ地位ヲ定ムルコト甚困難ナリ。若シ參議院ニシテ國王ノ最上輔佐官タルノ職ヲ執リ、內閣ト共ニ不羈ノ地位ヲ占ムルトキハ、內閣ハ第二ノ地位ニ下リ、裁決ノ權ハ參議院ニ歸スベシ。若シ參議院ニシテ單ニ諮問評議ヲ以テ大臣ヲ輔佐スルニ止マルトキハ、裁判權ハ大臣ニ歸シ、議官ハ外觀ニ於テ大臣ヨリ上等ノ地位ヲ占ルニモセヨ、實際省部ノ官吏タルニ外ナラズ。數多ノ國ニ於テ參議院ヲ廢シ、或ハ之ヲ存スルモ往時ノ勢力ヲ失ヒタルハ此理由ヨリ來ルモノナリ。現時ニ至リテハ大臣ヲ以テ國王ノ勢力アル輔佐官トセザルノ國アルコトナシ。現時ノ大臣ハ凡テ政事上ノ問題ニ於テ、國王ト代議士院ノ間ノ媒介人ナルガ故ニ、國家機關ノ間ニ別ニ不羈ノ機關ヲ挿加スベカラズ。此レガ爲ニ大臣ハ二重ノ地位ヲ執ルニ至リタルハ當然ニシテ、一方ニ於テハ國君ノ最上輔佐官トナリ、他ノ一方ニ於テハ行政長官トナルガ故ニ、其事務大ニ増加シ、大國ニ於テハ其責任ニ堪ヘザルニ至ル。然レドモ近來ノ進歩ニ於テハ大臣ノ事務ヲ減ゼンガ爲、諸省ノ官職即チ次官局長等ヲ置キ、行政事務ノ一部ヲ輔佐代理セシムルニ至レリ。但最上ノ裁決ヲナス所ノ行政長官タルモノハ、今日モ亦大臣ニ在ルガ故ニ、執行及議決ノ權ハ大臣ノ一身ニ集リ、兩ツナガラ利益アルモノトス。何トナレバ議決ト執行トヲ分離スルトキハ行政ノ統一ト活潑ヲ維持シ難ケレバナリ。

此ノ故ニ予ハ立憲上機關タルノ資格ヲ有スル參議院、即チ皇帝ノ上席ヲ以テ必ず立法ニ參與

スベキ參議院ヲ設立スルヲ賛成セズ。君主ニ二個ノ最上ノ輔佐官アルトキハ、必ず爭議軋轢ヲ生ズルヲ免レズ。而シテ終ニ一利アルヲ見ズ。立憲國ニ於テハ政府ハ既ニ國民ノ鈴束ヲ受クルガ故ニ、自家ノ脚下ニ於ケル爭議軋轢ヲ回避セザルベカラズ。

若シ參議院ヲ設ケント欲スルトキハ、其組織ニ注意シテ內閣ノ勢力ヲ減殺スルコトナク、之ヲ強大ニスルコトヲカメザルベカラズ。大臣ニシテ總理大臣ノ下ニ立チ內閣ヲ組織スルニ於テハ、事實上即チ參議院ニシテ政略上ノ需用ヲ感ズル場合ニハ任意ニ行政權ヲ有セザル議官ヲ以テ其僚員ヲ増加スルコトヲ得ベシ。此內閣ハ重要ナル國務ニ就キ、獨リ國王ノ最上輔佐官トナリ他ノ同等或ハ上等ノ評議機關ト競爭スルノ患ナカラシムベシ。

內閣ニ威權アル議官ヲ具ヘ、政事上一切ノ事件ニ於テセズ、獨リ法制ノ爲ニ其評議ノ効力及深慮ヲ添フルハ予ニ於テ甚ダ便宜ナリト信ズ。此ノ政府ノ職掌ノ範圍ハ甚ダ重大ニシテ、一身ニ威權ヲ具ヘザル下等官吏ヨリ成ル所ノ內閣ノ一局ニ專任スベカラズ。大臣ハ法律ノ最後ノ決定ヲ一身ニ負任スル爲必要ナル時日ヲ有セザルノミナラズ、又常ニ必要ナル專門學ヲ有スルモノニ非ズ。近來立憲國ニ於テ立法ノ往々粗漏不完全ニシテ、數々法律ノ改正ヲ要スルハ必要ナル卓識ヲ以テ之ヲ起草セザルニ因ルハ掩フベカラザル事實ニシテ、議院ニ於テ此弊ヲ療シ得ルコト極メテ稀レナリ。立法ノ爲參議院ヲ設クルハ、予ノ見ル所ニ依レバ數々國家生活中缺點ヲ



補フモノニシテ、其職掌ハ内閣ノ提出シタル法律勅令草案ヲ論議シテ、之ガ意見ヲ陳ブルニ在リ。又參議院ノ議官ハ經驗ヲ有シ、其事件及法律ニ熟達スル人物タルベキガ故ニ、官吏ノ外又精神上拔群顯著ナル地位ヲ有スルモ、政事上ノ要路ニ立ツヲ欲セズ。純粹ノ學術ヲ以テ國家ニ事ヘント欲スル人物ヲモ之ニ加ヘザルベカラズ。而シテ議官ハ必ズ勅任タラザルカラス。其上席ハ皇帝ニ非ズシテ議長ニ任ゼザルベカラズ。退官セル大臣、元老院議官、高等裁判官其他威望アル人ハ尤モ此ノ任ニ適スベシ。此參議院ニハ裁決ノ權ヲ有セシメズ、只意見ヲ陳ベシムルニ止ムベク、而シテ事件ハ内閣ノ便宜ニ任ズ、議官ノ職ハ兼務ナルベカラズ專任ノ優給官タラザルベカラズ。如此參議院ヲ設クルハ勅令ヲ以テスベキガ故ニ之ヲ憲法ニ掲グベカラズ。

如此參議院ヲ設クルハ必要ナリト謂フニ非ズ。又立憲制ニ於ケル國家機關上缺クベカラザルニ非ズ。然レドモ適當ノ人物ヲ以テ之ヲ組織スルニ於テハ法律案ヲ詳細ニ審査スルノ利益少小ナラザルベシ、比斯馬耳克侯ハ立法上ノ考案ニ於テ、如此參議院ノ輔佐ヲ受クルノ價値ヲ賤蔑シタリ。但シ此斯馬耳克侯ハ近來フオルケスウィルトシヤト經濟顧問ヲ創設シ、普國ノ參議院ヲ再興シタリト雖、是レ只臨時或ル事件ノ爲メニ設ケタルモノナリ、加之普國參議院ノ組織ハ其宜キヲ得ル者ニ非ズ。元來參議院ハ常置ノモノニシテ常ニ其事務ヲ繼續シ、以テ立法及國家ノ需要ヲ熟知セザルベカラズ。又參議院ハ純粹ノ學術上ノ關係ニ於テ行政ノ統一及法律上ノ秩序ヲ代表スベ

ク、大臣ノ政略ノ區域ニ侵入スベカラザルナリ。

千八百八十七年五月十六日

ハ・ロエスレル拜

### 第四章 元老院及代議院

#### 第十七條

天皇ハ元老院及代院ノ輔翼ニ依リ立法ノ事ヲ行フ。兩院議決ノ後天皇ノ裁可ヲ經ザレバ法律ヲ成サズ。

(問)

將來議院ヲ開クノ後ニ於テハ、法律ト命令トノ區別ヲ判然ナラシムベキハ固ヨリ當然ナリ。然ルニ法律ト命令トノ區分ハ何ヲ以テ準スタンダアルト據トシテ、一ハ之ヲ議院ニ付シ、他ノ一ハ之ヲ付セザルベキヤ。

甲ノ說ニハ曰、此ノ問題ハ其事件ヲ舉グテ一々ニ之ヲ豫言シ難シ、故ニ英國ニ倣ヒ總テ之ヲ



歷史上ノ沿革ト時世ノ適宜ニ任ゼンコト可ナリ。

乙ノ説ニハ曰、法律ヲ以テ定ムベキノ事件ハ憲法ニ之ヲ明記スベシ。即チ學國憲法ニ於テ法律ヲ以テ定ムベキコトヲ掲ゲタル條項ハ左ノ如シ。

- 國ノ疆界ヲ變改スルコト (第二條)
- 國民ノ身分及政權ノ得失 (第三條)
- 任官制限ノ約束 (第四條)
- 拿捕ノ法ニ關スル人身自由ノ制限 (第五條)
- 家宅安固ノ制限 (第六條)
- 治罪法刑法 (第八條)
- 公益處分ノ件 (第九條)
- 教會ノ公會ノ權ヲ得ル事 (第十三條)
- 政府教會ヲ管護スルノ權及其約束 (第十七條)
- 民婚ノ法制及民籍ノ記策 (第十九條)
- 教育規則 (第二十六條)
- 結社集會ノ制限 (第二十九條第三十條)

- 公會ヲ許否スルノ約束 (第三十一條)
- 信書祕密ニ關スル制限 (第三十三條)
- 兵役ノ規程及期限 (第三十四條)
- 軍兵ヲ内事ニ用ユル文官ノ請求 (第三十六條)
- 軍法司ノ構制 (第三十七條)
- 法官ノ現行セル追糾ヲ中止スルノ處分 (第四十九條)
- 王家法 (第五十三條)
- 攝政豫定 (第五十七條)
- チヅイルリスト (第五十九條)
- 諸執政ノ任責事件及其糾治處分及刑法 (第六十一條)
- 選舉區 (第六十九條)
- 民撰施行ニ關スル條規 (第七十二條)
- 諸法術ノ構制 (第八十九條)
- 特別裁判所ノ構制及權限法官ノ撰任、職務ノ權分及期限 (第九十一條)
- 內行ニ關スル件ノ訟廷公聽ノ制限 (第九十三條)



- 陪審ノ制（第九十四條）
- 諸法衙ト行政官トノ權限（第九十六條）
- 文武官吏職權ノ姦弊ヲ以テ法衙ニ提喚スルノ約束（第九十七條）
- 法官ヲ除ク外諸官吏ノ特別ノ權分（第九十八條）
- 租稅及科費（第九十九條百條百二條）
- 國債及政府ノ保證（第三三條）
- 統計院ノ構制及權理（第四四條）
- 邑區部ノ總代及政治（第五五條）
- 公布式（第六六條）
- 官制（第十十條）

丙ノ說ニ曰、帝國ノ憲法ノ如キハ理論ヲ満足セシムル爲ニ法律ヲ偏重シ、實際政事上ノ便宜ヲ闕如シタリ。今日本ノ爲ニ謀ルニハ民法、刑法、兵役法、租稅法ノ類凡ソ人民ノ權利義務ニ係ル事件ヲ除ク外ハ、總テ命令ヲ以テ之ヲ施行シ、以テ此ノ事業活潑ノ時世ニ適セシムベキナ

丁ノ說ニ曰、政府ハ命令ヲ以テ事業ヲ施行スルモ、議院ハ費用上ニ於テ之ニ干渉シ、政府ノ意嚮ニ反對シ之ヲ妨害シ得ベシ。故ニ丙ノ說ハ巧ナルニ似テ却テ其目的ヲ達スルコト能ハザルベシ。例ヘバ官俸及年金ノ制ノ如キ、政府ハ命令ヲ以テ之ヲ施行ストモ、議院其費用ノ歲出表ニ於テ異議ヲ容ル、トキハ、其命令ハ遂ニ實際ニ其効力ヲ失ハザルコトヲ得ズ。故ニ反對ニ於テ、寧ロ凡ソ議院ノ議ニ付スベキ歲計ノ費用ハ、總テ先ヅ其事件ヲ以テ之ヲ議院ニ付シ、法律トナサシメ、一旦既ニ法律ヲ以テ定メタル上ハ費用上ニ於テ異議アルコトヲ許サザルベシ。此ノ如キハ却テ將來ニ圓活ナル政略タルコトヲ得ベシ。以上四個ノ說ニ於テ、貴下ハ如何ナル判斷ヲ下サル、ヤ。明解ヲ賜ハンコトヲ請フ。

又帝國憲法ニ掲ゲタル法律ヲ要スル條々ニツキ、今日ニ適用スベク又適用シ難キ案件ノ説明ヲ賜ハ、尤幸甚ナリ。

明治十九年十二月

井上毅

（答）

法律ト命令トノ區別ハ專ラ行政ノ範圍如何ニ關スルモノニシテ、政務ノ部内ニ於テ行政ノ占



有スル地位ニ由リ定マルナリ。蓋法律ハ一般ノ規準ヲ包含スレドモ、命令ハ之ニ反シテ一般ノ規準トナル事ナシ。

英國ニ於テハ司法ト行政トヲ區別スルコトナシ。即チ法律ノ司法ニ關スルモノト行政ニ關スルモノトヲ判別セズ。凡ソ法律トハ人民ノ措置ニ關シ最上權ノ發シタル規準ヲ云フ。故ニ一般ノ規準ハ民法刑法又ハ其餘公然ノ事件ニ關スルヲ問ハズ、悉ク之ヲ法律ナリトシ、立法ノ道ニ依ルニアラザレバ制定スルヲ得ザルナリ。而シテ司法ノ一途ニ出ヅルガ如ク、立法モ亦均シク一途ニ出デザルベカラザルヲ以テ、英國王ハ命令ヲ發シテ一般ノ規準ヲ示スヲ得ザルヲ例トス。又裁判所ハ其命令ニ遵由セズ、是レ裁判所ハ法律ノミヲ遵守スベキニ由テ然ルモノナリ。蓋英國王ノ命令ヲ發スル權アル場合ヲ列舉スレバ左ノ如シ。

(一) 特ニ法律ヲ以テ其權ヲ與ヘラレタル場合。

(二) 國王ノ特權、即チ行政權ヲ行フ場合、例ヘバ戰權ヲ行ヒ（鎖港布告局外中立布告等）全國ノ厄難ヲ防衛スルトキノ如キ是レナリ。但其厄難防衛ノ場合ニ於テハ後日國會ノ承諾アルヲ要スルノミ。

(三) 法律ヲ施行スル場合。

是レヲ以テ之ヲ觀レバ英國王ノ命令ヲ發スル權ハ其範圍甚ダ狹隘ナリ。其然ル所以ハ理論上ヨリ來リタルニアラズ（殖民地ノ法律ハ布告ヲ以テ制定スルガ如シ）司法ト分離シタル行政ナキヲ以テ、行政自個ノ意義未ダ發達セズ。總テ行政ニ關スル事ハ司法部内ニ於テ之ヲ調理スルガ故ナリ。

倭國及獨逸國ハ勿論歐洲大陸ニ於テハ全ク英國ニ異ナリ、蓋法律ハ一般ノ規準ヲ定ムルモノナリ。行政（警察）ハ本ト利益便宜ヲ以テ其本旨トスルガ故ニ、一般ノ規準ノ與カル所ニアラズ。宜シク獨立シタル命令ニ依テ活動スベキナリトノ主義ハ當世紀ノ前半ニ於テ尙ホ獨逸全國ニ行ハレタリト雖、今ヤ漸ク立憲制度即チ法治國ノ世トナリテハ遂ニ廢絶スルニ至リタリ。抑モ行政ハ法律即チ規準ニ基ヅクベシトハ是レ則チ行政及行政裁判ヲ採用シタルノ證徴ニシテ、行政ハ便宜ヲ基トスト云ヘル舊主義ト相反シ、全ク新制度ニ屬スル者ナリ。而シテ漸次法律ノ區域ヲ擴張シ、且法律ト命令トノ區別ヲ判然ナラシムルノ必要ヲ生ジタルハ此新制度ノ結果ナリトス。

千八百十八年ノ巴威爾憲法ハ其第七章第二條ニ於テ、國會ノ承諾アルニアラザレバ新タニ人民ノ自由又ハ財産ニ關スル法律ヲ發スルヲ得ズト掲ゲタリ。蓋此規定ハ一目シテ判然スルガ如ク、立憲制ノ意義ニ於ケル立法ヲ以テ、殆ンド司法部内ニ限縮セシメタルノ陳腐ノ規定ニシテ、往古ノ獨逸ノ憲法ニハ往々見ル所ナリ。



千八百五十一年ノ<sup>イギリス</sup>憲法ニハ、<sup>巴國</sup>ノ如キ一般ニ法律ノ意義ヲ規定シタルモノナク、止テ法律ヲ以テ制定スベキ、事件ヲ列舉シタルノミ。而シテ其事件タル行政部内ニ屬スルモノ多キニ居ルトキハ<sup>イギリス</sup>憲法ハ往古ニ比スレバ立法ノ區型ヲ延イテ行政區域内ニ及ボシ、以テ國王ノ命令權ヲ限縮セントスルノ主旨ナリシヲ知ルニ足ルベシ。今ヤ立憲制度漸ク暢發シ、且法治國及行政裁判ノ思想漸ク普及シ、<sup>イギリス</sup>國ハ勿論獨逸全國ニ於テモ英國ニ於ケルガ如ク權利及國家ノ秩序ニ關スル事件ノ一般ノ規準ハ、法律ヲ以テ之ヲ制定スベシトノ原則行ハル、ニ至リタリ。故ニ獨逸諸國王ノ命令權ハ左ノ場合ニ減縮シタルコト殆ンド英國ニ異ナルナシ。

(一) 特ニ法律ヲ以テ其權ヲ與ヘラレタル場合。

(二) 國王ノ特權ヲ行フ場合、即チ臨時法律ノ効力ヲ有セシメテ發シタル命令警察規則、戰權上ノ命令是レナリ。

(三) 法律ヲ施行スル命令。

リヨネ氏其<sup>イギリス</sup>國國法論ニ於テ、凡ソ命令ニシテ憲法ニ適ヒタルモノハ警察規則ノ外、臨時ノ命令及法律施行ノ命令アルノミト論ジタルハ、是レ實際ニ著目セザル説ト云フベシ。蓋國王ノ行政權ハ法律ノ施行ニ止マラザレバナリ。

是ニ依テ之ヲ觀レバ、當時<sup>イギリス</sup>國ノ制度ハ殆ンド英國ニ同ジト雖、<sup>イギリス</sup>國ニ於テハ憲法ニ法律ヲ

以テスベキノ明文ヲ掲ゲザル行政事件ニ關シ、國王ハ仍命令權ヲ有スルノ點ニ於テ差アルノミ予ハ既ニ述ベタルガ如ク<sup>イギリス</sup>國王ノ此命令權ヲ行フハ絶エテ無キ所ナリト信ズ。

<sup>イギリス</sup>國ニ於ケル此制度ノ沿革ヲ一層明瞭ナラシメンガ爲メ二三ノ例ヲ舉示セントス。

法律ヲ頒布スルノ方法ハ元來行政事件ニシテ、以前ハ命令ヲ以テ制定シタリト雖、今ヤ憲法第六六條ニ據レバ其方法ハ法律ヲ以テ制定スベキナリ。

教育ノ事ハ其區域廣大ナル行政事件ニシテ、以前ハ悉ク命令ヲ以テ制定シタリト雖、今ヤ憲法第二十六條ニ據レバ法律ヲ以テ之ヲ制定スベキナリ。然レドモ未ダ其法律ヲ發セザレバ、以前ノ命令ハ其内二三ヲ除ク外今日尙行ハル、所ナリ。

結社集會印刷歸化等ニ關シテモ亦均シク以前ハ命令ヲ以テ制定シタリト雖、今ヤ法律ヲ以テ之ニ代ヘタリ。

此ノ如キ沿革上ノ問題ハ其國ノ情況ヲ參照スルニアラザレバ理論的ニ其問ニ答フルヲ得ズ。日本ハ目下英國ノ制度ヲ採用スルヨリモ、寧ロ<sup>イギリス</sup>國ノ制度ニ依リ、下ニ示スガ如ク尙ホ一層立法權ヲ減縮スルヲ可トス。蓋此制度ヲ概言スレバ行政事件ハ舉ゲテ專ラ行政權ニ屬シ、但憲法ニ於テ立法權ニ委ネタル事件ヲ除クノミ。

抑モ此制度タル日本國體ノ沿革ニ悖ラザルノミナラズ、亦最モ目下ノ時勢及需要ニ適スルモ



ノト云フベシ。從來日本ハ專政君主政體ナリシニ、今ヤ一變シテ他國ノ革命ニ依テ生シタル、全ク異種ノ制度ニ移ラントスルハ其當ヲ得タルモノニアラズ。況シテ人民ノ政事上教化ハ未ダ全國ニ普及セザルヲ以テ、全ク行政事件ノ制度ヲ國會ニ委ヌルコト能ハザレバナリ。又今日ノ日本ハ百般ノ新制ヲ設クベキノ際ニアラズヤ。專ラ必要トスル所ノ政事上ノ知識ハ、當時ニ在テハ獨リ政府ノミニ存スルノミナラズ、此際ニ於テ政府ハ他ヨリ牽制ヲ受ケザル自由ノ活動ヲ有セザルベカラザルニ、若シ國會ノ檢束ヲ受クルニ於テハ、行政ハ全ク妨碍セラレテ其發達ヲ失フニ至ルベシ。

是ニ依テ之ヲ觀レバ、學國制度ヲ修正シタルモノ、日本ニ取リ最モ適當スベシ、予ハ問題中ノ立法權ニ委ヌベカラザルモノニ朱印ヲ付シ、以テ重要ナル國ノ利益ヲ調理シ、適宜ノ行政者按テ實行シ有害ナル黨派ノ軋轢ヲ制スル爲ニハ政府ノ活潑ナル運轉ヲ妨ゲザラシメント欲スルナリ。

問題中第三說ニ於テ、人民ノ權利義務トハ如何ナルモノヲ云フヤ明瞭ナラズ。抑モ行政中ニハ固ヨリ此ノ如キ權利義務ヲ存スルモノナレバ、此說ニ據ルトキハ行政ハ殆ト擧ケテ立法權ニ從屬シ、一モ自由ノ餘地ヲ有セザルニ至ルベシ。若シ其權利義務ヲシテ民法刑法若クハ國法上ノモノニ止マラシムルトキハ、行政事件ハ悉ク命令ヲ以テ之ヲ制定スルヲ得ベク、是亦其範圍

廣キニ失シタルモノト云フベシ。何トナレバ立憲制度ニ於テハ立法權ニ一步ヲ讓ル所ナカルベカラザレバナリ。

第四說ハ總テ費用ヲ要スル事件ハ豫メ法律ヲ以テ制定スベク、然ラザレバ國會ハ其費用ヲ否決シ、以テ命令ヲ施行スルコト能ハザラシムルニ至ルベシト云フニ在リ。予ノ見ル所ニ據レバ此說ハ其理由ニ乏シキモノト云ハザルヲ得ズ。何トナレバ國會ハ必ず無限ノ豫算可否決權ヲ占ムベキモノニアラザレバナリ。又何トナレバ豫算ノ承諾ニハ一定ノ約束ヲ付スルモノニアラザレバ、政府ハ其承諾ヲ得タル豫算内ニ於テ幾分カ餘地ヲ有スルノミナラズ、又支出豫算ハ大部分ニ於テ承諾スルモノナレバ、或ル費用ヲ否決スルモ爲ニ政府ハ其命令ヲ發スルコト能ハザルニ至ルベキモノニアラザレバナリ。又法律命令ハ必ず一定ノ費用ヲ要スルモノニアラズ。一モ新ニ費用ヲ要セズ、現在ノ官吏或ハ金額ヲ以テ之ヲ施行シ得ルモノナシトセズ。蓋此說ハ實際國會ハ豫算可否決權ヲ以テ間接ニ政府ノ方向ヲ左右シ得ルガ如キ日本ニ不適當ナル議院政治ヲ贊成スルモノナリト云フベキナリ。

十二月二十三日

ロエスレル 再拜



### 法律命令ノ區別ニ關スル意見

第一法律ノ範圍ヲ命令ノ範圍ヨリ區別セントスルニハ、一方ニ於テ君主、又他ノ一方ニ於テハ國會ノ地位ヲ明カニ定メザルベカラズ。

白耳義憲法ノ例ニ從ヒ所謂國民主權及國權分割ノ主義ヲ取ルトキハ、君主ハ憲法及法律ヲ以テ許與セラレタル權利ヲ有スルノミ。故ニ此主義ニ據レバ君主ノ命令ヲ發スルノ權ハ分與權（プアートルト、アトリブション）トシテ特ニ之ヲ與ヘラレタルモノニ限り、君主ガ命令ヲ發セントスルニハ特別ノ準的ヲ證明セザルベカラズ。法學的ニ之ヲ言ヘバ「事ノ疑ハシキモノアルトキハ法律ヲ以テスベシト推測ス。之ヲ評言スレバ巴羅門ノ權内ニ在ラズト推測ス」

國權ヲ擧ゲテ君主ノ一身ニ歸シ、巴羅門ハ統治權ノ執行ニ關シ唯々之ニ參與スルノ權ヲ有スルノミトノ推測ヲ取ルトキハ、全ク上ト異ナリ、此主義ニ據レバ君主ハ特別ノ準的ニ從ヒ、其權利ヲ證明スルヲ要セズ。自然ニ其權利ヲ有スルトノ推測ヲ下スベク、巴羅門ノ權利ハ憲法又ハ法律ヲ以テ與ヘラレタルモノニ限ルノミ。

予ノ見ル所ニ據レバ日本ニ於テハ第二ノ主義ニ就テハ、疑問ヲ來タスベシ。皇帝ハ國家ノ元首ニシテ一切ノ國權ヲ一身ニ集合スルコトハ之ヲ歴史ニ徵シテ爭フベカラザルノ事實ナリ。即チ巴威里憲法第二章第一條ニ明文アル如ク、今發セントスル憲法ハ皇帝ノ隨意ニ委ヌベシ。憲法ヲ以テ自己ヲ制限セザル限リハ、之ヲ發シタル後ト雖往時ト同ク國權ヲ總攬スルモノナリ。命令權ハ國權ノ一部タリ。故ニ皇帝ハ其認許シタル法規ヲ以テ巴羅門ニ參與ノ權ヲ與ヘ、法式上ノ意義ニ於ケル立法ノ方針ヲ取ラシメザル限リハ、憲法發布後ト雖、往時ト均シク命令權ヲ有スルモノナリ。

日本現今ノ狀況ニ於テ疑フベカラザル此結果ハ、又強大ナル統治權ヲ有スル日本ノ需用ニ適應スベキハ明カナリ。

予ノ見ル所ニ據レバ豫メ疑義爭論ヲ避ケンガ爲ニハ此結果ヲ明言スルヲ要シ、殊ニ「ブルンチユリ」ノ如ク立法權ノ及ブ限リハ命令ノ區域ヲ制限シ、之ニ反シテ憲法上法律ニ依ルベキコトヲ明揭セザルモ、命令ノ範圍ニ非ズト論ズル著述家アルニ於テハ其結果ヲ明言スルハ最も必要ナリトス。

故ニ上ニ述ベタル巴威爾憲法ノ規定ヲ憲法中相當ノ位置ニ明揭スベシ。

皇帝ハ此憲法ニ法律ヲ以テスベキノ規定ナキモノニ於テハ、一切命令ヲ發スルノ權ヲ有ス。

此ノ如キ規定ヲ掲グルトキハ彼ノ國權分割論ニ原由スル所ノ、皇帝ハ法律施行ノ命令ヲ發ス



ルノ權ノミヲ有スルガ如キ妄想ヲ豫防スルヲ得ベシ。普國憲法ノ第四十條ハ即チ此妄想ニ陷レルモノナリ。「立法權ハ國王ト議院トニ歸ス」ト謂ヘル諸國ノ憲法ニ掲グル規定ノ誤ヲ避クルモ亦上ニ陳ベタル君主々義ノ主權ヨリ生ズルノ結果ニ依ルコトヲ得ベシ。抑々巴羅門ハ立法權ハ共有者ニ非ズ。凡ソ統治權ニハ一モ闕スルコトナシ。君主ノ德有ニ歸スル統一ハ立法權ヲ執行スルノ際法律ニ豫定シタル場合ニ於テ之ニ參與スルニ止マルハミ。立法權ハ元來國權ノ一部ナルガ故ニ獨リ君主ニ歸ス。君主ハ立法者タリ又其裁可ニ依テ法律ニ效力ヲ與フルモノハ君主アルノミ。立法權ヲ執行スルニ當リ制限ヲ受クルハ國會ノ承諾ヲ經ズシテ法律ヲ發布スルヲ得ズト云フニ在リ。故ニ左ノ規定ヲ設クルトキハ蓋此主義ニ合フベシ。

皇帝ノ法律ヲ發スルハ兩院ノ承諾ヲ經ベキモノトス。

更ニ完全ナル規定ヲ設ケント欲セバ左ノ如クスルヲ可トス。

此憲法ニ從ヒ法律ヲ以テ制定スルヲ得ル規準ヲ發布スルニ當リ、皇帝ハ兩院ノ承諾ヲ得ベシ。故ニ如何ナル場合ニ於テ法律ヲ要スベキヤハ憲法ニ於テ之ヲ定ムベク、概括的ニ之ヲ定ムベキヤ、詳細ニ法律ヲ以テスベキ、各場合ヲ掲グベキヤノ問題アルノミ。

第二 此區域ニ於ケル立憲制國法ノ重要ナル原則ハ「巴羅門ノ承諾ヲ經テ發布シタル法律ハ其承諾ヲ經ルニ非ザレバ變更又ハ廢止スルヲ得ザルコト」其結果タル命令ハ法律ニ矛盾スベカラ

ズト云フニ在リ。

英國ノ憲法ハ此原則ヲ以テ足レリトス。英國ニ於ケル巴羅門ノ立法權ハ國王ノ命令權ニ伴フテ發達シタルモノニシテ、國王ハ「バ羅門」ヲ「アクト」ハ存セザル所ニ於テハ命令ヲ發スルコトヲ得。然レドモ國家生活ノ範圍ニシテ逐次巴羅門法律ノ制定スル所トナリ、一タビ立法ノ區域ニ屬シタルモノハ其區ヲ離レザルガ故ニ、幾多ノ星霜ヲ經ルニ從ヒ命令ノ權ハ實際大ニ制限セラレタリ。

立法ノ方向ハ他ノ諸國ニ於ケル如ク英國ニ於テモ現行ノ規定ニ從ヒ政府ノ方向ヲ執ルベキ場合ニノミ限ラズシテ、命令ヲ以テスルヲ得ル場合ニ於テモ、法律ヲ以テスルコト往々之レアリ。政府ハ此ガ爲メ後來ニ向テ法律上已ムヲ得ザルニヨリ、數多ノ場合ニ於テ自ら束縛スルモノナリ。然レドモ國會ノ承諾ヲ得タルニ依リ、自己ノ責任ヲ免レ、其處分ヲシテ一層堅固永久ナラシメ、並ニ巴羅門ノ議稅權ニ生ズル困難ヲ避クルノ利益アリ。獨逸及普國政府ハ憲法上ノ義務ナキニ、猶法律ヲ以テ軍隊及行政官廳大部ヲ編成スルニ至リタルハ即チ以上ノ理由ニ基クモノナリ。

予ノ見ル所ニ據レバ、上ニ掲ゲタル原則ヲ日本憲法ニ掲グベキハ疑ヲ容レズ。何トナレバ、此原則ヲ掲ゲザルニ於テハ國會ノ立法ニ參與スル憲法上ノ權利ハ有名無實ニ屬スベケレバナ



リ。而シテ其原則ハ左ノ如ク規定スベシ。

巴羅門ノ承諾ヲ以テ發布シタル法律ハ、其承諾ヲ經ズシテ之ヲ變更シ、之ヲ説明シ、又ハ之ヲ廢止スルヲ得ズ。

予ノ見ル所ニ據レバ、圈點ヲ付シタル文字ヲ用ユルコト必要ナリ。何トナレバ從來日本ニ於テ法律ト命令トノ區別ヲナサバリシガ故ニ、憲法發布前ニ法律トシテ發シタル規準ト雖、亦命令ヲ以テ之ヲ變更スルノ權ハ今後尙政府ニ屬スベケレバナリ。只憲法ノ規定ニ從ヒ法律ヲ以テ規定スベキ事件ニ關シテハ然カスベカラザルノミ。

故ニ普國憲法第百九條ノ如ク、憲法發布當時ノ狀況ヲ維持スル爲、規定モ亦左ノ如ク設ケザルベカラズ。

現行ノ法律及命令ニシテ憲法ヲ以テ廢止セザルモノハ、法律又ハ命令ヲ以テ之ヲ變更スル迄ハ其效力ヲ有ス。

第三 以上提出シタル規定外ノ主義上ノ區別ハ予ハ之ヲ設ケザルヲ可ナリト信ズ。

近來獨逸ノ學述ニ於テハ凡ソ人民ニ義務ヲ負ハシムル普通ノ規準ハ、必ズ巴羅門ノ承諾ヲ受クベク、即チ法律ヲ以テ發布スベシト云フ原則ヲ以テ法律命令ノ區別ヲナセリ。身體及財産ノ自由ニ關スル法律ハ國會ノ承諾ヲ要スル獨逸各邦ノ憲法（巴威爾憲法第七章第二條巴丁憲法第

六十五條等）ハ大體上ノ原則ト主義ヲ同クス。

然レドモ此等ノ規定ハ甚ダ漠然ナルガ故ニ、却テ爭論ノ源トナリ直チニ「規準トハ如何ナルモノヲ指サヤレ」ノ問題ヲ生ズ。此問題ニ關シテハ未ダ普ク世人ノ満足ヲ得ベキ答ヲ見ザル所ナリ。

又他ノ一方ヨリ見ルモ此主義ノ區別ハ予ノ見ル所ニ於テ、日本ノ現狀ニ於テ過度ニ皇帝ノ命令權ヲ制限スルノ弊アリ。上ノ諸邦ノ憲法ニ於ケルガ如キ規定ヲ設クルモ、政府ハ尙廣大ノ餘地ヲ有スベシト信ズルハ誤レリ。人民ノ尊奉スベキ規準ハ皆到底身體財産ノ自由ニ關係ヲ有セザルモノナキガ故ニ、實際皇帝ノ命令權ハ獨逸各邦ノ憲法ニ比シテ更ニ大ナル範圍ヲ保タザルニ至ルベシ。是ヲ以テ予ハ貴下ノ提出セラレタル問題ノ第三說ニ贊成ヲ表シ難シ。

予ハ第四說ヲモ贊成スルヲ得ズ。此說ノ如キハ予ノ所見ニテハ法律命令ヲ區別スルノ用ヲナサズ、其關スル所ハ現行ノ國法ニ據レバ命令ヲ以テスルノ權アルニモ拘ハラズ、實際政府ヲシテ法律ヲ以テ命令ニ代ヘシムルニ至ルベキ上陳ノ立法政略ノ問題ニ外ナラズ。蓋此方法ヲ撰ブハ法律上ノ理由ヨリハ寧ロ政略上ノ理由ニ出ヅルモノニシテ、議稅ノ困難ヲ回避スルノ目的ニ外ナラザルナリ。然レドモ「支出ヲ要スル事件ハ豫メ法律ヲ以テ制定スベシト云フ原則ニ至テハ殆ド之ヲ掲グ難キモノトス。何トナレバ之ガ爲ニ命令權ハ其尤重要ニシテ毫モ疑點ナキ範圍



ニモ效力ヲ及ボスコトヲ得ザルノミナラズ、行政ハ全ク其活動ヲ失フニ至ルベケレバナリ。立憲制ノ國ニ於テハ、命令權ハ幾分カ議稅ノ爲ニ制限セラル、ハ勿論ナリ。故ニ議稅權ヲ制定スルニ當リ其目的外ニ政府ヲ制限セシメザルノ方法ハ、予ハ他日議稅權ニ關スル意見書ニ之ヲ陳ベントス。但議稅權ハ此ニ論ズル問題ニ大ナル關係ナキモノト信ズ。

以上所陳ノ外他ノ法律命令ニ關スル主義上ノ區別ハ之ヲ提出スルヲ得ズ。又從來之ヲ發見セザルガ故ニ日本ノ爲ニハ尤モ之ヲ提出スルヲ好マズ。

予ハ却テ貴下ノ提出セラレタル問題ノ第一說第二說ヲ贊成セントス。而シテ此兩說ハ正當ニ解釋スルトキハ衝突スルモノニ非ズ。

第四 英國ニハ固ヨリ法律命令ヲ區別スルノ原則アリ。其重ナルモノハ上文第二ニ論ジタル如ク英國ニ於テ發達シタルモノニシテ、法律ハ法律ヲ以テスルニ非ザレバ變更スルヲ得ズト云フコト是レナリ。其他尙英國ノ法律ニ於テハ命令ヲ以テ制定スベカラザル事件ヲ掲ゲタリ。

又他ノ一方ヨリ見ルトキハ普國ニ於テハ「憲法ニ列記シタル事件ニ限り法律ヲ以テ制定スベシ」トノ說ハ正確ナラズ。普國憲法ノ主義ハ他ノ獨逸各邦ノ憲法ノ主義ト相同ジ。普國憲法ニ據ルモ（獨逸憲法ニ於ケル如ク）人民ノ尊奉スベキ普通ノ基準ハ單ニ法律ヲ以テ發布スルヲ得ベキモノニシテ、是レ世ノ稱賛ヲ得タルノ說ナリ。予ノ所見ヲ以テモ亦正當ナリト信ズ。其他

普國憲法ニ法律ヲ以テ制定スベキ許多ノ事件ヲ列舉スルモ、之ガ爲ニ此事件ニ限リ命令ヨリ分離シタリトノ論斷ヲナスベカラズ。普國憲法獨逸憲法、第五條ニ於ケル如ク、其第六十二條ニ於テ事實上ノ意義ニ於ケル法律ニ關スル普通ノ原則ヲ掲ゲタリ。

予ハ既ニ論ジタル如ク日本憲法ニ此ノ普通ノ原則ヲ掲グルヲ不便ナリトスルガ故ニ、英國ノ例ニ倣ハズ、普國ノ例ニ倣フヲ可トス。然レドモ又他ノ一方ヨリ見ルトキハ此關係ニ於テ諸國ノ憲法ト一致スル普國憲法ハ、各事件ヲ列舉シタル爲ニ如何ナル場合ニ於テモ（普國憲法ノ主義ニ據レバ）命令ヲ以テスベカラザルモノヲ指示シテ、以テ標準ヲ示スノ便アリ。此ノ如キ規定ハ英國ノ諸法律ニモ散見スル所ナリ。

予ハ數回陳ベタル如ク主義上君主ニ屬スベキ命令權ヲ第二ニ掲ゲタル原則ノミヲ以テ制限セシムコトハ能ハザル事ナリト雖、亦如何ナル普通ノ原則ヲ以テスルモ、其制限廣キニ失スルガ故ニ、到底皇帝自ラ憲法ヲ以テ豫メ命令ノ範圍ヲ脱セシメント欲スル事件ヲ憲法ニ列記スルノ外、他ニ其道ナシト信ズ。然ルトキハ其餘ノ事ハ英國ニ於ケル如ク日本國自然ノ發達ニ任ズルハ外ナク、而シテ其發達ハ法律ヲ以テスルニ非ザレバ變更スルヲ得ズト云フ原則ニ基クモノナリ。

第五 今ヤ命令ヲ以テ制定スベカラザル各事件ヲ審査スルニ當リ、予ハ可成普國憲法ノ順序ニ



從フハ貴下ノ提出セラレタル問題ニ尤モ適合スベシト信ズ。

普國憲法第二條ハ日本ニ於テモ適當ナリト信ズ。只々法律ナル語ヲ避クベキノミ、何トナレバ茲ニ掲グル所ハ規準ニ非ザレバナリ。故ニ左ノ如ク修正スベシ（第五十五條ニ同ジ）

國境ノ經界ハ兩院ノ承諾ヲ經ルニ非ザレバ之ヲ變更スルヲ得ズ。

同第三條ハ國民權ノ得喪ニ限り之ヲ掲ゲ、國民ノ諸權ヲ除クベシ。何トナレバ此語ハ其義汎漠ニシテ實際ノ效用ナケレバナリ。予ハ既ニ意見ヲ陳ベタル如ク、國民權ノ得有殊ニ歸化ノ要件ヲ憲法ニ掲グルヲ不可ナリトス。故ニ左ノ如ク規定スルヲ可トス。

國民權得表ノ要件ハ法律ヲ以テ定ム。

同第四條ハ官職ニ就クノ要件ハ單ニ法律ヲ以テ制定スルヲ得ト云フニ非ズシテ、其法律ヲ以テ制定シタル要件ニ合格スル限リハ、合格者ハ皆官職ニ就クヲ得ベシト云フニ在リ。官職ノ要件ヲ制定スルハ編成權ヨリ生ズルモノナルガ故ニ、命令ノ範圍ニ屬ス。是ヲ以テ法律ヲ以テ編成スルヲ要セザル限リハ（裁判所ハ然ラズ）其要件モ亦命令ヲ以テ制定スルヲ得ベシ（憲法及法律上ノ制限ヲ守ルベキハ勿論ナリ）若シ日本憲法ニ第四條ノ如キ規定ヲ掲ゲントナラバ、左ノ如ク修正ヲ加ヘテ以テ誤解ヲ豫防スベシ。

法律又ハ命令ニ定ムル要件ニ從ツテ云々

同第五條、第六條、第八條、第九條、第二十九條、第三十三條、○憲法ヲ以テ國家ニ對シ人民各自ノ權利ヲ安全ナラシメタルニ於テハ、之ヲ制限スルニハ必ズ法律ヲ以テスベキハ勿論ナリ。何トナレバ然ラザルニ於テハ此權利有名無實ニ屬スベケレバナリ。

第八條ノ如キハ警察規則ノ發布ニ於ケル如ク、法律ヲ以テ刑罰權ヲ他ニ委任セザル限リハ、立法權ノ範圍ニ存スベキ重大ナル事項ヲ掲ゲタリ。是レ立權制ノ國家ニ於テハ固ヨリ必要ナリ。同第十三條第三十一條○閣結權ヲ與フル皇帝ノ權利ヲ憲法ニ制限スルノ必要ナシ。漸次立法ノ進歩スルニ於テハ自ラ此關係ニ於テモ亦其發達ヲ見ルベシ。只予ハ其制限ヲ憲法ニ掲グルヲ要セズトスルノミ。

同第十七條第十九條第二十六條ハ實際ノ效用ナキ立法者ノ臺詞ナリ。

同第三十四條ハ日本憲法ニモ掲載スベシ。此事タル重大ナル國民ノ義務ナレバ宜ク國會ノ參與アルヲ至當トス。

同第三十六條ハ日本憲法ニ掲載スベカラズ。

同三十七條ハ無効ナリ。何トナレバ第八條及第八十九條ヲ以テ十分ニ其需用ヲ達シ得レバナリ。

同第四十九條ハ既ニ意見ヲ述ベタル如ク末項ノミヲ採リテ餘ハ削除スルヲ可トス。



同第五十三條○家憲ニハ巴羅門ヲシテ參與セシムベカラズト雖、亦之ヲ以テ憲法ヲ變更スベカラズ。此關係ニ於テ問題トナルモノハ王位繼承(第五十三條)丁年(第五十四條)攝政(第五十六條乃至第五十八條)ニ關スル規定ナリ。予ハ家憲ノ事ニ付テ有名ナル「シユルチエー」氏ト同ク普國憲法ノ規定ヲ模範トスベキコトヲ信ズ。然レドモ此事ニ關スル問題ヲ受ケザルガ故ニ、日本憲法ニ普國ノ如キ規定ヲ掲グベキヤ否ヤ、及其程度ヲ本論ニ加フベキモノニ非ズト信ズ。若シ此事ニ就キ鄙見ヲ求メラル、ナラバ、一應其通知アラシムコトヲ希望ス。要スルニ家憲ハ法律ニモ屬セズ。又命令ニモ屬セズ。

同第五十四條○帝室經費ハ命令ヲ以テ制定スベカラザル明白ナリ。如何ニ法律ヲ以テ制定スベキヤノ問題ハ本論外ニ屬ス。

同第六十一條ノ事ニ關シテハ既ニ意見ヲ陳ベタリ。

同第六十九條第七十二條○選舉法ノ重要ナル規定ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムベキハ勿論ナリ。予ノ所見ニ據レバ選舉區モ亦法律ヲ以テ制定スベシ。

同第八十九條ハ法律ヲ以テ制定スベキハ論ヲ須タズ。只左ノ如ク修正ヲ加フベキノミ。

諸裁判所ノ編成其權限裁判手續及裁判官ノ特別ナル權利義務ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム。

同第九十三條第九十四條第九十六條第九十七條ハ之ヲ採ラザル可トス。

同第九十八條ハ臺詞ナリ。

同第九十九條○會計豫算ハ法律ニ非ズ、予ハ此事ニ關シ第百條ヨリ第百四條ニ至ル迄ト共ニ議院權ニ關スル意見ニ之ヲ陳ベント欲ス。

同第五條ハ左ノ如ク修正ヲ加フベシ。

町村郡及州ノ代理及行政ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム。

然レドモ普國憲法第一乃至第四ニ掲グル如キ普通ノ原則ハ實效ナキノミナラズ、却テ弊害アリトス。而シテ左ニ其弊害ヲ列記セントス。

- 一 別法ノ規程ニシテ普通ノ原則ニ抵觸スルヤ否ヤノ爭議ヲ生ズルコト。
- 二 普通ノ原則ニシテ實際ニ效用アルヤ否ヤハ豫メ判定スル能ハザルコト。
- 三 憲法ノ要件アルガ爲容易ニ變更ヲナス能ハザルガ故ニ、政府ハ此區域ニ於テ有效ナル改正ヲナスニ當リ、束縛ヲ受クルニ至ルベシ(簡單ナル法律ニ於テモ政府ノ承諾ヲ要スベキニ)千八百五十三年五月廿四日ノ法律ヲ以テ本條ヲ改正シ、予ガ修正案ノ如クナレリ。

同第六條ハ弊害ナシト雖、必シモ必要ナルニハ非ズ。

同第十條ハ不可ナリ。官廳ノ編成ハ裁判所ヲ除クノ外命令ノ區域ニ屬ス。



- 一 皇帝ハ主義上命令ヲ發スルノ權ヲ有ス。
- 二 命令ハ憲法ニ於テ法律ヲ以テスベキ場合ニ限り制限セラルモノトス。
- 三 法律ハ左ノ場合ニ於テ必要ナリトス。
  - (伊) 巴羅門ノ承諾ヲ以テ發布シタル法律ヲ廢止シ又ハ變更スベキトキ。
  - (邑) 第五ニ掲ゲタル理由ニ據リ、憲法ノ特別ナル規定(又ハ後來ノ法律)ニ依リ法律ヲ以テ制定スベキ事件ニ關スルトキ。

ア・モスセ拜

第十八條

國ノ安全ヲ保ツ爲ニ、已ムヲ得ザルノ情狀ニ由リ、急施ヲ要スル事宜アルトキハ勅令ヲ發シ法律ニ代フルコトヲ得。

此ノ勅令ハ次ノ開會ニ於テ兩議院ノ承認ヲ取ルベシ。

(又)

第十八條

國會ノ叶同ヲ待タズシテ法律ヲ施行スル爲ニ、及國ノ安全ヲ維持スル爲ニ必要ナル勅令ヲ發行スルハ天皇ノ大權ニ屬ス。但勅令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ズ。

第十九條

法律ノ起案ヲ議院ニ付スルハ天皇ノ大權ニ由ル。(兩議院ハ法律起案ノ意見ヲ具ヘテ天皇ニ上奏スルコトヲ得)

第二十條

天皇ハ裁可スル所ノ法律ヲ公布シ之ヲ施行セシム。  
公布ノ方式及施行期限ハ法律ノ定ムル所ニ依ル。

(問)

兩院ヨリ成議ヲ進呈シタル後、或國ニ於テハ國王之ヲ制可シ、又ハ制可セザル旨ヲ國會ニ通知スベキコトヲ定メタリ(荷蘭)又或國ニテハ次ノ集會ニテ國王ヨリ制可ノ公告ナキトキハ其効ヲ有セズトノコトヲ定メタリ(丁抹)此ノ二ツノ方法ノ中何レカ擇デ取ルベキ者ナルヤ。乞教



(答)

此問題ニ關シテハ議決即チ法按ノ裁可ト分頒トヲ判別セザルベカラズ。

抑々立憲政體ノ本然ハ或ル關係ニ於テ議院ノ參與ヲ以テスルニ非ザレバ國權ヲ執行スルヲ得ザルニ在リ。即チ國權ノ執行ハ議院ノ承諾如何ニ依テ定マルニ在リ。蓋後會ノ議院ハ前會ノ議院ヲ繼承シ、前會ニ於テ終結ニ至ラザル議事ヲ繼續シ、其繼承權ニ依リ前議ニ與カルベキモノニアラズトスルノ原則ハ、英國ハ勿論歐洲大陸ニ於テモ是認スル所ナリ。故ニ議院ノ參與スベキ事件ニ在リテ、國王ハ議院ノ執務ニ於ケルト同一ノ期限ニ從フベク、若シ此期限ヲ過ルトキハ其未ダ議決ニ至ラザル事件ハ廢棄ニ屬シ、國王其裁可權ヲ行フコト能ハザルハ則チ上ノ原則ニ依テ然ルモノトス。

是ヲ以テ予ハ往古ニ起原シ近世尙英國巴威爾及其他ノ諸國ニ行ハル、所ノ議院不相繼承ノ制ヲ最モ正當ナルモノト信ズ。蓋、此制ニ依レバ國王ハ議院ヲ閉會スルト同時ニ其議決シタル事件ノ許否ヲ宣告ス。但憲法ノ改正ニ關スル場合ニ於テ、近時巴威爾ニ一年ノ思考期限ヲ定メタルモノアルノミ。夫レ議院ニシテ閉會セラレタルニ於テハ、既ニ法律上ノ存立ヲ失ヒ、且精嚴ニ立論スレバ此時ヨリ國王ノ許否ヲ受クベキ議決ハ法律上既ニ之アラザルノ理ナリ。

今ヤ議院ニシテ閉散サル、トキハ、其議事ニ關スル憲法上國王ノ權力ハ一たび既ニ終結スルモノナルガ故ニ、隨テ亦其裁可權ヲ行フコト能ハズシテ、此際ニ當リ決議ニ關スル國王ノ宣告ハ實ニ必要ナルモノナリ。其宣告ハ假令儀式ニ出ルニ過ギザルモ、國ト民トニ向テ自己ノ裁決ヲ議院ニ通告スベキノミナラズ、又其裁決ヲ與ヘズシテ議院ヲ閉會スベカラザルガ故ナリ。此兩關係ニ於テ國王ノ尊嚴ト議院ノ目的ニ適スルモノハ此ノ宣告ニ若クハナシ。英國ニ於テハ國王其裁可ヲ爲ス場合ニハ「國王之ヲ嘉ス」ト云ヒ、然ラザル場合ニハ「國王之ヲ勘考ス」ト云フ。如何ナル場合ニ於テモ各會期ノ終リニ一定ノ決答ヲ爲スハ之ヲ必要ナリトス。

或ル近時ノ憲法中國王ノ宣告期限ヲ後會マデ延引シ、或ハ閉會後或ル時日ニ及ボサシムルモノナキニアラザレドモ、正當ナルモノニアラズ。何トナレバ議院ニシテ一度閉會セシメラレタルトキハ既ニ其存立ヲ失ヒ、後會ノ開期ニ至ルマデ時日ヲ曠シクスレバナリ。故ニ此期限ヲ過ルトキハ沈黙ノ不承諾ヲ假定スベシト雖、予ハ適當ノ見解ニアラズト信ズ。何トナレバ元來沈黙ノ裁可アルベキノ理ナケレバナリ。

是ノ故ニ各會ノ後ニ於テ直ニ議事ノ許否ヲ宣告スルハ最モ正當ナルモノナリ。但或ル場合ニ於テ開會中ニ裁可ヲ與フルモ妨ゲアルコトナシ。

國王ニ與フルニ議事ニ對スル任意ノ宣告期限ヲ定ムルノ權ヲ以テスルハ、更ニ他ノ一ノ理由



ニ依リ予ノ賛成ヲ表シ難キ所ナリ。凡ソ法律ハ當時ノ情況ト需要トヲ酌シテ制定スベキノミナラズ、國王ニ此ノ權ヲ與フルトキハ國民及議院ニ於テ其決議事件ノ成否ヲ知ルニ由ナキガ故ニ、後會ノ執務ハ何等ノ事件ニ涉ルベキヤ、漠然トシテ察知シ難ケレバナリ。例ヘバ前會ノ法按ニシテ再度會議ニ付セラル、ヤ、又前會ノ建議ヲ廢却セラレタルモノト做スベキヤ知ルベカラザルガ如シ。

裁可ノ後ニ於テスル所ノ頒布ハ全ク其趣ヲ異ニシ、學國憲法第四十五條ニ從フモ、專ラ行政權ニ屬スルモノナルガ故ニ、其期限ニ至テモ亦全ク國王ノ意ニ放任セラレベカラズ。蓋、國王ニ此權アルガ爲メ既ニ其裁可ヲ經タル事件タリトモ、後日ニ至テ廢棄ニ歸シ或ハ延期セラル、コトアルハ固ヨリ當然トス。是レ既ニ頒布ヲ以テ法律ノ効力ニ於ケル一ノ要素トスルニ由來スル者ナリ。之ヲ要スルニ國王ニシテ其裁可シタル法律ノ頒布ヲ延期スルハ、特別ナル事由アル場合ニ限ルモノナリト假定セザルベカラズ。英國ハ國王ノ裁可ヲ得タル日ヨリ法律ノ効力ヲ有セシム。而シテ又稀ニ法律ヲ頒布スルノ期限ヲ規定スルノ國アリ。此頒布期限ハ特殊ノ異例ニシテ國王ノ行政權ヲ限縮スルモノナルガ故ニ、予ハ之ヲ賛成スルニ非ザルナリ。

十二月廿九日

ロエスレル 再拜

第二十一條

外國條約ニ由リ國疆ヲ變更シ、又ハ國ノ負擔ヲ起シ、及國民ノ公權ヲ制限スルニ涉ル者ハ、兩院ノ認可ヲ經ザレバ其効ヲ有セズ。

リオンネ氏普國國家學(抄擇)

リオンネ氏普國國家學云

憲法第四十八條ノ第二段ノ意義ハ左ノ二個ノ疑點ナキ能ハズ。

(イ) 第一ノ疑點ハ外國締約ニシテ國家ニ負擔ヲ與へ、又ハ各個ノ國民ニ義務ヲ課スベキ者トハ如何ナル締約ヲ指示スルヤノ疑問是ナリ。蓋シ此點ニ關シテ更ニ左ノ三種ノ說ヲ生ズ。其第一說ニ從ヘバ經常永久ノ負擔義務ニ限リ、第二說ニ從ヘバ締約明文ニ記載シテ直接ニ其事件及旨趣トスル所ノ負擔義務ヲ云ヒ、第三說ニ從ヘバ則締約ノ正文ニ記載スル者ノミナラズ、其執行ヨリ生ズル各種ノ負擔義務ヲ併セ、凡ソ國家或ハ各個ノ國民ニ義務ヲ負擔セシムル者ハ、何等ノ種類モ皆議院ノ承諾ヲ要スベキナリト云。故ニ此條



ニ付單ニ文法上ヨリ解釋ヲ下ストキハ、到底一ノ充分ナル確據ヲ與フルコト能ハザルナリ。何トナレバ國家ノ負擔ナル語ハ、狹隘ナル意義ニ於テハ財利法又ハ議稅權ノ事件ナル所ノ財利上ノ負擔（或ル金額ノ支拂）ト解釋スルコトヲ得ベク、而シテ各個人ノ義務ナル語ハ、狹隘ナル意義ニ於テハ憲法上單ニ法律ニ準據シテ課セラルベキ義務ト解釋スルコトヲ得ベシ。此ニ反シ廣括ナル意義ニ於テハ、負擔ナル語ハ應行又ハ不應行ノ爲ニ擔當シタル政府ノ各種ノ義務ヲ指示スル者ナレバ、此ノ場合ニ於テハ國家締約ノ大半ハ承諾ヲ要スベキ者ト理會セザルヲ得ザルナリ。之ヲ要スルニ彼ノ三種ノ見解中、第一說ハ經常又ハ永久ナル形容詞ヲ隨意ニ嵌入シ、即チ憲法四十八條ノ語詞ニ至要ナル變更ヲ生ゼシメントスルヲ以テ、文面上ヨリ觀察ヲ下スモ既ニ其ノ全ク正當ナラザルコトヲ知ルベシ。他ノ二ツノ見解ニ關シテハ、左ニ記載スルガ如キ四十八條ノ沿革ニ着眼セザルベカラズ。蓋シ四十八條第二段ノ淵源ハ白耳義國憲法第六十八條ノ結文ヨリ來レルナリ。白耳義國憲法第六十八條ニ云ハク、商業締約並ニ締約ノ國家ニ負擔ヲ與ヘ又ハ各個ノ國民ニ義務ヲ負ハシムル者ハ兩院ノ承諾ヲ得ルニアラザレバ其効力ヲ有セズト、普國千八百四十八年五月十日、政府ノ憲法草案按第二十四條ハ商品取締並ニ其他ノ締約ニシテ、國家ニ負擔ヲ與ヘ或ハ各個ノ國民ニ義務ヲ負ハシムベキ者ハ、其効力ヲ得ル爲ニ兩院ノ

承諾ヲ要スト云ヘル明文ヲ採用セリ。而シテ國會ノ憲法委員ノ編纂シタル草案ニ於テ規定（第四十七條第二項）ヲ設ケタルコト左ノ如シ。曰ク外國トノ各種ノ締約（及ビ平和定約）ハ其効力ヲ得ル爲ニ兩院ノ承諾又ハ後日其認可ヲ要スベシト、而シテ其理由書ニ掲グル所ニ據レバ、兩院ノ承諾權ヲシテ國家ニ負擔ヲ與ヘ、又ハ各個ノ國民ニ義務ヲ負ハシムル（白耳義國憲法第六十八條）締約ニ及ブニ止マラシムルハ、一方ニ於テハ此ノ不明了ナル文辭ノ爲ニ實際ニ應用スルニ當テ、必ず爭議ヲ起スコトヲ免レザルベク、又他ノ一方ニ於テハ顯然有益ナル條約ト雖モ、屢々意外ノ損害ヲ招クノ結果ヲ生ズルコトヲ慮ルベシト云フニ在リ。千八百四十八年十二月五日ノ欽定憲法ハ、其ノ第四十六條ニ於テ政府草案第二十四條ト同一ノ明文ヲ掲載セリ。而シテ千八百四十九年ノ憲法審査ニ際シテハ、此ニ其記載ヲ要セザル平和條約ニ關スル變更ヲ除クノ外ハ、此條ノ變更ヲ決定セズシテ、却リテ國會ノ憲法委員ト同ク平和條約ヲ除クノ外ハ、如何ナル締約ヲ問ハズ凡ソ義務ヲ負擔セシムル者ハ兩院ノ承諾ヲ受クベシトノ明文ヲ掲載シタリ。當時第二議院ノ審査委員ニ於テハ、此ニ因リテ負ハシムルナル語ヲ以テ狹隘ナル意義ニ於テ解釋スベキノ發議ヲ爲シタリシモ、委員多數ハ此ニ同意ヲ表セザリキ。然レドモ第二議院ノ總會ニ際シテハ反復疑問ヲ生ジ、前記ノ明文ヲ左ノ如ク修正スベキノ發議ヲ爲シタリ。即チ



此ノ如キ締約ニシテ(外國政府)ハ此ガ爲ニ各個ノ國民ニ義務ヲ負ハシメ、又ハ國家ニ特別ノ承諾ヲ要スル支出ヲ生ゼシムル者ハ、其効力ヲ得ル爲ニ兩院ノ承諾ヲ要スル者トスト、抑々此ノ發議ハ其理由書ニ明言スル如ク、憲法ニ準ジタル兩院ノ權利ヲ侵害スル締結ナル場合ニ限り、兩院ノ承諾ヲ要スベシトスルコトヲ目的トシタリ。蓋シ憲法ニ準ジタル兩院ノ權利トハ議稅權及ビ內國ノ立法ニ參與スルノ權利ニシテ、其承諾ヲ要スル限界ハ專ラ此ニ止マルナリ。而シテ發議者ハ同時ニ左ノ辭ヲ斷言セリ。曰ク若シ其發議ニシテ排斥セラレ、而シテ憲法第四十八條ノ成文ニシテ存在スルニ於テハ、該條ノ意義ハ左ノ意義ノ外ニ他ノ意義ヲ含有セザルベシ。即チ各種締約ニシテ、此ガ爲ニ枝葉ニ屬スル點ニ於テモノノ負擔ヲ國家ニ歸セシメ、又ハ此ガ爲ニ費用ニ關シテ特別ナル承諾ヲ要セザルベカラザル者ハ、他ノ關係ナキ事項ニ於テモ亦必兩院ノ承諾ヲ受クベシト、然ルニ此ノ發議ハ排斥セラレタリ。而シテ此ノ憲法第四十八條ノ沿革ニ據レバ、第二議院ハ此ニ因リテ負ハシムルノ語ヲ、左ノ意義ヲ以テ採用シタルコト明カナリ。即チ凡ソ義務ヲ負擔セシムル政府ノ一切締約ハ(平和條約ヲ除ク)兩院ノ認可ヲ要スベシト、而シテ政府モ此ニ反對ヲ唱ヘザルノミナラズ、第一議院ニ於テモ亦疑問ヲ起サザリシヲ以テ、兩院並ニ政府ハ第四十八條ノ第二段ヲ上文ノ意義ニ於テ解釋シタリトスベキコト明

ナリ。即チ其解釋ハ左ノ如シ。國家又ハ各個ノ國民ハ、國王一人ノ決意ニ因リテハ其性質ノ如何ヲ問ハズ、總テ負擔ヲ歸セラレ、又ハ義務ヲ負ハシメラル、コトヲ得ズ。凡ソ義務ヲ負擔セシムル政府ノ締約ハ、皆常ニ議院ノ認可ヲ要セザルベカラザルコト是ナリ。然ルニ此ノ見解ニ反對スルノ説ニ曰ク、憲法第四十八條ニ記載セル國家ノ負擔及ビ各個ノ義務ナル語ノ意義ハ、文法上ノ解釋ヲ以テ確定スベカラズト云ヘルノ點ハ爭フベカラズト雖モ、憲法第四十八條ノ沿革ヨリ由來シタル論據ノ如キハ、抑々第四十八條ヲ修正セントシタルノ發議ニシテ、其如何ナル理由アリテ第二議院ヨリ排斥セラレタルカ、之レヲ確言スルコト能ハズ。又第一議院及ビ政府ニシテ、此ノ條ノ審査ニ際シテ一ノ疑問ヲモ起スコトナキヲ以テ斷決スベカラザルナリ。又憲法第四十八條ハ平和締約及ビ商業締約ニ關シテ特別ニ之ヲ掲ゲタレバ、其他ニ所謂凡ソ義務ヲ負擔セシムル締約ヲ掲ゲタル者ハ、汎ク政府ノ一切ノ締約ヲ指スニアラズシテ、却リテ其狹隘ナル種類ヲ指スニ過ギズト謂フ。故ニ此條ニ付キ狹隘ナル意義ヲ必要ナリトセバ、之ヲ法律ノ精神ニ依リテ講究セザルベカラズ。獨逸各邦ノ憲法ノ現狀及ビ帝國憲法ノ審査ニ際シテ明言セラレタル主義ヲ觀察スルトキハ、本條ノ明文ハ專ラ議院ノ立法及ビ會計豫算ノ確定ニ對スル承諾權ヲ保護セント欲シタルコト明カナリ。本條ニ云フ所ノ締約トハ、偏ニ其執行



ノ爲ニ法律又ハ豫算ノ承諾ヲ要スルガ如キ國ノ内部ニ變更ヲ起スベキ者ヲ指スノ意ナリト認定セザルベカラザルナリ。而シテ此狹隘ナル意義ハ、亦實ニ立憲國國法ノ正確ナル原則ト符合シ、理ノ争フベカラザル者ナリ。但シ彼ノ第四十八條ノ成文ヲ解釋スルノ標準ト爲スニ至テハ、第四十八條ノ審査ニ關スル議事録ニ依ルニ、果シテ彼ノ主張スル所ノ法律ノ精神ナリト謂フヲ得ズ。却リテ第四十八條ヲ修正セントシタル發議ヲ排斥シタルハ、蓋シ第二議院ハ兩院ノ權利ヲ制限セントスル適當ノ議論ニ同意セザリシコトヲ證スルニ足ル。而シテ其制限的ノ解釋ヲ爲ス者ニ於テ、既ニ自認シタルガ如ク、千八百四十八年十二月五日ノ憲法ノ審査ニ際シテ、憲法ヲ以テ一度兩院ニ與ヘラレタル權利ハ之ヲ廢除シ、又ハ減縮スベカラズトノ思想ハ專ラ勢力ヲ有シタリ。今顧ミテ憲法ノ創設以來ニ係ル政府ノ實際ニ就キ之ヲ見ルニ、第四十八條ニ記載セル議院ノ權利ハ、決シテ充分ノ範圍ニ於テ其效力ヲ有シタリト謂フベカラズ。寧ロ許多ノ政府ノ締約ニシテ、憲法上議院ノ承諾ヲ要スベキニ、其承諾ヲ得ズシテ之ヲ執行シタル者ナリト謂ハザルヲ得ザルナリ。但シ斯ノ如キ政府ノ實際ヲシテ憲法ノ成文ヲ變更セシメ、且憲法ニ違反スル有效ノ習慣ヲナサシムルハ其取ルベカラザルハ固ヨリナリ。

第二十二條

兩議院ノ一ニ於テ否決シタルノ法案ハ、同一會期中ニ再議ニ付スルコトナカルベシ。

第二十三條

元老院ノ組織ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム。

此勅令ハ法律ニ由ルニ非ザレバ將來ニ變更スルコトヲ得ズ。

第二十四條

代議院ノ定員組織及選舉ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム。

第二十五條

議員ノ任期ハ四年トシ、選舉法ノ定ムル所ニ從ヒ二年ゴトニ其半ヲ改選ス。議員ハ再選ニ當ルコトヲ得。

(問)

議員ノ一任期中ノ半ニ於テ、其半數ヲ改選スルハ大抵各國ノ同キ所ナリ。然ルニ此事ハ舊新更代ノ際、舊議員ノ事情ニ慣レタル者ヲ以テ新議員ヲ嚮導スト云ヘル外、他ニ其理由アルヲ見ズ。佛國千八百七十五年ノ新法ニハ四年改選ノ期ニ於テ全員ヲ改選スベキコトヲ掲ゲタリ。貴下ノ意見ヲ教ヘラレンコトヲ乞フ。



明治二十年五月九日

ロエスレル氏

井上

(答)

予ノ知ル所ニ依レバ、各年期ノ終リ又ハ議院解散ノ場合ニ於テ一般選舉ヲ以テ議院全員ヲ改選スルハ多クハ各國ノ例ナリトス。即チ獨逸帝國、普魯士、瑞典、諾威、丁抹、瑞西(每三年)佛國(千八百七十五年以來每四年)希臘、葡萄牙、伯西爾(每四年)伊太利(每五年)奧地利巴威里、瓦敦堡(每六年)英國(每七年舊時ハ每三年)是レナリ。

一部ノ議員ヲ改選スルノ國ハ白耳義、荷蘭等ナリ。白耳義ハ二年毎ニ議員ノ半數ヲ改選ス。荷蘭ハ千八百十五年ノ憲法ニ據レバ、毎年三分ノ一ヲ改選ス。王國索遜ハ常ニ三分ノ一ヲ改選ス。巴丁「ヘッセン」及其他二三ノ小邦ニ於テハ半數ヲ改選ス。佛國ハ千八百十四年ノ憲法ニ據レバ毎年議員ノ五分ノ一ヲ改選ス。

一部改選ノ理由ハ、此方法ニ依ルトキハ下院ハ常ニ新舊議員ヲ以テ構成シ、常ニ議事ニ熟練シタル議員ヲ現存スト云フニアリ。此方法ニ依ルトキハ事務ノ形式上ノ取扱ヲ容易ニスルノミナラズ、又事件ヲ適實ニ討議スルニ於テ好結果ヲ現スベシ。

又一方ヨリ觀ルトキハ此方法ハ政略上、議院ヲ虛弱ニスルノ方法ナリ。何トナレバ其議員ノ一部一年若ハ二年毎ニ交代スルトキハ、牢固ナル政黨ヲ永久ニ組織シ、且多數ヲ占ムルコト難カルベシ。蓋シ議員ノ交代アレバ隨テ議員ノ組織ニ影響ヲ及セバナリ。故ニ議員ノ一部屢々交代スルトキハ、政黨首領ノ勢力ヲ減ジ、而シテ政府ハ議院ニ對シ毎ニ其勢力ヲ増シ得ト斷言スルヲ得ベシ。

予ハ全員ノ改選ヲ當然ナリト信ズ。其理由トスル所左ノ如シ。

- 一 全員ノ改選ハ決シテ悉ク若ハ多ク新議員ヲ選舉スルノ結果ヲ生ズルコトナシ。却テ實驗ニ依レバ全員ノ改選ハ常ニ舊議員ノ大部ヲ再選スルノ事實ヲ示セリ。故ニ全員改選ノ方法ニ依ルモ亦議事ニ熟練セル舊議員ヲ得ラル、コト確實ナリ。
- 二 一部選舉ノ方法ハ、人民ノ選舉ノ自由ヲ妨ルモノニシテ、而シテ又政府ノ利トナルコトアリ、亦害トナルコトアリ、例ヘバ人民政府ノ方向ニ從ハント欲シ、政府黨ヲ多數ニ選舉セントスルノ場合ニ於テ、其一部ノミヲ改選スルトキハ人民ハ唯一部分ノミノ選舉ヲ以テ政府ニ同意ヲ表スルヲ得ルナリ。
- 三 一部ノ選舉方法ニ據ルトキハ、議院ヲ解散スルニアラザレバ全員ヲ改選スルヲ得ズ。然ルニ解散ノ處置ハ甚重大ニシテ、稀レニ困難ノ場合ニ限り施シ得ルモノナリ。



四 一部選舉方法ニ依ルトキハ、屢々選舉ヲ爲サルベカラズ。即チ一任期ヨリ他ノ任期ニ遷ルトキニアラズシテ、毎年若ハ二年毎ニ之ヲ爲サルベカラズ。而シテ此場合ニ於テ唯議院ノ一部ヲ改選スルニ過ギズ。又全國ニ於テスルニアラズシテ、唯一定ノ地方ニ於テス。抑此ノ如ク屢々選舉ヲ爲ストキハ、之ガ爲ニ絶エズ人民ノ政事上ノ思想ヲ動搖スルノミナラズ、又政府ノ爲ニ患害ヲ爲スコトヲ免レザルベシ。何トナレバ此議員ハ人民ノ眞誠ナル代議員トナルヲ得ザレバナリ。例ヘバ人民ハ議院ノ多數ニ反對スル意見ヲ有スルノ時ニ當リ、全員ノ改選ヲ行フトキハ政府ハ多數ヲ得ルコトアルベキモ、唯一部ノ改選ヲ爲ストキハ議院ハ從前ノ政事的ノ位地ヲ變ゼザルベシ。

五 一部ノ改選方法ハ機巧計算ニ失シ、人民ヲ監護スルノ精神ヲ増スモノナリ。是レ立憲政體ノ國ニ於テ忌避スベキノ事ナリ。此方法ハ一定ノ時ノ選舉ト其前時ノ選舉トヲ混和セントスルモノナリ。然レドモ此方法ニ依ルトキハ新議員ハ舊議員ニ對シ常ニ掩蔽ヲ受ケ、新議員ノ性質ニ依リ占ムベキ勢力ヲ得ルニ至ラザラシムベシ。

是ニ由リ之ヲ觀レバ、全員改選ノ方法ハ其當ヲ得タルモノト云フベシ。唯適當ノ選舉年期ヲ定ムルヲ要スルノミ。若シ其年期長キニ失スルトキハ、議員ト人民トノ必要ナル活潑ノ關係ヲ妨グルニ至リ、又此ガ爲ニ議院ハ動カスベカラザル常置ノ結合體トナリ、其特權及勢力ヲ牢固ニシ、以テ政府及人民ノ障害物トナルノ憂アリ。若シ其期短ニ失シ僅ニ一年若ハ二年ナルトキハ、屢々選舉ヲ爲スノ煩ヲ免レズシテ、議員ニ議事ニ熟練スルノ時日ヲ與ヘザルベシ。故ニ三年ノ任期ヲ以テ最モ宜キニ適ストス。此三年期限ハ現時各國ノ多ク採ル所ナリ。然レドモ四年ノ期限ヲ採ルモ亦差支ナカルベシ。

千八百八十七年五月十日

ハ・ロエスレル 拜具

第二十六條

代議院ノ議員ハ全國人民ノ代議人ニシテ、其所屬府縣又ハ選舉區ノ人民ヲ代表スル者ニ非ズ。故ニ議員ニ付與スル委任囑託ハ總テ其效力ヲ有セズ。

第二十七條

議員ハ非職武官ヲ除ク外、國庫又ハ地方稅ノ俸給アル行政官屬ト相兼ヌルコトヲ得ズ。官吏ニシテ議員ノ選ニ應ズルトキハ非職タルベシ。議員ニシテ官吏ニ任ズルトキハ議員ノ職ヲ失フベシ。但教官、技術官、博物局員、衛生會員、其他將來ニ特ニ指定スル員屬ハ其職務ニ妨グズ



シテ議員ト相兼ヌルコトヲ得ベシ。  
僧侶ハ兩院ノ議員タルコトヲ得。

第二十八條

一人兩院ノ議員ヲ兼ルコトヲ得ズ。

第二十九條

兩議院ハ毎年十一月上諭ヲ以テ之ヲ召集ス。

第三十條

非常ノ要用アルニ當テハ、特ニ上諭ヲ發シ臨時兩院ヲ召集ス  
臨時會ノ會期ハ又上諭ニ由リ便宜ニ之ヲ定ムベシ。

第三十一條

兩院ノ會期ハ三箇月トス。

兩院ノ閉期ヲ延引スルハ上諭ニ由ルベシ。

第三十二條

兩議院ノ開閉及延會ヲ命ズルハ總テ上諭ニ由ル。

第三十三條

議院開閉及延會及閉院ノ延期ハ兩院同時ニ之ヲ行フベシ。  
一議院解散ノ命ヲ受ケタルトキハ、併セテ他ノ議院ヲ閉會スベシ。

第三十四條

必要ノ場合ニ於テ兩議院又ハ一議院ヲ解散スルハ天皇ノ大權ニ由ル。  
議院解散ノ命ヲ受ケタルトキハ、其命ヲ得タル日ヨリ二月内ニ上諭ヲ以テ新タニ選舉ヲ行ハ  
シムベシ。解散ノ命ヲ受ケタル議員ハ仍再タビ選舉ニ當ルコトヲ得。

第三十五條



代議院ノ議長副議長ハ一會期ゴトニ議員之ヲ公選ス。

第三十六條

代議院ハ自ラ其當選議員ノ資格ヲ檢査シ退職又ハ除名ヲ議決ス。

第三十七條

兩議院ノ會議ハ公聽ヲ許ス。

但シ左ノ場合ニ於テハ公聽ヲ禁ズベシ。

一、議長又ハ十名以上ノ議員ノ要求ニ由リ、公聽人ヲ退散セシメ、嗣テ議院ニ於テ秘密會議タルベキコトヲ決議シタルトキ。

二、天皇ノ詔命ヲ以テ内閣ヨリ秘密ノ通牒ヲ得タルトキ。

秘密ノ會議ハ刊行スルコトヲ許サズ。

第三十八條

兩議院ハ出席議員半數ニ滿タザルトキハ議事ヲ開クコトヲ得ズ。

第三十九條

議事ハ出席議員ノ過半數ニ依テ決ス、可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル。

第四十條

内閣大臣及委員ハ何時タリトモ兩議院ニ出席シテ演說スルコトヲ得、但議決ノ投評ニ加ハラズ。

第四十條

各議院ノ事務及會議ノ方法ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム。

議院内部ノ規則ハ各議院ニ於テ之ヲ定メ上裁ヲ經テ施行ス。

(問)

各國ニ於テ議院ノ組織及議事法ノ大要ハ之ヲ憲法ニ掲ゲ、而シテ其細則ハ之ヲ議院自治ノ權ニ任ズルヲ通例トセリ。獨リ巴威兒及埃地利ニ於テハ憲法ノ外ニ別ニ議院ノ事務ニ係ル法律ア



リテ、其法律ニハ他ノ國ニ於テハ之ヲ議院規則ニ（即議院自治ノ權ニ依リ自ラ制作シタル所ノ規則）委ネタル内部ノ規定ヲモ包含シテ記載シタリ。

我國ニ於テ新ニ議院ヲ設立スルニ當テハ、巴威兒ノ例ニ倣ヒ、憲法ノ外ニ議院法律ヲ設クルコト尤適當ニシテ且將來ニ便利ナリト信ズベキニ似タリ。右ニ付貴下ノ意見ヲ示サレンコトヲ乞フ。

明治二十年五月九日

井

上

ロエスレル氏貴下

（答）

予モ亦法律ヲ以テ議院ノ事務順序ヲ定ムルヲ必要ト認メ、之ニ關スル規定ヲ予ノ起案セル憲法草案中ニ掲ゲタリ。

精密ニ論ズルトキハ、議院ノ事務順序ニ關ル法律ト事務規則トハ、之ヲ區別セザルベカラズ。此區別裁判所ニ適用セラレ、裁判即チ訴訟手續ハ之ヲ訴訟法即チ法律ニ定メ、裁判所内部ノ手續ハ裁判所自ラ之ヲ定メ又ハ司法大臣ノ命令ヲ以テ之ヲ定メタリ。

議院ノ事務順序ニ關スル法律ハ總テ議院ノ權限ニ屬スル形式上ノ條件ニ關ル規定ヲ載スルモ

ノナリ。其規定中ノ一二ハ憲法ニ掲載スルヲ要スル程ニ緊要ナリ。例ヘバ議長ノ任命、各議院ノ組成、議院ノ開閉、選舉ノ當否、議員及大臣ノ會議ニ關ル權利、委員代理等ノ如シ。此等ノ規定ハ議院ノ王位ニ對スル政事上ノ地位ヲ定メ、且議院ノ國法的性質ヲ明ニスルガ故ニ最モ重要ナルモノナリ。

他ノ規定ハ國法ノ主義ニ付之ヲ定ムルニ非ズ。事務ノ取扱上ニ關シ、公益上必要ナルモノニ屬ス。此ノ如キ規定ハ議院ノ事務ヲ憲法ニ從ヒ整頓スルニ缺クベカラザルモノナリ。此規定ト純然タル國法上ノ規定トノ區域ハ必シモ確定シタルモノニ非ズ。故ニ數多ノ國ノ憲法ニ於テハ手續ノ細事ニ涉リ細則ヲ掲ゲタルコトアリ。然レドモ此兩者ノ間ニ區別アル事ハ決シテ疑フベカラザルノ事實ナリ。今一例ヲ舉ゲテ之ヲ明ニセンニ、予ノ說ニ依レバ各議院ノ政府ト同ク法律起議ノ權ヲ有スル事、又各議員ノ建議ヲ爲シ得ル事、及會議ノ公開スベキ事ハ憲法上ノ原則ナリ。然レドモ如何ナル方法ヲ以テ形式上、法律案ヲ取扱フベキヤ、又ハ各議員ノ建議ヲ爲スベキヤ。即チ如何ナル表面上ノ要件ヲ以テ之ヲ討議決定スベキヤ、又ハ如何ナル方法ヲ以テ公衆ノ傍聽ヲ許スベキヤ等ハ皆形式上ノ問題ニ屬スルモノナリ。是レ皆憲法ノ實施上緊要ナル公事ニシテ、法律ヲ以テ定ムベキモノナリ。

狹義ノ事務規則ハ、議院事務順序ト異ニシテ、唯各院内部ノ關係ヲ定ムルモノトシ、國法上



若ハ一般公法上ニ關涉スルモノニアラズ。故ニ此規則ハ各院ノ定ムル所ニ任ジ、何時タリトモ之ヲ變更スルヲ得セシムベシ。例ヘバ日常ノ雜務、序順、會議ノ時間、家屋ニ關スル事件、印行書々分配方法、演述者ノ名簿等ノ如シ。

此區別ハ一二ノ邦國ニテ存スル所ナリ。英國ニ於テハ例ヘバ所謂「スタンジング、ヲルドル」即チ議院ノ手續ニ關スル永續ノ法律ト「セツシヲナル、ヲルドル」即チ各任期ニ適用スベキ形式上ノ規定トヲ區別セリ。此規定ハ憲法若ハ議員ノ權利ニ關係スル事ナシ。巴威里、索遜及其他ノ邦國ニ於テハ憲法ノ外議院ノ事務ニ關ル法律ヲ發布シ、尙此憲法及此特別ノ法律ニ基キ、更ニ事務規則ヲ定メ、且需要ニ從ヒ之ヲ變更スルノ權利ヲ議院ニ附與セリ。同一ノ原則ハ奧地利及其他ノ邦國ニモ行ル。

獨逸帝國國會及普魯士國會ニ於ケル事務規則ハ、憲法ニ於テ定メタル一二ノ條則ヲ除クノ外法律ヲ以テ定メタルモノナク、各院自ラ其事務順序ヲ議決スルノ權利ヲ有セリ。然レドモフオ  
ンロエンネ（普國國法第三百二十二章）ノ說ニ從ヘバ、事務規則ノ會議ニ於テハ政府ノ意見ヲ問ハザルベカラズ。又他院ニ關涉スル事件、又ハ一院ト政府ト關係ヲ有スル事件、他院若ハ政府ノ贊成ヲ得ザレバ決議スルヲ得ズト云フ。是ニ由リ之ヲ觀レバ、實際ハ普國ニ於テモ亦總テノ立法的要素ノ協同スルニアラザレバ議院ノ事務規則ヲ定ムルヲ得ズ。唯其規則ハ公式上法律トナラ

ザルノミ。即チ君主ノ制可ヲ受ケ公布セラレザルノミ。又普國ノ議院事務規則ハ英國ノ「セツシオナル、ヲルドル」ノ如ク、唯各任期ニ對シ定メラレタルモノナリ。然レドモ其翌任期ニ於テ之ヲ變更セザルトキハ之ヲ默諾シタルモノト看做シ繼續スルモノナリ。此ノ如キ變更ハ時々議決セラル、事ナキニアラズト雖モ、其大體ニ付テハ普國ニ於テハ之ヲ一ノ變更セザル法律ト看做シテ可ナリ。又専ラ内部ノ關係ニ屬シ、國法上ノ關係ヲ有セザル件ハ議長ノ處分ニ任ズルヲ宜シトス。例ヘバ速記謄寫ノ正誤ノ如キ是レナリ。又白耳義及佛國ニ於テモ各院其事務規則（レグルマン、インテリヤル）ヲ自ラ定ムルノ權利ヲ有ス。此ノ議院自治ノ權利ヲ有スル原因ハ此權利ヲ附與シ、以テ其完全ナル不羈獨立ヲ保證スルヲ得ト云フニ在リ。然レドモ此不羈獨立ハ濫用セラレ却テ憲法ノ精神及目的ヲ毀損スルニ至ル事アルベシ。例ヘバ憲法ノ精神ニ背キ、法外ニ議員ノ演述ノ自由ヲ擴張シ、又ハ法外ニ之ヲ制限スルガ如シ。殊ニ單ニ各院ノ決議ヲ以テ何時タリトモ事務規則ヲ變更スル場合ニ在テハ尤然リトス。爰ニ想起シタル一事アリ。彼ノ英國議院ニ於テ愛蘭議員ハ常ニ反對ノ方向ヲ呈シ、爲ニ殆ンド一時議院ノ閉場ヲ來サントスル事アリキ。予ハ憲法ヲ正當ニ施行スルハ専ラ實際遵守スベキ手續ノ如何ニアリ。而シテ此手續ハ國家政府及議院ノ權利ト密着ノ關係ヲ有スナルモノナリ信ズ。故ニ此手續ニ關スル確固完全ナル規定ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムルコト緊要ナリ。



千八百八十七年五月十一日

ハ・ロエスレル拜具

第四十一條

上下議院ハ相當ノ敬禮ヲ守リ、天皇ニ意見ヲ建議スルコトヲ得。

第四十二條

兩院ハ人民ヨリ呈出シタル請願ノ文書ヲ受ケ政府ニ移牒シ、又ハ意見ヲ付シ天皇ニ上奏シ、或ハ主務大臣ノ辯明ヲ求ムルコトヲ得。

請願ヲ受ルノ方法ハ法律及議院規則ノ定ムル所ニ依ル。

第一問

ペチシオン之ノ權ハ各國憲法ニ之ヲ掲グルヲ必要トシタルハ、英國ノ「ライト、オフ、ペチシオン」ニ倣ヘルナルベシ。然ルニ實際ニ於テハ徒ニ形式ノ光榮ニ屬シテ、施救又ハ人民ノ實益ヲナサズト聞ク、今新タニ一國ノ爲ニ憲法ヲ設ケントセバ特ニ此條ヲ設クルコト必要ナルヤ、貴

下ノ意見ヲ乞フ。

第二問

人民ヨリ議院ニ當ツル「ペチシオン」ハ之ヲ許スベキヤ又ハ之ヲ許サザルベキヤ、又ハ或ル制限ヲ設ケテ之ヲ許スベキヤ。

若シ之ヲ許スベシトセバ、議院ハ如何ナル手續ヲ何テ之ヲ處分シ、其其ペチシオンニ相當ノ結果アラシムベキヤ。

(答)

一 請願ノ權利ハ舊來ノ制度ニ屬ス。蓋此ノ權利ハ往昔君長自ラ最高裁判權ヲ施行シ。且時々一定ノ日ニ於テ愁訴若クハ嘆願ヲナス所ノ各人ニ謁見ヲ賜ハリタルニ基スルナラン。又此請願及建白ニ君長ニ呈出スルノ權利ハ、從來國會ノ重要ナル權利ト認メラレタリ。故ニ此目的ヲ達スル爲國會ハ又臣民愁訴及嘆願ヲ採用シ、審査シ式ニ依リ之ヲ王者ニ奏疏スルノ權利ヲ有セザルベカラズ。

二 現今ノ如ク司法及行政ノ體裁發達シタルノ時ニ當リテハ、請願ノ效力ノ一部ヲ失フコトト



ナレリ。何トナレバ裁判所及行政裁判所ノ判決ニ對シテハ高等ナル國權ノ直接ノ干涉ニ依リ之ヲ變更シ能ハザレバナリ。但シ今日ニ於テモ尙請願權ヲ施行スルノ場合ヲ存シ、而シテ其場合ハ殊ニ左ノ如シ。

一 純然タル行政區域ニ於テ憲法若クハ他ノ法律ノ毀損ニ對スル愁訴及裁判所又ハ官廳ガ其義務ヲ毀シタル行爲ニ對スル愁訴、例ヘバ裁判ヲ拒ム事若クハ之ヲ延滯スル事。  
二 正當ナル利益ヲ保護スル爲メノ嘆願及建議、例ヘバ或ル法律ノ發布若クハ法律ノ變更ニ就テノ嘆願及建議、又或ル事項ニ就テノ規定ニ關スル嘆願及建議、例ヘバ貨幣ノ制度又ハ外國ニ於ケル或ル利益ヲ保護スル事等ナリトス。

請願ノ權利ヲ施行スル場合ハ又甚ダ多シ。普魯西及巴威里ノ下院ニ於テ每週一回請願ノ爲ニ日ヲ設クルヲ以テ知ルニ足ル。

三 故ニ余ヲ以テ見レバ。請願ノ權利ハ正義公道ノ要求スル所ニシテ、實際各國憲法ニ於テ之ヲ與フルガ如ク、憲法ニ於テ明カニ之ヲ與フルヲ要ス。若シ此ノ權利ヲ與ヘザルニ於テハ天賦ノ權利ヲ拒ムニ同ク臣民ニ必要ナル保護ヲ與フルノ注意ヲ缺クモノナリ。

四 然レドモ請願ノ權利ハ之ヲ與フルニ制限アルヲ要ス。故ニ煩雜無用ノ請願ハ一般ノ秩序ヲ妨害スルモノト見做シ、ナルベク之ヲ拒絶シ以テ官廳ノ威望ヲ保存スベシ。此ノ制限ニ就テハ

左ノ區別アリ。

一 議院ハ大臣又ハ他官廳ノ犯シタル憲法及法律ノ毀損ニ對シ、愁訴ヲ王者ニ奏疏スルノ權並ニ又其權限ニ屬スル事項ニ就キ建議及希望ヲ正當ノ方式ニ於テ王者ニ奏上スルノ權ヲ有セザルベカラズ。

二 國家ノ官廳ハ請願權ヲ有スベカラズ。此官廳ハ通常ノ上申手續ニ制限セラレザルベカラズ  
三 國民及町村ハ其固有ノ事項ニ就キ請願權ヲ有スベシ。即チ一項ニ記載シタル範圍内ニ於テ或ハ公ケノ官廳或ハ議院ニ對シ請願スルヲ得。

此最後ノ請願(第四款中第三項)ハ混雜ヲ防グガ爲メ、專ラ書面ヲ以テ之ヲ呈出セシムベシ。且親シク奉呈スルヲ許サズ。此書面ハ請願全員ノ連署ヲ要ス。若其請願人公認セラレタル團結體ナルトキハ其首長ノ署名ヲ以テ足レリトス。

五 議院ニ呈出シタル請願ノ取扱方ハ議院ノ職務章程中ニ細定セラル、ヲ要ス。之ヲ定ムル左ノ原則ニ從テ可ナリ。

一、特別ノ請願審査委員ヲ置キ總テ接到スル請願ヲ審査及會議セシムルコト、但請願ノ事項他ノ委員例ヘバ法律制定委員ニ屬スルトキハ此限ニ在ラズ。

二、議院ニ於テハ十五名以上ノ議員同意スルトキニ限り請願ヲ議スベキモノトス。此場合ニ



於テハ請願審査委員ハ會議前ニ報告書ヲ製シ、之ヲ印刷シテ各議員ニ分配スベシ。

三、請願審査委員ハ左ノ事項ヲ議決スルヲ得。

(イ) 請願ヲ審査スルコトナク不適當トシテ却下スルコト。

(ロ) 請願ヲ不當トシテ却下スルコト。

(ハ) 一定ノ建議ヲナスコトナク請願ノ旨ヲ政府ニ報告スルコト。

(ニ) 請願ヲ斟酌セラレンコトヲ請求シ、即建議ヲナシテ政府ニ報告スルコト、此場合ニ於

テ政府ハ請願ニ就キ議院ニ答辯スルノ義務アリ。而シテ必シモ請願聽届クルノ義務ナ

シ。又政府ハ請願ニ就キ審査委員若クハ議員ノ發シタル問ニ對シ答辯セザルベカラ

ズ。

四、請願審査委員ノ決議ハ毎月一表ニ記載シ、之ヲ印刷シテ各議員並ニ政府ニ配布スベキコ

ト。

各請願ニ就テハ請願ニ對スル決議ニ依リ、請願人ニ簡單ナル答ヲ與フベシ。

請願ノ事項ニ就テハ巴威里憲法第七章第十九條乃至第二十一條及第十章第五條ヲ參觀セラ

ルヲ請フ。

以上回答

千八百八十六年十二月二十一日

學士 ロエスレル

第四十三條

各院ハ必要ナリトスル場合ニ於テハ、内閣大臣ニ質疑ノ文書ヲ送付シ其辯明ヲ求ムルコトヲ得。

(問)

議院ニ於ケル各大臣ノ列席ハ立法行政兩部ノ關係ニ於ケル必要ヨリ出ル者ニシテ、憲法中ノ重大ナル條章ナリ。然ルニ議院政事ノ行ハル、國ヨリ外ハ、議院ハ細小ノ問題ヲ以テ大臣ヲ煩ハシ、或ハ嘲弄ノ手段ニ涉リ以テ政府ノ面目ヲ損ゼンコトヲ企テ、一時辯説ノ長短ヲ以テ政府ト競争ヲ試ムルノ事跡ハ各國ニ往々見ル所ナリ。

那波崙一世ハ此弊ヲ避ル爲ニ、參事院議官ニ議院ニ於テ議案ヲ維持スルノ任ニ當ラシメタリ。蓋平常ノ議案ハ參事院議官ヲシテ紹介セシメ、其切要ナル事件ハ大臣議院ニ出席スルノ自由アラシメシナリ。學國ノ憲法六十條ハ各大臣及代理官ノ兩院ニ出席スルノ自由ナル權利ヲ與



ヘタレドモ、參事院議官ノ議案紹介ノ制ヲ取ラズ。貴下ノ意見ハ如何。乞教

井上毅

(答)

各議院ハ議場ニ大臣ノ臨席ヲ求ムルヲ得ル。宇國憲法第六十條ノ規定ハ、自耳義、埃國及其他ノ憲法ニ於テ見ル所ナリ。

予ノ知ル所ニ據レバ、巴威爾ニ於テハ右ノ規定ナクシテ議院及其委員ハ其必要トスル辯明ヲ大臣ヨリ求ムルヲ得ルノ規定アルノミ。而シテ大臣ハ自己ノ見込ニ依リ、或ハ自ら辯明ヲ爲シ、或ハ他ノ官吏ヲシテ辯明ヲ爲サシメ、又或ハ書面ヲ以テ辯明スルヲ得ベシ。但議員タルヲ要セズシテ議院ニ出席シ演說ヲナスハ其權内ニ在リトス。

英國ニ於テモ宇國ノ如キ大臣ノ臨席ヲ強請スル制度ナキノミナラズ、其議員ノ列ニ加ハラザル議院ニハ出席スルヲ得ザルナリ。蓋各議院ニ於テ重要又ハ普通ノ政事ニ關シ、政府ヲ代理辯護スル大臣ハ一定ナル例トシ、即チ下院ニ於テハ上議ノ議員ニアラザル首相ナルガ如シ。

予ハ宇國ノ制度ヲ採用スベキモノニアラズト認ム。蓋宇國ノ制度ハ大臣ヲシテ議院ニ從屬セシムルノ外相ヲ呈スルモ、其實然ラズ。且好ンデ大臣ヲ攻撃スルヲ以テ榮譽トスルノ弊ヲ生ジ

易ケレバナリ。又古來ノ經驗ニ徵スルニ、議員ニ於テ問辯ノ權ヲ行フハ大臣ニ威權ヲ示シ、或ハ公衆ニ向テ大臣ヲ彈劾シタルノ觀ヲ呈セントスルガ如キ輕卒ナル意ニ出ルコト往々之アリ。又大臣ハ毎ニ躬カラ議場ニ出席スルコト能ハズ、何トナレバ常務繁劇ナルニ、議會若クハ其委員會ニ必ズ臨席スベシトセバ、爲ニ貴重ノ時間ヲ徒費スレバナリ。之ヲ要スルニ同時ニ兩院ニ出席セントスルハ行ハレザル事ナルノミナラズ、假令ヒ出席スルモ演說ヲ強ユル能ハザルモノナレバ、大臣ノ出席ハ到底一ノ儀式ニ止マルニ至ルベシ。

予ハ亦佛國ノ制度ニ賛成ヲ表シ難シ。蓋シ佛國ノ制度ハ那翁倫第三世ニ至リ大ニ變更セラレ、大臣及參議院長ハ政府ノ名ヲ以テ議院ニ出席シテ演說ヲ爲シ、又皇帝ハ時々大臣中ニ其任ヲ特命スル事トナリタリ。此ノ如ク議院ニ於ケル演說ヲ特命セラレタル大臣ハ、即チ演說大臣ニ外ナラズシテ、此制度ハ立憲政體ノ主義ニ背キ、且實用ニ乏シキモノト云フベシ。而シテ演說大臣ハ常ニ政務ニ與カラザルガ故ニ、政府ノ代言人タルニ止マリ、議院ハ勿論全國ニ對シテ威權ヲ占ムル事能ハザルベシ。苟クモ政事上ノ制度ニシテ其成績ヲ期セント欲セバ、宜シク事ノ本然ニ根據スベク、而シテ外觀ニ失スベカラザルナリ。抑モ大臣ノ責任ハ假令ヒ道德及政事上ノモノナルニ過ギズト雖モ、乃チ憲法ノ本然ナリ。大臣自ラ政事ヲ辯護セズシテ之ヲ他人ニ委ヌルノ國ニ於テハ、大臣ノ責任ハ名ノミ存シテ其實ヲ失フモノナリ。而シテ其演說大臣モ亦



一モ責任ヲ有セズ、何トナレバ代言人トナリテ議場ニ出席スルノミナレバナリ。故ニ此制度ハ無實ノ辯護ヲ以テ真正ノ責任ニ代ヘ、以テ立憲政體ノ原則ヲ破ルモノナリ。シカノミナラズ此制度ハ其豫期スル所ノ目的ヲ達スルコト能ハズ。何トナレバ此ヲ以テ過劇ノ討論及政府ニ對スル攻撃ヲ避クルニ足ラザルハ實驗ニ徴シテ已ニ明カナレバナリ。又予ハ佛國ノ經驗ニ據リ此制度ハ君主ニ於テ甚ダ危険ナリト信ズ。何トナレバ大臣ニシテ既ニ責任ヲ有セザレバ、失政ノ責ハ舉ゲテ君主ノ一身ニ集マレバナリ。要スルニ演說大臣ハ單ニ君主ノ政務ヲ辯護スルニ止マリ、正ニ立憲制度ノ本然ニ悖ルモノナリ。彼ノ那破倫第三世ノ人望及帝位ヲ失ヒタルハ、則チ其原因ヲ此無實ナル制度ニ歸セザルヲ得ズ。

予ハ巴威爾ノ制度ヲ最モ善良ナルモノトス。蓋此制度ハ穩當ニシテ便宜ニ適ヒ、且論理ニ原ケバナリ。抑々大臣ノ議院ニ出席シテ演說ヲ爲スハ政事上ノ行爲ニ外ナラザレバ、他ヨリ之ヲ強請スルヲ得ズ。専ラ自己ノ任意ニ出ヅベク、而シテ通常ノ事件ニ在テハ書面ヲ以テ辯明シ、或ハ他ノ官吏ヲシテ辯明セシムルヲ得ベシ。例ヘバーノ專科ニ涉ル法律ニ於ケルガ如キ是レナリ。但シ重大ナル政事上ノ件ニ在テハ、躬カラ議場ニ出席シテ之ガ辯明ヲ爲サルベカラズ。此ノ如クニシテ初メテ政事家タル貴重ノ地位ヲ占ムルヲ得ベキノミナラズ、亦其成績モ一層盛大ナルベキナリ。予ハ曾テ他人ノ辯護シタランニハ失敗シタル所ノ事件ニ關シ、大臣自カラ之

ヲ辯護シテ勝利ヲ得タリシ場合ヲ目撃シタリ。又大臣ハ幾分カ議院ヲ制御シ、議院ニ對シ其威權ヲ占有セザルベカラズ。是レ自ラ議場ニ出席シテ議員ト交通スルニアラザレバ能ハザル所ナリ。彼ノ故造ニ出ヅル彈劾、嘲弄、劇論ノ如キハ、如何ニ善良ナル制度ニ於テモ全ク之ナキヲ保スル事難シト雖、巴國ノ制度ニ於テハ其弊最モ少カルベシ。何トナレバ巴國ノ大臣ハ其一身ヲ犠牲ニ供シ、其榮譽ト熟練ト熱心トヲ以テ議論ヲ左右シ得レバナリ。此レニ反シ最モ過劇ノ攻撃ヲ受ケタル人ハ那破倫第三世演說大臣ルエー氏ニシテ、其攻撃ハ實際皇帝其人ニ對シタルナリ。要スルニ此事タル大ニ人民ノ性質如何ニ關スルモノナリト雖、佛國及孛國ニ於ケルガ如キ過劇ノ議論ハ巴國ニ於テハ未ダ曾テ之無カラザルヲ保スルヲ得ベシ。

巴國ノ制度ニ關シテハ其憲法第七章第二十四條及千八百五十年七月二十五日國會議事章程第十四條乃至第十七條第三十三條ヲ參見セヨ。

十二月廿四日

ロエスレル再拜

(問)

議院ニ上奏之權ヲ付スベキ(孛國憲法第八十一條)ノ說ハ既ニ教ヲ受ケタリ。



議院ニ事實審査ノ委員ヲ設クルノ權ハ如何。實地適用ノ意見ヲ示サレンコトヲ望ム。

## (答)

英國議院ニ於テハ或ル事件取調ノ爲委員ヲ置クノ權理ヲ實行スルコトハ屢々ナリト雖、其委員ニ屬スル權限ヲ確定セズ。白耳義國憲法第四十條ニ於テ其權理ヲ定ムト雖、亦之ヲ泛言シテ之ヲ確定スルコトナク、更ニ法律ヲ以テ之ヲ定ムベキノ旨ヲ顯シタリ。此兩國ハ專ラ議院政事ノ制ニ從フモノナリ。普國憲法第八十二條モ此委員ノ目的及權限ヲ定ムルコト明瞭ナラズ。即チ立法ノ目的ノ爲ニスルニアラズシテ、政府ノ或ル處分又ハ行政若クハ司法ノ制度ヲ審査スル爲ニ委員ヲ任ジ、及行政應ニ向テ直接ニ審査ヲナサシムル權理ヲ議院ニ與フルハ、議論ノ一定セザル所ナリ。又證人ヲ呼出シ及出頭セザル證人ヲ罰スルノ權利ニ至テモ、權限ナシニハ是認セザル所ナリ。現ニ此論ノ一定セザルニ由テ觀ル時ハ、議院ニ審査權ヲ與フルノ穩當ナラザルコトヲ知ルベシ。蓋議院ヲシテ此審査權ヲ執行セシムルハ行政權ノ權限ト、及官廳ニ於ケル事務ノ執行ヲ侵害スルモノナリ。故ニ例ヘバ議院ニシテ行政權又ハ一個人ニ對シ證書類ノ呈出ヲ求メ、又ハ其人ニ對シ陳述ヲ求ムルノ權理ヲ有スベキヤ否ヤハ甚ダ疑ヲ免レザル所ニシテ、如斯權理ハ隨意ニ濫用シ得ベク、徒ニ不快ヲ増進シ、政府ノ祕密ヲ害スルノ目的ニ利用セラル、

モノナリ。然ルニ又如斯範圍極メテ廣キノ權理ヲ與ヘザル時ハ、議院ノ審査委員ハ完全確實ナル結果ヲ奏スルコト能ハザルベシ。英國ニ於テ政府ハ報告ヲ求ムルノ申立、又ハ書類ノ呈出ヲ求ムルノ申立ヲ拒絕スルコトヲ得ト雖、其事件ノ國王ノ特權ニ屬スルトキ、又ハ政府ニ於テ其報告ヲナシ書類ヲ呈出スルコトノ公安ヲ害スベシト認ムルトキ、又ハ既ニ行ヒタル審査ヲ以テ十分ナリトシ、又ハ審査ノ費ヲ不用ナリト認ムルトキニ限ル。

日本ニ於テハ行政權ト議院ノ權限トノ分界ヲ注意シテ明定セザルベカラズ。故ニ予ニ於テハ如斯審査委員ヲ任ズルノ權ハ之ヲ行政權ニ屬セシムベクシテ、之ヲ議院ニ與フベカラザルモノト信ズ。議院ハ唯政府ニ對シ審査委員ヲ置カンコトヲ建議スルノ權ヲ有セシムルヲ以テ足レリトスベシ。而シテ此權理ハ自ラ議院ノ請願權中ニ包含セラル、モノナリ。又政府ニハ議院ヨリ求メタル報告ヲ呈出スルノ義務ヲ負擔セシムルヲ以テ足レリトシ、此報告ハ政府ニ於テ之ヲ呈出スルヲ正當ナリトスルモノニ限ルベシ。議院ノ權理廣大ニ過ルトキハ容易ニ行政權ヲ侵害シ、且政府ノ上ニ立テ一種ノ裁判權ヲ執行セント試ルニ至ルベシ。

以上ノ論旨ニ拘ハラズ、當今ニ於テハ議院ノ審査權ハ往時ノ價值ヲ失ヒタリ。其審査ハ往々其任ニ適セザルハ人之ヲ執行スルヲ以テ、實際遂ニ不用ニ屬シ、且議院ニ於テ勢力ヲ有スル黨派心ニ牽制セラル、ニ至ル。而シテ政府ハ總テ其權限ニ屬スル百般ノ方便ヲ以テ、有益ニシテ



確實ナル審査ヲナスコトヲ得ルガ故ニ、議院ニ此ノ權理ヲ與フルハ全ク不用ニ屬ス。

十二月廿八日

ドクトル、ヘルマン、ロエスレル

第四十四條

兩議院ハ事務ヲ審査スル爲ニ各省ニ向テ必要ナル報告及證憑文書ヲ求ムルコトヲ得。但シ各省ノ外他ノ官衙ニ向テハ直接ニ往復スルコトヲ得ズ。

第四十五條

兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ陳述シタル意見及投評ニ付、糾彈ヲ被ルコト無カルベシ。但シ議院規則ニ於テ定ムル處分ハ此條ノ關涉スル所ニアラズ。

議員自ラ其言論ヲ新聞紙ニ公布シタルトキハ普通ノ法ニ依リ責ニ任ズベシ。

第四十六條

兩院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外亂ノ罪ヲ除ク外、開會ノ間議院ノ承諾ナクシテ逮捕スルコトヲ得ズ。

トヲ得ズ。

前項ニ指定シタル場合ニ於テ議員ヲ逮捕シタルトキハ、司法大臣ヨリ直チニ所屬議院ニ報知スベシ。

議員ノ拘留ヲ受ケ及治罪ノ處分ヲ受ケタル者ニ付、所屬議院ヨリ要求スルトキハ開會ノ間其處分ヲ置閑スベシ。

○第五章 司法權

第四十七條

裁判ハ專法律ニ依ル。裁判官ハ天皇ノ名代トシテ其職務ヲ行フ爲ニ不羈ノ權ヲ有ス。

第四十八條

裁判官ハ天皇ノ任命ニ由ル。法律ニ定ムル事由ニ由リ、裁判ヲ經ルニアラザレバ免職又ハ非職ヲ命ゼラル、コトナシ。

其滿六十五歳ヲ超エ、老退ノ故ニ由リ、又ハ裁判編制及其區畫ノ變更ニ由リ、非職ヲ命ズル

甲案 試草

裁判官ハ天皇ノ名代トシテ其職務ヲ行フ爲ニ不羈ノ權ヲ有ス。法律ニ定ムル事由ニ由リ、裁判ヲ經ルニアラザレバ免職又ハ非職ヲ命ゼラル、コトナシ。



ハ前項ニ牴觸スルノ限リニアラズ。  
判事補及治安裁判所ノ判事ハ此ノ條ノ例ニ依ラズ。

第四十九條

裁判ノ對審及判決ハ之ヲ公行ス。  
特ニ公行ヲ閉ルコトヲ得ルノ場合ハ法律ノ定ムル所ニ依ル。

第五十條

天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ズ。

第五十一條

民事刑事事ヲ問ハズ、裁判所編制裁判官職制及裁判章程ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム。

第五十二條

行政上ノ處分又ハ指令ニ對シ行政官吏ヲ訴フル者ハ、司法上ノ訴ト分別シ行政裁判所ニ於テ

ロノ六十  
九條ノ文  
意明確ナ  
ズルニ如  
カ

之ヲ受理ス。

行政裁判所ノ組織權限及訴訟手續ハ別段ノ法律ヲ以テ之ヲ定ム。

第五十三條

司法部行政部ノ權限爭議ノ裁決ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ムベシ。

○第六章 租稅及會計

第五十四條

關稅ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム。

第五十五條

現在既定ノ租稅及將來ニ經常稅トシテ定ムベキ租稅ハ、更ニ他ノ法律ヲ以テ之ヲ變革セザル  
限ハ毎年一定ノ稅率ニ依リ之ヲ徵收スベシ。



第五十六條

地方ノ費用ニ充ル租稅ハ特ニ定メタル法律限内ニ於テ各地方議會ノ議ヲ取り之ヲ徵收スベシ。

法律ハ已ムヲ得ザル場合ニ於テ地方議會ノ議決ニ依ラズシテ之ヲ徵收スルヲ得ベキノ特例ヲ定ムベシ。

第五十七條

歳出歳入ノ定額ハ毎年豫算表ヲ制定シ兩議院ノ承認ヲ經テ之ヲ公告スベシ。

(問)

租稅ハ代議會ノ自由ナル承諾ヲ經ズシテ徵收セラル、コトナカルベシ。從テ代議會ハ豫算ヲ議定スル全權アリトノ理論一タビ英國ノ大憲及佛國ノ革命憲法ノ第一義トナリシヨリ、其勢ハ歐洲各國ニ蔓延シ一時ノ銳鋒ハ爭フベカラザルノ力ヲ以テ政事社會ヲ支配シタリ。乃チ帝國ノ如キモ其憲法ノ九十九條ハ實ニ此ノ理論ノ影寫ナラザルハナシ。

然ルニ此ヲ實際ニ徵驗スルニ及デ、國ノ公益ヲ保護スルノ必要ニ於テ、往々理論ト相背馳ス

ルコトアリ。蓋シ國家ハ生活的ノ事物ナルヲ以テ、内外ノ事狀ハ或ハ豫想前見セザル所ノ變態ヲ生ジ、從テ豫算外ノ支費ヲ要スルノ場合アルノミナラズ、又平年ニ於テモ精確ナル豫算ハ實費見積ノ外ニ餘地ヲ存セザルヲ以テ、時價ノ高低財利ノ變動ニ因リ意外ノ不足ヲ生ズルコト無シトセズ。然ルニ必豫算ノ限界ヲ確守シテ緊密ニ其節目ヲ履踐セントスルトキハ、此レガ爲ニ行政ノ便宜ト活潑ヲ失ヒ實際ニ國民ノ不幸ヲナスコト少小ニ非ザルベキナリ。

猶此ノ外ニ政府ト議院ト和熟セザルトキハ議院ハ政府ノ必要ナル歳費ニ充ツベキ稅入ヲ否決シテ、故意ニ政府ノ行政ヲ困難澁滞ナラシメ、以テ内閣ノ更迭ヲ促サントスルコト往々歴史上ニ見ル所ナリ。故ニ英國大憲及其第十四紀ノ租稅議權ノ憲法ノ主義ニ從フトキハ、到底議院政事ノ傾向ニ墜テザルベカラズ。

近來ニ至リ憲法ノ研究益々精密ヲ窮ムルト並ニ、歐洲各國ノ富強競争ノ必要トニ由リ、兵權ノ如ク稅權モ亦議院ノ全權ニ委ヌベカラザルコトヲ發見シタルガ如シ。然ルニ稅權ヲ政府ノ手中ニ存スル爲ノ方法ハ試ニ之ヲ列舉スルニ左ノ七個ニ外ナラズ。

(甲) 立法ノ權ハ上院代議院ト政府トノ三局ニ於テ之ヲ平等ニ掌有スル者トシ、若シ其一局ニ於テ叶議セザルトキハ豫算未決ノ者ト看做シ、政府ノ原案ヲ施行ス。(即チ千八百六十三年一月二十七日ビスマルク氏ノ議院ニ於ケル演說)



(乙) 憲法制定前ノ税法ハ舊額ニ依テ徵收シ、更ニ歳費ノ増減ニ拘ラズ。故ニ議院ハ租税ノ大部分ニ於テハ容喙ノ權ナシ(普憲法百九條)

(丙) 一たび議定シタル必要費ハ更ニ之ヲ變更スル迄ハ例ニ依テ支出及徵收シ年々議決ヲ經ズ。以テ永久ニ變動ナカラシム(英ノ「ホン、コンソリッド」又佛ノ有名ナル宰相「ネツケル氏ノ演說」及少クトモ數年ヲ期シテ一定ノ議決ヲ取り、其年期間ニ變動ナカラシム。(獨逸帝國ノ軍費並和蘭ノ經常費ヲ十年一定トシタルコト)

(丁) 年々ノ定額ノ外ニ別ニ非常ノ用意ノ爲ニ國債金庫ニ儲金ヲ設ク。(瑞典憲六十三條)

(戊) 定額各科ノ外ニ議院ノ承諾ヲ經テ豫備費ヲ設ケ非常ノ需要ニ充ツ。

(己) 實費定額ヲ超過シ、及定額ノ科目ノ外ニ新ニ生ジタル費用ハ翌年ノ議會ニ於テ之ヲ報告シ議院ノ承認ヲ要スルノ條ヲ設ク。(普百四條)

(庚) 議院ニ豫算案ヲ議決セシムルハ其大綱ニ止マリ、細目ニ及バシメズ。以テ實際ニ於テ各項ノ間ニ流用ノ便ヲ存ス。(佛ノ拿破侖氏ノ時ニ各省ゴトニ議決セシメ、又各省ノ間ノ流用ハ勅令ヲ以テ許スベキコトヲ憲法ニ擧ゲタリ)

右ノ七個ノ方法ノ一モ多少ノ辯解ヲ費サズシテ理論ノ満足ヲ與フベキモノナシ。蓋シ現世紀ニ於テハ學問上憲法ノ標準未ダ一定ノ歸著ヲ得ルノ時期ニ達セズ、故ニ政事實施ノ上ニ於テ往

往兩々矛盾ヲ生ズルコトヲ免レズシテ、或ル國ニ於テハ政府ノ威力全盛ナルガ爲ニ政略上ニ於テ十分ニ運轉制御スルコトヲ得ルモ、他ノ國ニ於テハ往々此ニ由テ變革ノ原因ヲナスコトヲ免レズ。此ノ事ニ付キ理論ト實際ヲ調和スル爲ノ新案ハナキヤ。又前陳七個ノ方法ノ中何レカ擇ンデ取ルベキヤ。貴下ノ意見ヲ示サレンコトヲ望ム。

(答)

政府ニ必要ナル費用ヲ安全ナラシムル爲、以上掲ゲタル各種ノ手段ハ悉ク誤解ノ主義ヨリ出ル所ノ結果ヲ僅ニ減削スルニ過ギザル窮策ナリ。此誤解ノ主義トハ國會ハ國君ニ對シ政府ノ費要ヲ隨意ニ許否スルコトヲ得ルト云フ立憲ノ論理是ナリ。此ノ自由ナル國會ノ許否權ハ往古ヨリ傳來セルモノニシテ、古ハ國家ノ財務ハ現今トハ全ク異ナル主義、即チ官有地及特有權ニ基ケルモノナリ。當時ニ在テハ通常政府ノ收入支出ハ其所有物ヲ以テ之ニ充テ、更ニ國會承諾ヲ要セザリシモ、租税ハ實ニ非常ノ補助物ニシテ國民ハ之ニ關スル法律上ノ義務ヲ有セザリシガ故ニ、之ヲ其隨意ニ任セタリシナリ。然レドモ必要ナル收入支出ハ政府ノ利益ノ爲缺クベカラザルガ故ニ、人民ノ隨意ニ任スト云フハ一ノ學理上ノ言タルニ過ギザリシト雖、亦必要ナル租税モ尙實際之ヲ拒ムコトナシトセズ。即チ英國ニ在テ屢々此手段ヲ實行シ、漸クニ議院政事ノ



基礎ヲ鞏クシタリ。又古獨逸帝國ニ於テハ其最末ノ三百年間、國會ハ其政府ニ對シ必要ナル金  
錢及兵隊ヲ拒絶シタルガ爲、帝國ノ權力ハ殆ンド地ニ墜チ、實力ハ却テ各邦ニ歸スルニ至リシ  
ナリ。

近世ノ國家ニ於テハ其財政ハ專ラ特有權ニ基カズシテ租稅ニ基ケリ。政府ハ租稅ニ關シ官有  
地ニ於ケル如ク所有權ヲ有スルヲ得ズト雖、其必要トスル費途ニ關シ法律上ノ請求權ヲ有スル  
ヲ得ベシ。如何ニシテ其請求權ヲ得ベキヤニ至テハ蓋會計豫算ハ即チ法律ナルガ故ニ、議院ノ  
承諾ヲ得ルニ非ザレバ效力ヲ有セズト云ヘル議院爭論ノ說ヲ排棄スルコト、又會計豫算ニ於ケ  
ル議院ノ參與ヲ以テ自由ナル承諾權ト解釋セザルコト是レナリ。夫レ會計豫算ハ一モ普通ノ規  
準ヲ有セザルガ故ニ、固ヨリ法律ニ非ズ。却テ或ル收入支出ノ全權ヲ與フルモノナリ。此全權  
ハ隨意ニ之ヲ付與シ、又ハ之ヲ拒否シ得ベキモノニ非ズ。何トナレバ若シ之ヲ拒否スルトキハ  
政府ノ運動ヲ阻止シ、國家ノ命脈ヲ危クスルニ至レバナリ。故ニ會計豫算ニ於テハ承諾ノ權ア  
ルノ理ナシ。但或ル支出ヲナスヲ至當ナリトスルガ如キ、各個費目ニ關スル便宜上ノ問題ナル  
ガ故ニ、行政權ノ區域ニ屬スルモノナリ。若シ此ノ問題ニ關シ議院ニ勢力ヲ與フルヲ以テ已ム  
ベカラズトセバ、單ニ豫算ハ法律ニ準據シタリヤ否ヤヲ審査スルノ參與權ヲ以テスベク、無限  
ノ承諾又ハ拒否ノ權ヲ與へ、此ニ依テ國君ノ憲法上ノ權利ヲ減絶スルヲ得ザラシムベキナリ。是

レ英國ニ於テモ亦實際認許セラル、所ニシテ、議院ノ多數ハ嘗テ宰相ニ對シ許否權ヲ實用シタ  
リシコトナキガ故ニ、此權ハ實ニ有名無實ノ物タリ。獨逸國ニ於テハ自由ナル議院ノ承諾權ハ  
是認セザル所ナリ。巴威爾(ペオツル氏國法論二百二十一條)ニ於テハ議院ハ便宜ノ支出ヲ許  
否スルヲ得ルモ、必要ノ支出ヲ許否スルヲ得ベカラズ。從テ議院ハ必要ノ支出ニ充ツル租稅  
ヲ承諾スルノ義務アリト云フノ原則ヲ行ヘリ。

普國(リオンネ氏國法論第一卷第十六條)ニ於テモ巴威爾ト同一ノ原則行ハレ、現行ノ法  
律ニ基ク收入及政府ノ法律上ノ義務ニ基ク支出ヲ拒否スルヲ得ズ。何トナレバ下院ハ憲法ヲ遵  
守シ、且其議稅權ヲ執行スルノ際、亦法律ヲ遵奉スベケレバナリ。故ニ自由ナル承諾權ハ常ニ  
便宜ノ支出新收入及現收入ノ變更ニ關シテノミ存スル者トス。但シ未ダ此ニ由テ實際ノ爭議ヲ  
一掃スルコト能ハズ。蓋新收入ヲ興スニ當テ其支出ハ便宜ノモノナルヤ、或ハ必要ノモノナリ  
ヤヲ區別スルニ關シテ、毎ニ一ノ爭議ヲ免レズ。而シテ從來確定ノ收入支出ハ異議ナク承諾セ  
ラル、ヲ例トス。

此ニ據レバ正當ナル普通確定ノ原則ヲ掲グルコト必要ナリ。即チ予ハ左ノ原則ヲ提出セント  
欲ス。

政府ノ一切ノ收入支出ハ毎年豫定シテ會計豫算ヲ製シ、政府ハ之ヲ議院ニ呈出シ、其承諾



ヲ經テ確定ス。

現行ノ法律又ハ其他ノ權利上ノ名義ニ基キタル徵收及現行ノ法律、又ハ政府ノ法律上ノ義務ニ基ク支出、又ハ皇帝ノ憲法上ノ權利ニ據ル所ノ支出及之ニ充ツル爲必要ナル費目ハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ。

會計豫算ノ確定ニ關シ叶議調ハザルトキハ内閣ノ責任ヲ以テ之ヲ裁決ス。

此原則ヲ説明センガ爲予ハ左ニ鄙見ヲ陳ベント欲ス。

第一 會計豫算ハ毎年其全部ヲ確定スベシ。是レ簡單ニシテ便宜ナル方法ナリ。何トナレバ將來ニ向テ束縛ヲ受ケザレバナリ。故ニ數年ニ渉ル會計豫算ハ予ハ之ヲ贊成セズ。是レ間接ニ議院ノ承諾權ヲ制限センガ爲ニ設ケタルモノニ過ギザルナリ。又收入ヲ永久ト臨時トニ分テ、或ハ通常ト非常トニ分ツモ亦其宜キニ非ズ。蓋シ臨時ノ收入モ變ジテ永久トナルアリ。永久ノ收入支出タリトモ毎年審査スルヲ正當トスレバナリ。如斯區別ヲナシタルハ畢竟議院ノ議稅權ヲ許與シタルガ爲ノ故ニ外ナラズ。又英國ノ「ホンコンソリド」ト雖亦一定不變ノモノニ非ズシテ、時ニ變更ヲ受クルモノナリ。此制度ノ本旨ハ或ル收入支出ヲシテ毎年國會ノ承諾ニ依テ左右セシメザラシムルガ爲ナリ。此制度ヲシテ果シテ立憲ニ乖カザル者トセバ、何故ニ毎年覆議スル所ノ必要ナル其他ノ支出ヲ毎年承諾スルヲ要スル乎。此ニ由テ之ヲ觀レバ毎年ナス所ノ自

由ナル承諾ハ事ノ自然ニ出ルニ非ズシテ議院政事ニ附著シタル固有ノ制度ニ外ナラズ。

第二 一般ノ立法權ト同一ナル獨立ノ議稅權即承諾權ハ是認スベカラザル者ナリ。會計豫算ハ法律ニ非ズ。行政權ニ屬スルモノナリ。而シテ其大部ハ現行ノ收稅法及其餘ノ法律ヲ執行スルハ用ヲナス。且財政ヲ整頓明瞭ニシ、殊ニ收入ト支出ト平均ヲ保ツガ爲ニ製スルモノナリ。然レドモ國會ニ承諾ノ權ヲ與フル所以ハ、沿習ノ立憲主義ニ戻ラズ、且會計豫算ニ關スル責任及監督ノ一部ヲ國會ニ任センガ爲ナリ。但此承諾權ヲ制限シテ現行ノ法律及國君ノ憲法上ノ權利ヲ妨害セシメザラシムベキノミ。故ニ國會ノ議稅權ハ一層下等ノ權トシテ現行ノ法律及國君ノ憲法上ノ行政權ニ從屬セシムベク、語ヲ更ヘテ之ヲ言ヘバ、議稅權ハ法律ヲ蔑視セズ、現行ノ憲法ヲ顛覆スル爲ニ濫用セザル程度ニ於テ之ヲ與フベキナリ。以上論ズル所ノ點ヨリ生ズル結果左ノ如シ。

(甲) 現行ノ收稅法(地租法等)ニ從フト、政府ノ其他ノ權利ニ據ルトヲ問ハズ、法律上政府ニ屬スル收入、例ヘバ政府ノ所有財產、手數料、郵便、鐵道等ヨリ生ズル收入ヲ繼續シテ徵收スルニハ、毎年更ニ承諾ヲ受クルヲ要セズ。此原則ハ普國ニ行ハル、ト雖、英國ニ於テハ然ラズ。巴威爾ニ於テハ唯其一部ノミ行ハル。如斯承諾ハ法律上理由アルモノニ非ズ。何トナレバ其收稅法及政府ノ其他ノ權利ハ既ニ存立スルヲ以テ、毎年其法律上ノ效力



ニ關シ更ニ疑問ヲ起スコトヲ得ザレバナリ。故ニ國會ノ承諾ヲ要スルモノハ、未ダ政府ノ有ニ歸セザル新收入ヲ興ス場合ニ限ルト雖、「丙」ニ掲グル制限アルノミ。

(乙) 支出ニ關シ獨逸國ニ於テハ政府ノ法律上ノ義務ニ基ク支出ニ限リ拒否スベカラザルヲ例トス。例ヘバ國債ノ利子、官吏俸給、契約又ハ法律ヨリ生ズル義務ノ如キ是ナリ。「ホンコンソリート」ノ制度アルガ爲、幾分カ制限セラレタルニモセヨ英國ノ如キ拒否權ハ獨逸國ニハ見ザル所ナリ。蓋シ國君ノ憲法上ノ行政權モ亦均ク遵奉セラルベキ權利上ノ名義ナリ。此行政權ヲ執行スルガ爲ニ必要ナル費目ヲ隨意ニ拒否セラル、ニ依リ、妨害ヲ被リ、之ヲ中止スルニ於テハ、大權ハ遂ニ實力ナキニ至ルベシ。法律ヲ司リ行政權ヲ行フ國君ノ權理中ニハ、必ズ之ガ爲ニ必要ナル支出ヲナスノ權ヲ含有セザルベカラズ。故ニ此國權執行權ノ及ブ限リハ、支出ノ權モ亦從テ存スルヲ以テ原則トス。獨逸國ニ於テ必要ナル支出ハ常ニ承諾セザルベカラズシテ、獨リ便宜ノ支出ヲ拒否スルヲ得ルヲ例トスルノ主義ハ「ラーバンド」氏ノ如キ有名ナル反討論者アルヲ以テモ其完全ナルヲ見ルベシ。何トナレバ必要ト便宜トノ分解ハ紛錯定ラザルガ故ニ、到底政府ト議院トノ間ニ起ル爭論ヲ免ルベカラザレバナリ。予ノ見ル所ニ據レバ、承諾ヲ拒ムコトヲ得ル支出ハ、凡ソ政府ニ權利ナキ支出即チ現行ノ法律又ハ命令ニ抵觸スルモノ、或ハ皇帝ノ行政權ノ及バザル目的ニ供スルモノ

例ヘバ法律命令ヲ超ユル俸給ノ如キ、又或ハ大臣ノ私用ニ供スルモノ、或ハ法律上ノ給與ヲ超ユル軍隊ノ費用ノ如キモノニ限ルベシ。

(丙) 權利アル支出ニ充ツル爲ニ必要ナル費目ハ拒否スルヲ得ズ。現收入ニシテ既ニ其支出ニ充ツルヲ得ベキトキハ議院ノ承諾如何ヲ問フヲ要セズ。然レドモ新收入ヲ要スルトキハ其承諾ヲ受ケザルベカラズ。例ヘバ新稅ヲ徵收シ、又ハ現行ノ租稅ヲ増額シ、國債ヲ募ルガ如キ是レナリ。此場合ニ於テハ如何ナル方法ヲ以テ新收入ヲ徵收スベキヤノ問題トナルベシ。而シテ國會ニ承諾ノ權ヲ與ヘザルベカラズ。例ヘバ政府ハ新稅ヲ徵收セント欲スルモ、議院ハ現行ノ租稅ヲ増額セント欲スルガ如シ。此問題ニ關シ政府ト議院トノ叶議調ハザルトキハ、舊說ニ從ヘバ之ヲ未決ニ付シ、而シテ一時前年度ノ會計豫算ノ效力ヲ保タシメ、或ハ現行ノ租稅ヲ繼續スルノ權ヲ政府ニ與フル者トス。是レ實ニ不當ノ事ナリト謂フベシ。何トナレバ此ニ依テ爭議ノ原因タル問題ヲ氷解スルヲ得ザルノミナラズ、又政府ハ憲法背反ノ汚名ヲ被リ、或ハ其必要ト認メタル支出及政事上ノ處置ヲ中止シ、之ガ爲國家ヲ危急ニ陥ラシムベケレバナリ。

予ノ提出シタル意見ニ據レバ、如斯爭議ハ內閣ノ責任ヲ以テ皇帝ノ最上裁決ヲ仰グベキモノトス。抑々各省ト國會トノ爭議ヲ裁決スルニ、國法上主權者ヲ置テ他ニ其權アルコト



ナシ。大臣ノ辭職、下院ノ解散ノ如キ、他ノ方法ハ或ハ主權ヲ侵害スルカ又ハ爭議ヲ延引スルニ止マルノミ。

然レドモ皇帝ノ裁決ハ其年度ノ會計豫算ニ對シテノミ效力アルモノニシテ、數年ニ涉リ效力ヲ及ボスモノニ非ザルコトニ注意スベシ。故ニ國王ノ裁決ハ國會ノ承諾ヲ受ケズシテ將來ニ效力ヲ有スル新税法ヲ設クルノ力ナキナリ。若シ其力アリトセバ議院ノ立法權ヲ侵害スルニ至レバナリ。人或ハ若シ其力ナシトセバ、次年ニ於テ爭議ノ再燃知ルベカラザルガ故ニ、實行ノ效果如何ヲ疑フ者アラン。然レドモ君主國ニ於テハ皇帝ノ裁決ハ常ニ絶大ノ勢力ヲ有スルモノナレバ、其間ニ必ズ虚心熟思議論調和スルニ至ルベシ。

以上ノ論旨ニ據レバ議院ノ議稅權ヲ左ノ事項ニ限ルベシ。

一 現收入ノ豫算上ノ稅額ヲ審査シ得ルモ其收入ヲ徵收スル政府ノ權ニ容喙スベカラズ。例ヘバ政府ハ地稅ヲ四億トスルモ議院ハ四億二千萬トスベシトスルガ如キ是レナリ。如斯收入ノ計算上ノ審査權ハ、之ヲ議院ヨリ奪フベカラズ。何トナレバ此權ヲ與ヘズトセバ現收入ヲ監督スルノ道絶エテ無キニ至レバナリ。

二 豫算上ノ支出科目ニ關シ、法律ニ合ヒ權力アルヤ。又法律命令上ノ額ナリヤ否ヤヲ審査スルヲ得ベシ。法律ニ準據スル支出ハ其法律ヲ改正スルニアラザレバ之ヲ増額スルヲ得ズト雖、

超然タル行政權ノ區域内ニハ、如斯制限アルコトナシ。例ヘバ國君ノ年金ヲ法律ヲ以テ定メタル場合ニ於テハ、之ヲ増額スルニハ同時ニ其法律ヲ改正スルニ非ザレバ能ハザルガ如シ。

三 國庫ノ爲、新費目ヲ承諾スルヲ得ベシ。例ヘバ新タニ租稅ヲ徵シ、現稅ヲ増額スルガ如キ是レナリ。

然レドモ如斯三様ノ關係ニ於テ、議院ハ無限ノ拒否權ヲ有スベキモノニ非ズ。若シ叶議調ハザルニ於テハ皇帝ノ裁決ヲ以テ終審トス。

以上ノ主義普國ノ制度ニ異ナル要點ヲ擧グレバ左ノ如シ。

一 此主義ニ於テハ普國ノ如ク自由ナル支出承諾權ヲ議院ニ與ヘズ。  
二 會計豫算ハ法律ト同一視セラレザルガ故ニ、議院ノ承諾ヲ以テスルト、皇帝ノ裁決ヲ以テスルトト問ハズ、如何ナル場合ニ於テモ必ズ之ヲ成立セシムベク、會計豫算ナキ、即チ憲法背反ノ政府タルノ非難ヲ避ケザルベカラズ。

事實上ヨリ觀察スレバ予ハ會計豫算ニ關シ叶議調ハザル場合ニ於テハ、國君ノ主權ヲ以テ其闕漏ヲ補フベシト云フ比斯馬耳克ノ主義ヲ採用シタリ。此主義ハ王權ヲシテ全ク議院ノ權力ノ下ニ立タザラシメントスルトキニハ正當ナルコト疑ナシ。然レドモ此兩權ノ爭議ハ國ノ爲ニ危険ニシテ、痛惜スベキモノニシテ可成之ヲ避ケザルベカラズ。故ニ議院ノ承諾權ヲ憲法ニ規定



シ、會計豫算ニ關シテハ議院ヲシテ法律ニ關スルト同一ナル自由權限ヲ主張セシメザルヲ以テ尤宜キニ適ストス。

獨逸國ノ近時ノ國法上ノ學理ハ、古來英國議院ノ議稅權ノ永續ニハ不利益ナリ。故ニ予ノ以上ノ意見ハ近時發育ノ國法ト同一轍ニ出デタリ。而シテ此學理ハ獨リ國法學上ニ於テ正當ナルノミナラズ、財政上ニ於テモ亦大ニ價值ヲ有スルモノナリ。何トナレバ議院責任ノ行ハル、國ニ於テハ、豫算漸時ニ増加シ、從テ國民ノ負擔重キヲ加フルコト實驗上ニ於テ明カナルハ、是レ畢竟專制政治ニ於テハ主トシテ儉約ヲ重ンズルモ、議院政事ニ於テハ各自其責ニ當ラザルヲ以テノ故ナリ。議院ガ支出ヲ拒ムハ多クハ政事上ノ權力ヲ爭フ場合ニ非ザレバ、大臣ヲ更迭シ或ハ之ヲ窘蹙セシムルノ目的ニ出ルモノナリ。之ヲ要スルニ議院ノ議稅權ハ之ヲ大臣攻撃ノ兵器ニ利用スルモノニシテ、君主政ノ主義ニ衝突スルモノト云フベシ。

其他予ハ非常ノ需求ニ充ツル爲、各省ノ通常ノ豫備レセルウエホラン金即處分アリスボジチオンスフオン權ノ外國財ヲ貯蓄スルヲ可ナリト信ズ。此國財ニ關シテハ政府ハ法律及憲法ノ範圍内ニ於テ自由ニ之ヲ處分シ得ル權ヲ有スベキナリ。

豫算超過ハ可成避クベキコトナリトス。然レドモ不得已之ヲ生ジタルトキハ豫算上ノ支出ニ於ケルト同一ノ方法ヲ以テ後日ニ之ヲ處理スベキナリ。

一月十三日

ハ・ロエスレル拜

第五十八條

格別ノ時宜ニ因リテハ七年ヨリ長カラザル時間ヲ期シテ、數年ノ繼續費ヲ議決スルコトヲ得ベシ。

第五十九條

帝室費及特別ノ法律ヲ以テ定メタル歲出歲入又ハ法律ニ依リ政府ノ義務ニ於テ必要ナル歲出ハ、之ヲ豫算ニ掲グルモ毎年決議スルノ限ニアラズ。歲出ニ係ル現在既定ノ命令ハ總テ法律ノカアル者トシ本條ニ準スベシ。

(問)

豫算ハ一部ノ全表トナシ議院ニ付シ、議決ヲ經ルノ後ハ一部ノ法律トナル者ナリ。然ルニ豫算中ニ左ノ二個ノ異ナル性質ノ元素ヲ包含ス。



一 歳入中税法ノ從前ヨリ一定シ毎年ノ豫算ニ由テ變動スベカラザル者。(普ノ第九九條ニ謂ヘルガ如シ)

二 歳出ノ憲法又ハ法律ニ依テ永久又ハ數年間一定シ、毎年ノ豫算ニ由テ變動スベカラザル者。(英ノ歳出第一類及各國ニ於テ國王ノ經費及國債償却其他法律ヲ以テ定メタル費用) 此ノ二ツノ種類ハ其豫算中ノ一部ヲナスニ拘ラズ、全ク議院ノ議ヲ容レザル者タリ。然ラバ議院ハ豫算ノ全部ヲ議決シテ一ノ法律トナス者ニ非ズシテ、ムシロ其一部ニ向テノミ毎年ノ議定ヲナス者ト云フベシ。憲法ニ於テ豫算ハ毎年之ヲ議定スト謂ヘルハ事業ト矛盾スルニ似タリ。

此ノ撞著ニツキ憲法ノ説明書ハ何等ノ辯解ヲナスヤ。英國ニテハ第一類ノ「ホン・コンソリド」ヲ以テ支辨スベキ部分ハ判然區別シテ之ヲ議院ノ議ニ付セズト聞ク。英國ノ法ヲ斟酌シテ豫算ヲ製スルニ明瞭ナル區別法ヲ用ウベキ歟。貴下ノ教ヲ望ム。

(答)

此問ニ關シテ既ニ議稅權ニ於ケル詳細ナル意見ニ於テ答ヘタリ。毎年議院ニ於テ豫算ノ一部ノミヲ承諾シ、他ノ部分ハ承諾ヲ經ザルハ固ヨリ矛盾ナリト雖、他ノ部分ハ永久或ハ數年ヲ期

シタルモノナリ。故ニ定期或ハ毎年ニ非ザルモ、即チ一時ニ承諾シタルモノナリ。又彼ノ英國ノ「ホン・コンソリド」ヲ以テ充テタル支出モ亦一定不變ノモノニ非ズ。即チ千八百五十四年ニ於テ此支出中ヨリ削除シテ、毎年議院ノ承諾ニ付シタルモノ數多アリ。此改正ノ目的ハ收入支出ノ全體ヲ議院ノ直接ナル監督ニ付シ、以テ國君ニ對スル議院ノ權力ヲ強大ナラメシントスルニ在リ。如斯議院ノ承諾權ハ法律ヲ以テ多少之ヲ制限スルヲ得ベク、又普國憲法第九九條ニ據ルニ既ニ法律ヲ以テ承諾シタル收入ハ毎年承諾ヲ受クルヲ要セザルコト明カナルニ於テハ、古來是認セラレタル議院ノ自由ナル承諾權ハ不易ノ原則ニ非ズ。且、立憲ノ性質中ニ必要トシテ存立スベキモノニ非ザルコトヲ斷言スルヲ得ベシ。畢竟此承諾權ナルモノハ勢力上ノ問題ニシテ法律上ノ主義ニ非ズ。而シテ承諾權ハ法律上認メラレタル物體、即チ國家ハ法律ヲ以テ保安セラレタル經濟上ノ生活ヲナスベキ自然法ニ衝突スルノミナラズ、議院ノ權力ヲ國君ノ主權ノ上ニ置クモノナルガ故ニ、君主制ノ憲法上ノ主義ト矛盾スルモノナリ。此等ノ顯著ナル承諾權ノ闕點ヲ彌縫センガ爲、百般ノ制度ヲ設ケタレドモ、普國ノ如キハ收入ヲ繼續シテ徵收スルヲ得ルモ、豫算ナクシテ支出ヲナスコトヲ得ザルガ故ニ、支出ノ權ナキ收入ハ政府ノ爲一モ効用ナキ矛盾ヲ免レザルナリ。此事固ヨリ實際上ニナキ所ナレドモ、論理上普國憲法ノ闕點ニシテ、他ノ邦國ノ模倣スベカラザル所ナリ。



若シ承諾權ヲ採用セザルカ、或ハ之ヲ正當ノ區域ニ復スルニ於テハ、機巧ノ制度ヲ設ケテ以テ認許スベキ議院ノ審査權ヲ曲ゲテ實際ニ制限スルノ要用ナキニ至ルベキナリ。

明治二十年一月十四日

ハ・ロエスレル拜

第六十條

豫算ノ各款ニ就テ兩議院ノ議決ヲ經タル者ハ流用ヲ許サズ。其各項ハ勅令ヲ以テ流用ヲ許スコトヲ得。

第六十一條

兩議院ニ於テ豫算ヲ議決セザルトキハ、政府ハ前年ノ豫算ニ依リ之ヲ施行スベシ。

(問)

普國ノ憲法九十九條ト百九條トハ互相矛盾スルニ似タリ。余ニ明瞭ナル解説ヲ與ヘラレンコトヲ望。

(答)

第九十九條 現行ノ租稅及ビ定法ハ、別法ニ由テ之ヲ廢セザル限ハ其効ヲ有スベシ。

第九十條 國ノ入額及出額ハ毎年之ヲ豫算表ニ記載スベシ。

豫算表ハ毎年法律ヲ以テ之ヲ作ルベシ。

第九十九條ノ制定セラレタルトキノ主意ハ、當時現行ノ租稅及定法<sup>コト</sup>ニノミ適用スベキニ在リ、

政府ハ本條ハ毎年ノ豫算表ニ適用スルモノナリトノ解釋ヲ下シタリ。

然リト雖モ普國ノ法<sup>アエリスブリユテス</sup>理學ニ於テ、右二條ノ互ニ相矛盾スルコトハ疑ヲ容レザル所ナリ。

(再答)

普國憲法第九十九條、第九十條ノ互相矛盾スルコトハ歷史上ニ就テ之ヲ説明スルニ非レバ能ハザルベシ。千八百四十八年迄ハ普國ニ憲法ナク、政府ノ費出及租稅ハ毎年國王其執政ト共ニ之ヲ決定シ、千八百四十八年ニ至テ國王始メテ憲法ヲ勅定シタリ。故ニ普國憲法ハ、國王ト國民トノ協議ニ出タル者ニ非ズ。是レ此憲法ニ就テハ其發令前ニ於テノ論議及説明等アルコトナキ所以ナリ。而シテ第九十九條及第九十條ハ則チ此千八百四十八年ノ憲法ノ中ニ在ル者ナリ。千八百四十九年此憲法ヲ改正スルノ議起リタルトキ、國會下院ハ第九十條ヲ廢棄セント欲シタル



モ上院此ト協同セザルヲ以テ終ニ廢棄セラレザリキ、而シテ當時議員中或者ハ此條ハ一千八百四十八年ニ現在シタル租税ニノミ適當シタル者ナリト論ジ、又或者ハ税法ハ確乎不動ナルモノナルモ實際ニ於テ徵收スル所ノ稅額ハ國計表ヲ以テ之ヲ決定スベシト云フ主意ナリト駁シ、又或者ハ新出ノ國計表決定セラル、迄、前年ノ國計表ヲ使用スベシト云フ義ナリト云ヒ、其說ハ到底歸一スルコト能ハザリシ。余ハ第一ノ見解ヲ以テ至當ノ者ト思惟ス。然レドモ政府ノ論ニ依レバ、既ニ税法ノ制定アル上ハ縱令國計表ナキモ此税法ノ効力ニ依テ租税ヲ徵收セザルベカラズ。其故ハ若シ國計表ニ就テ國會ノ議政府ト協同セザルトキハ、政治ヲ施行スルニ必要ナル費額ヲ得ル能ハザレバナリト。是レ政府モ暫時ノ制規ヲ奇貨トシテ其權力ヲ維持シタル者ナリ。蓋第百九條ハ憲法ノ末尾ニ記載アル其他ノ條項ト同ク單ニ暫時ノ制規ニ止マル者ナリ。第百九條ハ租税ノコトノミヲ制定シタル者ニシテ、歲費ノコトハ第九十九條ニ記スルノミ。然ルヲ政府ハ已ニ租税ヲ賦課スルノ權ヲ有スル上ハ、自ラ之ヲ費出スルノ權ヲモ併セ有スベク、若シ之ヲ併有セザル者トセバ、租税ヲ賦課スルノ目的ヲ失スルナリト遁辭ヲ述タルモ、千八百五十九年始メテ改進黨ノ執政ガ就職シタル時ニ當テ、政府ハ前論ノ第九十九條ト矛盾スルハ政略上已ニ得ザル場合ナリシト迄ニ自認シタリ。千八百六十二年迄ハ政府ト國民トノ軋轢猶甚シキニ至ラザリシハ、蓋前年ノ國計費ヲシテ單ニ新出ノ國計表ヲ決定スルノ時迄其効力

ヲ有セシメタレバナリ。然ルヲ同年「ピスマーク」氏ガ大執政トナリタル際ニ於テハ、軋轢極度ニ達シ、千八百六十六年迄其局ヲ結ブコト能ハズ。此四年間國計表ニ就キ政府ト國會ト終ニ協同セザリシモ、政府ハ憲法ノ趣意ハ國王ト國會ト國計表ニ就テ協同セザルトキハ、國王ノ主權其上ニ位スル者トノ議ヲ主張シテ租税ヲ徵收シ、且徵額及費額ヲ増加シ千八百六十六年ニ於テ「ピスマーク」氏ハ承認法案ヲ國會ニ提出シ、以テ前四年間國計表ナク租税ヲ徵收シ、且ツ之ヲ支出シタル政府ノ所爲ヲ承認センコトヲ請求シ、而シテ國會ハ之ヲ承諾シタリ。右ニ陳述セシ紛爭ノ末終ニ現今ニ於テハ左ノ如ク結局シタリ。即チ租税ニ就テハ政府ハ國計表ナキモ、現在ノ税法ノ効力ニ依テ之ヲ徵收スルコトヲ得。費出ニ就テハ國計表ナキ時ハ政府ハ前年ノ國計表ニ依テ之ヲ決定シ、更ニ國會ニ對シテ其承認ヲ要求スベキコト。

第六十二條

歲出歲入ノ決算ハ每年會計検査院ノ審査報告ヲ併セ兩議院ニ附シ、其承認ヲ經テ之ヲ完結ス。



已ムヲ得ザルノ情狀ニ由リ、一歳ノ支費豫算ニ超過シタルカ又ハ歳入其豫定ノ額ニ充タズシテ更ニ補充費ヲ支出シタルトキハ、次年ノ開會ニ於テ之ヲ兩議院ニ報告シ其承認ヲ求ムベシ。

(問)

承認法ヲ要スルノ場合ニ於テ、若シ議院之ヲ承認セザル時ハ如何ナル結果ヲ生ズベキヤ。此時政略ニ拘ラズ専ラ法律上ノ點ヨリ論ズルトキハ、政府ハ何等ノ處置ヲ爲スベキヤ。又普國憲法第百四條ノ精神ハ如何。

承認法トハ政府豫算外ノ費用ヲナシタルニ對シ後日議院ニ承認ヲ求ムルノ法ヲ云。

臨時若ハ過額ノ費用議會ノ承諾

一 若シ收入額ヨリ多キノ費用(支出)ヲ爲セシトキハ歲計不足アルモノトス。此ノ場合ニ於テハ別ニ議會ノ承諾ヲ得ルヲ要セズ。然レドモ歳入ノ増額ヲ要スルカ、又ハ起債ノ處分等ヲ要スルモノトス。

二 兩院ノ議決セザル費用ヲ爲セシトキハ政府ノ爲メニ議決シタル豫算又ハ定額ニ付テノ越法(法律ノ未ダ許サザルコトヲナスコト)アルモノトス。

豫算ニ付テノ越法ハ議決セザリシ臨時ノ費用ヲ爲スカ、又ハ議會ノ議決ヲ以テ附與シタルノ金額ヲ超ユル過額ノ費用ヲ爲スカノ場合即是ナリ。

三 憲法ノ原則ニ於テハ豫メ許可ヲ得ザリシ一切ノ費用ハ之ヲ辯明シテ事後ノ認可ヲ得ルヲ要ス。即チ議院ノ承諾ヲ求ムルヲ要スルモノトス。

故ニ普魯士王國憲法第百〇四條ニ「決定豫算ニ付テノ一切ノ越法ハ上下兩院ノ事後ノ認可ヲ求ムルヲ要ス」ト掲ゲタリ。此ノ原則ニハ豫算法律中ニ殊ニ變例ヲ設クルニアラザレバ一切除外ナキモノトス。

假令バ豫算中ニ「建築ニ關スル定額ニシテ現年度ニ爲ストコロノ一切ノ節儉額ハ次年度ニ繰越スヲ得ベシ。ト掲グルヲ得ベシ是レ即チ一ノ變例ナリトス。何トナレバ各種事務ノ節儉額ハ通常ハ政府ノ隨意ニ使用スベカラザルモノナレバナリ。

四 然レドモ豫算即チ國會議決ニ付テノ越法トハ如何ナルモノナルカヲ研究セザルベカラズ。此ノ問題ニ於テハ國會ノ議決シタル金額ト該金額ヲ議決シタル事項トノ區別即チ議決ト審査トノ區別ヲナスヲ要ス。



舊時ニ於テハ各國政府ハ各省事務ノ爲ニ議決シタル金員ノ全額ハ隨意ニ流用スルコトヲ得ベシトノ法則ヲ定メンコトヲ務メタリ。政府ハ國家ノ議決ニ違背スルヲ欲スルニアラズ。然レドモ豫算ノ議決ト審査トノ區別ヲナシ、豫算ノ各事項ノ審査ハ唯議決ノ理由トスルニ過ギズシテ政府ヲシテ該科目ヲ遵守スル義務ヲ負ハシムルノ力ナキモノナリト云ヒ、又一説ハ國會ハ常ニ某事項ノ爲ニ金額ヲ議決スルモノナレバ從テ該金額ハ他ノ事項ニ流用スルヲ得ズ、他ノ事項ニ流用スルハ殆ド國會ノ議決ヲ取消スナリト云ヘリ。

故ニ一ハ豫算ニ付テノ越法トハ獨リ議決ノ全額ヲ超過スル者ヲ謂フト云ヒ、一ハ豫算ニ付テノ越法ハ豫算全額ヲ組織スル各項全員ヲ超過スルトキ、即チ各事項ノ爲ニ議決シタル金額ノ配分ヲ變更スルヲモ併セ稱フルモノト云ヒ兩議ノ争ハ遂ニ「兩院ニ於テ殊ニ（各事項ニ付キ）議決シタル金額ヲ超過スル所ノ一切ノ費用ハ豫算ニ付テノ越法ナリ。故ニ國會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス」トノ法則ヲ定ムルニ至レリ。

然レバ此ノ越法ノ問題ハ豫算各科目ノ定額ニ係ルモノトス、而シテ設費額ハ大抵特別ニ各事項ニ付キ又ハ數事項ヲ通ジテ議決スルモノトス。

五

普魯士ニ於テハ豫算ハ大科目中科目及小科目ニ分ツ。而シテ千八百七十二年三月廿九日ノ法律第十九條ニ掲グルニ「一小科目ノ爲ニ議決シタル金額ハ之ヲ超過スルヲ得ズ。又他ノ

小科目ニ移轉（流用）スルヲ得ズ、又一中科目ヨリ他ノ中科目ニ移轉スルヲ得ズ」トノ法規ヲ以テシタリ。故ニ一小科目又ハ一中科目ノ爲ニ殊ニ議決シタルノ金額ヲ超過スルノ一切ノ費出ハ、豫算ニ付テノ越法即チ豫算法律ノ超越ナリトス。故ニ既ニ許可セラレタルノ移轉ヲ除クノ外ハ必ズ之ヲ辯明シ事後ノ認可ヲ得ルヲ要ス。

上文ノ理由ニ依レバ一○小科目中ニ於テ一事項ノ費用ヲ他ノ事項ニ移轉（流用）スルコトハ政府ノ隨意ニ任ズルハ法律ノ許ス所ニシテ議會ノ承諾ヲ要セズ。故ニ臨時又ハ過額ノ費用ハ同一ノ小科目中ニ於テ爲セルノ節儉額又ハ減額ヲ以テ之ヲ補フヲ得ベシ。然レドモ他ノ小科目中ニ於テ爲セルノ節儉額又ハ減額ヲ以テ之ヲ補フヲ得ズ。

六 又臨時若クハ過額ノ費用ハ豫備即チ隨意支用費ヲ以テ之ヲ補フコトヲ得ベシ。而テ設費ヲ議會ニ於テ豫算法律中ニ議決スルニハ一般ニ通シ又ハ特別ニ限ルモノトス佛朗西ニ於テハ設費ニ三ツノ種類アリ。即チ左ノ如シ。

(甲) 臨時定額 此ノ金額ハ豫見スベカラザル臨時ノ費用ヲ補フモノトス。

(乙) 補足定額 此ノ金額ハ議決金額ノ不充分ナルトキニ於ケル過額ノ費用ヲ補フモノトス。

(丙) 補充定額 此ノ金額ハ一年度ノ決算ヲナストキニ於テ不充分ナル定額アル時ニ已ム

佛朗西ハ  
普魯士ハ  
誤ナルベシ



ヲ得ザルノ時宜ニ依リ之ヲ完全セシムルニ供スルモノトス。

豫備費臨時定額又ハ補充ノ定額ヲ以テ支出シタルノ費用ニ付テハ、議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要セザルハ明白ナリ。何トナレバ設豫備費又ハ臨時補足補充ノ定額ハ既ニ兩院ノ議決ヲ經タルモノナレバ、再度ノ認可ヲ經ルヲ要セザレバナリ。

七 佛朗西ニ於テモ殆ド同様ノ原則ヲ履行シ、僅ニ修刪アルニ止マル。千八百六十一年十二月廿一日ノ元老院議決ニ依レバ、歳出ノ豫算ハ大科目中科目及小科目ニ分チ、各省ノ豫算ハ大科目毎ニ之ヲ議決シ、各大科目ニ附與シタル定額ヲ中科目ニ配分スルハ參事院ノ議決ヲ經タル勅令ヲ以テ之ヲ規定シ、又同様ノ式ヲ經タル特別（一事件ニ付殊ニ發スルモノヲ特別ト云フ）ノ勅令ヲ以テ、各省豫算中一中科目ヨリ他ノ中科目ヘノ流用ヲ許可スルヲ得。故ニ同一中科目中一小科目ヨリ他ノ小科目ヘノ流用ハ當設卿ノ隨意ニ爲スヲ得タルモノナルベシ。臨時定額又ハ補足定額ハ法律ヲ以テスルニアラザレバ之ヲ附與スルヲ得ズ。然レドモ往時ニ於テハ勅令ヲ以テ之ヲ開設スルヲ得タリシナリ。又千八百七十年七月廿七日ノ法律ヲ以テ流用ヲ爲スノ權ハ尙一層之ヲ制限シ、遂ニ千八百七十一年九月十六日ノ法律第三十條ニ掲グルニ「豫算ハ中科目毎ニ之ヲ議決ス。一中科目ヨリ他ノ中科目ヘノ流用ヲ爲スコトヲ得ズ」トノ法律ヲ以テシタリ。

八 以上ノ趣旨ヲ略言スレバ左ノ如シ

（甲） 特別ノ議決ニ反シテ爲ス所ノ各費出ハ事後ノ認可ヲ求ムルヲ要ス。

（乙） 法律ノ限内ニ於テ一事項ヨリ他ノ事項ヘノ流用ヲ以テ爲シタル豫備費臨時定額又ハ補足定額ヲ以テ支出シタルノ費用ハ既ニ議決ヲ經タル費用ト認ムルヲ要ス。

（丙） 常ニ議決ト審査トヲ區別スルヲ要ス。審査ハ單一小科目ニ於テ殊ニ議決シタルノ金額ヲ組織スル各小金員ノ配置ニ關スルモノニシテ、政府ヲシテ、必ズ之ヲ遵守セシムルノ義務ヲ負ハシメザルモノトス。

東京千八百八十二年十一月十六日

ロエスレル手署  
宇川盛三郎譯

議院ノ承諾

（答）

一 政府ニ於テ議院ノ議決許可セザルノ費用ヲ爲ストキハ、憲法ニ從ヒ之ヲ議院ニ報告シ、事後ノ議決ニ依テ承諾ヲ求ムルノ義務アルモノトス。白耳義ニ於テハ議院ノ承諾ニ單一ノ認



可ト寛恕トノ區別アリ。單一ノ認可ハ議院ニ於テ政府ノ爲セル費用ハ正當ナリ、必要ナリ又之ヲ爲スハ政府ノ權理ニシテ且義務ナリトノ意見ナルトキノ承諾是レナリ。寛恕トハ議院ニ於テ政府ノ爲セル費用ヲ正當ナリト必要ナリト認めザルモ、政事上政黨上又ハ其他格外ノ理由アルニヨリ政府ノ爲ニ負責ヲ解カント欲スルトキノ承諾是レナリ。議院ニ於テ政府ノ爲セル費用ヲ認可スルモ其恕スルヲモ欲セザルトキハ、政府ハ政事上又ハ法律上ニ於テ其費用ノ責ニ任ズベシ。

## 二

政事上ノ責任ニ至テハ其事態(結果)ハ代議政體ニ於ケルト君主政體ニ於ケルト各異ナルモノトス。代議政體ニ於テハ政府ハ國會ノ多數ヲ失ヒ其議決ヲ以テ非難(不誌可)セラルルトキハ辭職セザルコトヲ得ザルベシ。然レドモ君主政體ニ於テハ政府ハ君主ノ權ニ據リテ維持セラレ時宜ニ依テハ少數ヲ以テ統治スルコトヲ得ルガ故ニ、代議政體ニ於ケルト同様ノ結果アラズ。政府ハ國會ニ非難セラル、モ其事態ハ仍舊ニ依ルノミ。此ノ場合ニ於テハ政府ト議院トノ間ニ爭議アルヲ免レズト雖ドモ、政府ハ普國憲法第百〇九條ニ規定シタルガ如ク、人民ニ於テ現行ノ租税ハ國會議決ノ有無ニ拘ハラズ、是レヲ拂フノ義務アル間ハ其位置ヲ維持スルヲ得ベシ。普國ニ於ケル豫算ノ議決ハ政府ニ歳入ヲ讓與(附與)スルニアラズ、唯歳出入ノ數額ヲ國會ニ於テ勘辨スルニ止マルモノトス。歳入ハ租税雜稅國有

財產等ニ關ル特別法律ニ據テ固ヨリ政府ニ屬スルモノトス。

## 三

法律上ノ責任ニ至テハ習慣又ハ特別法律ヲ以テ之ヲ規定セザルトキハ、何等ノ結果モ之ナキモノトス。普魯士憲法第四十四條及第六十一條ニ依レバ、執政大臣ハ政府ノ命令ニ付テハ責任ヲ有スルヲ以テ、國會ハ憲法違背及叛逆贓賄ノ罪ヲ以テ之ヲ訴フルヲ得ベシト雖ドモ、其責任ノ場合、治罪ノ方法及刑例ハ一ノ特別法律ヲ以テ之ヲ規定スベシト掲ゲ、而シテ此ノ特別法律ハ今ニ至ルマデ制定セラレタルコトナキガ故ニ、法律上ノ責任ハ未ダ之ヲ實施スルヲ得ザルナリ。且政府ニ於テ議院ノ議決セザル費用ヲ爲シタルノ事實ハ憲法違背トシテ、實ニ法律上ノ責任ノ一ノ場合ナルヤ否ヤ亦疑フベキニ屬ス。何トナレバ政府ハ臨時若ハ過額ノ費用ヲ爲スベカラズト規定セラレタルコト嘗テコレナケレバナリ。唯政府ノ義務ハ某ノ費用ヲ必要ナリ。又ハ有益ナリト思考シ、之ヲ爲シタルトキハ、之ヲ議院ニ報告シ事後ノ認可ヲ求ムルニアリ。故ニ假令ハ議院ノ認可ヲモ寛恕ヲモ得ルコト能ハザル時ニ於テモ、政府ハ自己ノ義務ヲ爲シタルモノナレバ、其權力及君主ノ承諾又ハ命令ニ據テ保持スルヲ得ベシ。此ノ場合ニ於テハ政府ト議員トノ間ニ意見ノ差異アルモノトス。然レドモ意見ノ差異ハ直チニ政府ヲ以テ有罪ト爲スコトヲ得ズ。

## 四

法律已ニ執政大臣ノ法律上ノ責任ノ場合(事項)ヲ規定シ、且其裁判ヲ管轄スル治罪手續



ヲ定メタルトキハ、議員ハ其議決ナクシテ支出シタル費用ノ仕拂命令書ニ手署シタル有罪執政大臣ヲ訴フルカ、又ハ訴ヘザルカハ其隨意ニアルモノトス。之ヲ訴ヘザルノ場合ニ於テハ、明許ノ承認ヲ與フルノ代リニ默許ノ承認ヲ與ヘタルモノトス。而シテ政府ハ實際上ニ於テ法律上ノ責任ヲ解カレタルナリ。然レドモ君主又ハ議員ニ對シテ尙政事上ノ責ヲ負フモノトス。

## 五

司法上ノ訴ノ場合ニ於テハ、執政大臣ハ第一ハ法律ニ反シテ支出シタル金員ニ付テハ民事上ノ責任ヲ有シ、之ヲ償還スルヲ要スルコト權限ヲ超越シタル他ノ一般ノ代理人ト異ナルコトナク、第二ハ法律ニ於テ罰條ヲ規定シタルノ所爲ヲ犯シタルガ爲ニ、刑法上ノ責任ヲ有スルコト、皆疑フベキニアラザルナリ。而シテ刑例ハ其場合ニ從ヒ、或ハ單ニ公務上ノ處罰、即チ解職、黜等罰俸等ナルカ、又ハ普通ノ刑即禁錮死刑ノ類ナリトス。執政大臣ノ所爲善意ニ基クモノナルトキハ、此ニ對シ民事上ノ責任ヲ負ハシメ、又ハ解職ノ外ニ刑ヲ科スルガ如キハ極メテ稀ナルノ事ナリ。

## 六

故ニ臨時若ハ過額ノ費用ヲ爲シタル場合ニ於テハ、政府ハ法律上ヨリシテハ議院ニ向テ之ヲ辯明シ、其認可ヲ求ムルノ義務アルモノトス。若シ議院ノ認可ヲモ寬恕ヲモ得ルコト能ハザルトキハ、政府ハ代議政體ニ於テハ其職ヲ辭シ、其位置ヲ反對黨ニ讓リ、以テ法律上ノ責任ヲ避ルコトヲ得ベシ。然レドモ君主政體ニ於テハ政府ハ其位置ヲ維持シ、將來ノ和解(政府ト議院トノ)ヲ得ルマデハ疑題ヲ擱置スルコトヲ得ベシ。但シ既ニ法律上ノ告訴法ヲ制定シ、執政大臣ヲ訴ヘ之ヲ停職シ、又ハ之ヲ改任スルヲ得ルトキハ格別ナリトス。上文ノ理由ナルヲ以テ政府ハ法律上ヨリシテハ議院ニ向テ費用ヲ辯明シ、司法上ノ告訴アルトキハ裁判所ニ向テ之ヲ辯明スルノ外何等ノ事ヲ要セズ。又何等ノ事ヲ爲スヲ得ザルモノナリ。然レドモ成法ニ依テ充分ノ歳入アルトキハ、其費用ヲ續行シ又ハ之ヲ再三スルヲ得ベシ。君主政體ニ於ケルノ議院ハ主權上ノ勢力ヲ有セザルヲ以テ、君主ノ意ニ抵抗スルヲ得ザルナリ。

## 七

普國憲法第百〇四條ノ精神ハ君主政體上ニ於テ講究スルヲ要ス。故ニ政府ハ法律上即チ兩院ノ議決ヲ以テ許可セラレズシテ新稅ヲ徵シ、又ハ公債ヲ發スルヲ得ズト雖政府ハ成規ノ歳入ヲ以テ隨意ニ臨時若ハ過額ノ費用ヲ爲スヲ得。而シテ憲法上ノ義務ハ唯之ヲ辯明シテ兩院ノ認可ヲ求ムルニアリ。若シ議院ニ於テ認可又ハ寬恕ヲ拒絕シタルトキハ、政府ト議院トノ間ニ紛議アルモノトス。而シテ此紛議ノ場合ニ於テ君主ハ法律上ヨリシテ讓與ヲ爲スノ義務ナキモノトス。普國ニ於テ「ビスマルク」公内閣ノ時ニ此ノ紛議ノ四年間續キシコトアリ。



八 豫算ハ眞實ノ意義ニ於テハ法律ニアラズシテ單ニ歳出入ノ勘算ナルコトヲ忘ルベカラズ。而シテ其勘算或ハ錯誤ナリ、或ハ不充分ナルコトアルガ故ニ、事宜ニ依テ法律ノ範圍内ニ於テ之ヲ訂正シ之ヲ完全セシムルハ君主ノ執行權ノ職務ナリトス。何トナレバ此豫算ハ常ニ政府ノ監督權内ニアル政事上又ハ行政上ノ需要ニ供スルモノナレバナリ。此ノ問題ハ白耳曼ノ他ノ諸國ニ於テハ一層容易ナルモノトス。例ヘバ「バウイエル」國ノ如キハ政府ノ節儉金額又ハ歳入ノ餘裕ヲ以テ、自由ニ臨時ノ費用ヲ爲スコトヲ得ルモノトス。

ロエスレル手署

宇川 盛三郎 譯

第六十四條

會計検査院ハ會計出納ヲ監視シ、毎年ノ決算ヲ検査ス。會計検査院ノ編制及權限ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム。

第六十五條

兩議院ノ承認ヲ經ザレバ國債ヲ起シ及國庫ノ負擔ニ係ル政府ノ保證ヲ與フルコトヲ得ズ。

第七章 軍 兵

第六十六條

徴兵ノ方法ハ法律ノ定ムル所ニ依ル。平時ニ於テ毎年徴員ノ數ハ現時ノ定額ヲ増加スルトキニ限り之ヲ議院ノ議ニ付スベシ。

戰時ニ於テ國民軍ヲ徵集スルハ勅令ニ依ル。

第六十七條

陸海軍ノ編制ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル。

第六十八條

外國ノ軍隊ハ法律ニ據ルニ非ズシテ日本國ノ軍役に從事シ、及日本國ノ土地ニ屯駐シ、又ハ經過スルコトヲ許スコトヲ得ズ。



第六十九條

常備軍隊ハ法律ニ定ムル時機ニ於テ、文衙ノ請求ニ由リ内亂ヲ鎮壓シ、及法律ヲ施行スル爲ニ之ヲ用ユルコトヲ得。

第七十條

軍隊ハ服務ノ内外ヲ論ゼズ多衆議事スルコトヲ得ズ。命令ニ由ラズシテ集會スルコトヲ得ズ。軍隊ハ政談演說ヲ爲シ、及參會シ又ハ政事ノ意見ヲ建白スルコトヲ得ズ。

第七十一條

戰時又ハ内亂ニ當リ、全國又ハ國ノ或ル部分ニ向テ戒嚴ノ令ヲ公布スルハ勅令ニ由ル。法律ハ戒嚴ノ節目及合圍地方ニ限リ軍隊司令官ニ委任スル處分ノ場合ヲ定ム。

第七十二條

陸軍及海軍裁判ハ陸軍及海軍刑法ニ依リ專軍屬ノ刑事ノ犯人及軍法ノ犯者ヲ處分ス。

試草

乙案

井上毅

乙案例言

一、本案ハ務メテ許多ノ章ヲ列舉スルヲ以テ目的トシ、敢テ雜フルニ私意ヲ以テセズ、其採擇取捨ハ一ニ當局ノ責ニ在ルヲ以テ歸重ノ點トスレバナリ。

一、但、各國ノ憲法中、其共和ノ主義ニ出ル者ハ勿論ニシテ、其立君主主義ニ屬スル者ト雖、亦中古以來三權分立ノ謬說ニ源流シ、既ニ近世學者ノ辯駁ヲ經タル者ハ敢テ本案ニ網羅スルノ範圍ニ容レズ。例如ヘバ王ハ行政ノ主長ナリト謂フノ類是ナリ。其他王ハ神聖ナリ不可犯ナリト謂フガ如キ、彼ノ各國ニ於テハ蓋必要ノ條ナリト雖、之ヲ我國ニ用ユルニ於テハ意義ナキノ贅言タルニ過ギズ。又王ハ貨幣ヲ鑄ルノ權アリト謂フガ如キ貨幣ニ王ノ顔面ヲ銘刻スルノ慣例ヨリ來ル者ニシテ、明カニ我國ニ用ユル所ナシ。故ニ此類ハ併セテ之ヲ省ク、敢テ取捨スルニハ非ズ、亦已ムヲ得ザルナリ。



一、國民權ハ憲法中ノ最重要部分ニ居ル。但シ各國ノ憲法多クハ雜フルニ學術上ノ理論ヲ以テシ、事實ト相顧ミズシテ過度ニ張言スルハ佛國革命ノ民權宣告ノ餘流ヲ傳フル者ナリ。今之ヲ一條ニ列舉シ以テ精簡ニシテ該括ナルヲ期ス。

一、各國ニ於テ内閣及行政各部分分置ノ制度ヲ以テ之ヲ憲法ニ詳載スルアリ。即チ瑞典、丁抹、匈牙利、丸執堡、盧克山堡等是ナリ。然ルニ内閣及行政各部ノ官制ハ專天皇ノ大權ニ由リ便宜廢置スルヲ當然トスベキヲ以テ、今茲ニ多キヲ務メテ列舉スルコトヲ爲スズ。

一、議院ノ制ハ細大ヲ併セテ之ヲ憲法ニ列舉スルハ大抵各國ノ同キ所ナリ。然ルニ巴威爾ニ在テハ憲法ノ列別ニ議院法律ヲ行ヒ、憲法ハ務メテ大體ヲ掲ゲ而シテ其細節ハ之ヲ法律ニ舉ゲ、一ハ永遠ニ動かサザルヲ主トシ、他ハ宜キニ隨ヒ改正スルノ便ヲ取ル。今、本案議院ノ部ニ於テハ主トシテ其權限及行政官ノ關係ヲ掲ゲ、別ニ議院法律案ヲ草シ、議院事務執行ノ基準ヲ詳明ニセンコトヲ期シタリ。亦巴威爾ノ前軌ニ倣ヘルナリ。

一、議院ノ部ニ付、憲法ノ外左ノ三ノ法憲アルヲ要ス。

一、代議士選舉法

一、元老院組織法

一、議院法律

此以外ニ各議院ニ於テ憲法及議院法律ニ準據シテ其議事規則及議員ノ紀律ヲ設クルハ其ノ權内ニ在リ。

一、右ノ外會計兵制司法ノ部ハ務メテ網羅ヲ主トシ繁多ヲ避ケザルナリ。

一、各條彼此重複スル者アルハ姑ク之ヲ兩存シテ以テ取捨ヲ仰グナリ。

目次

- 第一、皇位及主權
- 第二、國土及國民
- 第三、内閣及參事院
- 第四、兩議院
- 第五、司法權
- 第六、會計及租稅
- 第七、軍兵
- 第八、總則

計七十九條

乙案試草



(參照) 各國憲法編制ノ體要ハ其目次ヲ以テ槩見スベシ故ニ今其一ニヲ舉ゲテ參照トス。  
○荷蘭 千八百十五年

第一、王國及國民

第二、國王

第一款 王位相續

第二款 國王歲入

第三款 國王太保 チユテール

第四款 攝政 レジヤンス

第五款 國王即位

第六款 王權

第七款 參議院及各省

第三、國會

第一款 國會設置

第二款 國會下院

第三款 國會上院

第四款 兩院ニ通用スル條則

第五款 立法權

第六款 歲計預算表

第四、州會及邑官

第一款 州會設置

第二款 州會職任

第三款 邑官

第五、司法權

第一款 總則

第二款 大法院及諸裁判所

第六、法教

第七、會計

第八、兵備

第九、河渠流橋提ノ管理

第十、教育及施濟



第十一條、根本法ノ修法  
附則

○巴威里

千八百十八年

緒言

- 第一、總則
  - 第二、國王、王位繼承、攝政
  - 第三、國有地
  - 第四、國民權利及義務
  - 第五、特權及特許
  - 第六、國會
  - 第七、國會職任
  - 第八、司法權
  - 第九、兵制
  - 第十、憲法ノ保任
- 附則

○瓦敦堡

千八百十九年

緒言

- 第一、王國
- 第二、國王 王位繼承及攝政
- 第三、國民通權
- 第四、官衙
- 第一 官吏
- 第二 內閣
- 第五、邑區
- 第六、教會ト政府トノ關係
- 第七、主權ノ執行
- 第八、會計
- 第九、國會
- 第十、國會法院

○葡萄牙

千八百二十六年

乙案試草



- 第一、葡萄牙王國、屬地政府國朝及法教
- 第二、葡萄牙國人
- 第三、政權及國民代理
- 第四、立法權
  - 第一章 立法權分割及職任
  - 第二章 代議士院
  - 第三章 貴族院
  - 第四章 法律起案討論制可及公布
  - 第五章 選舉
- 第五、國王
  - 第一章 節制權
  - 第二章 行法權
  - 第三章 王族及王族歲入
  - 第四章 王位繼承
  - 第五章 國王未成年又ハ故障ノ時ニ於ケル攝政

- 第六章 執政
  - 第七章 參議院
  - 第八章 軍兵
  - 第六、司法權
    - 第一章 裁判官及裁判所
  - 第七、州政
    - 第一章 施政
    - 第二章 議會
    - 第三章 國租
  - 第八、總規則及葡萄牙國民ニ屬スル政權民權ノ保固
- 白耳義
- 第一、國土及其區別
  - 第二、白耳義人及權利
  - 第三、政權
    - 第一章 兩院



- 第一款 代議院
- 第二款 元老院
- 第二章 國王及大臣
  - 第一款 國王
  - 第二款 諸大臣
- 第三章 裁判權
- 第四章 州邑制度
- 第四 會計
- 第五、軍兵
- 第六、總則
- 第七、憲法ノ修正
- 第八、假則

○西班牙

千八百四十五年

- 第一、西班牙人
- 第二、國會

- 第三、元老院
- 第四、代議士院
- 第五、國會々期及職任
- 第六、國王
- 第七、王位繼承
- 第八、國王未成年及攝政
- 第九、執敗
- 第十、司法權
- 第十一、州會及邑會
- 第十二、租稅
- 第十三、軍兵
- 附則

○伊太利

千八百四十八年

- 前置
- 國民權利及義務



○元老院

○代議士院

○兩院

○執政

○司法

○通則

○假則

○普國

千八百五十年

第一、國土

第二、國民權利

第三、普魯西國王

第四、執政

第五、兩議院

第六、司法權

第七、司法官ヲ除クノ外政府官吏

第八、會計

第九、邑區州部

總則

○奧地利

千八百六十七年

第一、國民通權ノ憲法

第二、帝國議會ノ憲法

第三、奧地利通國事務及處分方法ノ憲法

第四、太政權及行政權施行ノ憲法

第五、司法權ノ憲法

第六、帝國法院ノ憲法

第一章 主權

第一條

日本帝國ハ萬世一系ノ天皇ノ治ス所ナリ  
皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇子孫之ヲ繼承ス



(參照)

普 五十三條 王位ハ王室法ニ循テ長宗及直系男族ノ順序ニ依リ男子ニ傳フ

白 六十條 王ノ憲法上ノ諸權ハ長宗ノ順序ニ從ヒ男系ニ於テ「レオポル、ジヨルジー、

キレチアン、フレデリック、ドサクス、コプーブルグ」陛下ノ本生嫡ナル直統ノ子孫ニ

世傳ス而シテ女子及女子ノ子孫ハ永久位ヲ踐ムコトヲ得ズ

本條ハ事體重大故ニ各國ノ參照ヲ列舉スルコトヲ煩サズ但普國ノ條ハ憲法ニ於テ繼續ノ事ヲ

王室法ニ讓ルノ例ヲ示シ白國ノ條ハ男系繼續ノ例ヲ示ス聊其一ニヲ舉ルノミ

第二一條

天皇ハ國權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ勅定スル所ニ循由シテ之ヲ施行セシム

施行セシムハ施行スニ改正

(參照)

本條ハ獨逸各國普國ヲ除ク及他ノ二三國ノ國ニ於テ參照ヲ取ルコトヲ得

ウエルタンベルグ 四條 王ハ國ノ元首タリ主權ニ屬スル諸般ノ權利ヲ統合シ而シテ憲法

ニ定メタル規約ニ循ヒ之ヲ施行ス

瑞典 四款 王ハ政體ヲ定メタル此ノ憲法ニ循由シテ王國ヲ治ムルノ權ヲ專有ス但シ下

文ニ示シタル場合ニ向テ其ノ輔翼トシテ參議院ノ謀議ヲ取ルベシ

丁抹 十一條 王ハ此國憲ニ掲載シタル限界ノ内ニ王國ノ庶政ニ向テ最上ナル威權ヲ有

ス而シテ其威權ハ各宰相ノ輔佐ニ由テ之ヲ行フ

バヴィエル 第二章 一條 王ハ國ノ元首タリ最上諸權ヲ統合シ而テ此ノ憲法ニ於テ自

ラ定メタル規約ニ循ヒ之ヲ施行ス

サキス 四條 王ハ國ノ元首タリ憲法ノ條章ニ從テ諸種ノ公權ヲ施行ス

其他白國普國伊國西國等ハ憲法ニ王權ノ各條ヲ列舉シ之ヲ摠フルニ國王ハ行政權ノ首長タリ

トノ條ヲ以テスルニ因リ本條主權統一ノ主義ニ依ラス而シテ主權統一ノ主義ニ依リ一條ニ槩括

スルノ國ハ亦主權ノ各條ヲ列舉セザルヲ例トス

第三一條

天皇ハ陸海軍ヲ統督ス

(參照)

各國ニ於テ陸海軍ノ主權ノ屬スル所ヲ掲グルモノ左ノ如シ

獨 六十三條 獨逸帝國ノ軍兵ハ平時戰時ヲ問ハズ總テ皇帝ノ指揮ニ屬シ統一ノ陸軍タ

ルベシ

白 六十八條中 王ハ陸海軍ヲ指揮ス

乙案草案



荷 五十八條中 (文前ニ同シ)

リツクサン堡 三十七條中 軍兵ノ指揮ハ大公之ヲ司ル

普 四十六條 王ハ陸軍ノ最上指揮ヲ行フ

澳 王權五條 皇帝ハ陸軍ノ最上指揮ヲ行フ

意 五條中 王ハ國ノ元首タリ陸海軍ヲ指揮ス

西 五十二條 王ハ陸海軍ノ最上指揮ヲ行フ

王ハ任意ニ陸海軍ヲ使用ス

葡 七十五條中 王ハ行政權ノ首長ニシテ而シテ大臣ニ由テ之ヲ施行ス

百十六條 國ノ安寧及防禦ノ爲ニ陸海軍ヲ用ユルハ專行政權ニ屬ス

瑞典 十四條 王ハ王國陸海軍ノ上長指揮ヲ行フ

共和國ノ兵權ニ於ケルハ左ノ如シ

瑞士 十九條中 軍兵ヲ用フルノ權ハ聯邦政府ニ屬ス

佛 三條 大統領ハ軍兵ヲ用フルコトヲ得

第四條

交戦ヲ宣告シ及外國ト條約ヲ結ブハ天皇ノ大權ニ由ル

(參照)

各國ニ於テ宣戰講和ノ權ヲ掲グル者左ノ如シ

白 六十八條 王ハ陸海軍ヲ統率シ交戦ヲ宣告シ和好聯盟及貿易ノ條約ヲナス但國ノ利

益安全ニ於テ之ヲ設ストキニハ直ニ相當ノ文書ヲ添エテ之ヲ兩院ニ通知スベシ

貿易條約及國又ハ各個ノ國人ニ負擔ヲナサシムベキ所ノ條約ハ兩院ノ承認ヲ經タル後

ニ非ザレバ其效ヲ有セズ

國土ノ讓與交換合併ハ法律ニ由ルニ非ザレバ之ヲ行フコトヲ得ズ

何レノ場合ニ於テモ祕密ノ約條ハ本約ノ條款ヲ敗ルコトヲ得ズ

荷 五十五條 王ハ外國事務ノ總裁權ヲ有ス

同 五十六條 王ハ交戦ヲ宣告ス而テ直ニ之ヲ兩院ニ報知シ其國ノ利益安全ト相妨グザ

ルト思フトキハ同時ニ之ヲ通告ス

同 五十七條 王ハ外國ト和好及其他ノ條約及ビ約束ヲ結フ

國ノ利益安全ノ之ヲ許スト思フトキハ直チニ其條約ヲ兩院ニ通照ス(土地讓與交換及權利關  
係ノ條約ノ項ハ租白國  
ニ同)

普

四十八條 王ハ戰ヲ宣シ和平ヲ決ス外國政府ト諸條約ヲ鈐印ス



奧 政權五條 皇帝ハ軍兵ノ元帥タリ交戦ヲ宣告シ和平ヲ決ス

六條 皇帝ハ交際條約ヲ結ブ

伊 五條 行政權ハ獨リ王ニ屬ス王ハ交戦ヲ宣告ス王ハ和好聯盟貿易其他ノ條約ヲ結ブ

而シテ國ノ利益安全ノ之ヲ許ス限リハ其文書ヲ添エテ之ヲ兩院ニ通知ス

其他各王國皆同ジ而シテ伊國ハ議院參與ノ權ニ向テ交際ト貿易トヲ分タズ此其稍ヤ異ナル所ナリ

瑞典 十三條 王若シ外國ト交戦ヲ宣告シ或ハ和平ヲ講ゼントスルトキハ臨時ニ參議院

會議ヲ開キ大臣ニ其理由ト事情ヲ示明シ百七條ニ定メタル責任ニ從ヒ明細書ニ記載ス

ル爲ニ各別ニ各大臣ノ意見ヲ諮ヒ然後ニ王ハ其取モ國ニ利益アリト判スル所ノ決定ヲ

取リ之ヲ施行スルノ權ヲ有ス

瑞典ハ內閣ヲ以テ一ノ憲法上獨立ノ機關トス故ニ國王宣戰講和ノ權ニ於テモ亦他ノ各國ト例ヲ同クセズ

共和制ノ國ニ於テハ宣戰講和ノ權ヲ以テ之ヲ議院ニ屬シ又聯邦國ニ於テハ之ヲ聯邦議會ニ屬ス其例左ノ如シ

佛 八條 和議條約ハ兩院ノ承諾ヲ受ケ之ヲ確定ス

同 九條 大統領交戦ヲ宣告スルハ豫メ兩院ノ承諾ヲ得ベシ

瑞士 八條 宣戰講和ノ權ハ專聯邦政府ニ屬ス

### 第五條

各大臣及文武官ヲ任免シ行政各部ノ組織ヲ制置スルハ總テ天皇ノ大權ニ由ル但法律ハ別ニ特例ヲ定ムル事ヲ得

(參照)

普 四十五條 王ハ執政ヲ任ジ及之ヲ免ズ

奧 四編第三條 皇帝ハ執政ヲ任ジ及之ヲ免ズ法律ニ於テ特ニ定ムル者ノ外ハ執政ノ啓

奏ニ因リ各部ノ官吏ヲ進退ス

白 六十五條 王ハ執政ヲ任ジ及ビ之ヲ免ズ

六十六條 王ハ軍隊ノ官等ヲ授ク法章定ムル所ノ特例ヲ除ク外一般ノ政務官及外交官ヲ任ズ其他ノ諸官ハ法律ノ明文ニ據ルニ非レバ之ヲ任命セズ

西 四十五條 第九 王ハ總テ諸部ノ官吏ヲ任ズ

同第十條 王ハ隨意ニ執政ヲ任ジ之ヲ免ズ

葡 國王節制權七十四條ノ第五 隨意ニ執政官ヲ任ジ及之ヲ免ズル事



七十五條第三 裁判官ヲ任ズル事

同第四 其他ノ文武官ヲ設クル事

同第五 陸海軍ノ司令官ヲ任ジ國益ノ爲ニ要スル時ニハ之ヲ免ズル事

同第六 全權大使及他ノ交際并貿易ニ關スル官僚ヲ任ズル事

伊 第六條 王ハ諸官吏ヲ任命ス

六十五條 王ハ執政ヲ任ジ及之ヲ免ズ

荷 七十三條 王ハ諸省ヲ設置シテ其長官ヲ任ジ及隨意ニ之ヲ免ズ

### 第六條

天皇ハ勳章爵位及其他ノ賞典ヲ勅授ス

(參照)

普 五十條 王ハ勳章及他ノ榮章ヲ贈フ凡ソ榮章ハ特權ヲ附加スルコトナシ

壘 行政權憲法第四條 皇帝ハ爵號勳章及其他ノ榮章ヲ贈與ス

白 七十五條 王ハ爵號ヲ贈フ但付加スルニ特權ヲ以テスルコトナシ

同 七十六條 王ハ軍勳ヲ贈フ但此事ニ就法律ニ於テ掲グル所ノ條規ヲ守ルベシ

瑞典 三十七條 王ハ忠實剛勇德器學藝功勞篤志ニシテ王及王國ヨリ特ニ恩典ヲ享クベ

バロンヲ  
侯ト譯セ

ズシハ當ラ  
ズ原書ノ  
意恐ラク  
ハ男爵ノ  
者ハ伯爵  
ニ昇スナ  
得ラルン  
ナラシメ  
意

キノ人ニ向テ貴爵ヲ贈フノ權アリ

又王ハ非常ノ功勞ヲ賞スル爲ニ貴族ニ向テ「バロン」侯ノ爵ヲ贈ヒ「バロン」ニ向テ

「コムト」伯ノ爵ヲ贈フ事ヲ得

荷 六十三條 王ハ爵號ヲ贈フ

### 第七條

法律ヲ施行スル爲ニ又ハ國ノ治安ヲ保ツ爲ニ必要ナル規則及處分ハ天皇ノ勅令ヲ以テ之ヲ發シ  
又ハ之ヲ發セシム

(參照)

普 四十五條 王ハ法律ノ頒布ヲ命ジ而シテ其施行ノ爲ニ要用ナル規則ヲ發ス

白 六十七條 王ハ法律ノ施行ノ爲ニ要用ナル規則及命令ヲ作ル但法律ノ施行ヲ停止シ

及特免スルコトヲ得ズ

リツクサン堡 三十六條 白國六十七條ニ同ジ

伊 六條 王ハ諸官ヲ選任シ及法律ノ施行ノ爲ニ必要ナル命令又ハ規則ヲ制定スルノ權

ヲ有ス但法律ノ施行ヲ停止シ或ハ特免スルコトナシ

サキス 八十七條 王ハ法律ノ施行ノ爲ニ要用ナル命令規則ヲ發ス

勅令ヲ以  
テ之ヲ發  
スハ可ナ  
リ又ハ之  
ヲ發セシ  
ムト云ニ  
至テハ勅  
令ニ至ラ  
ズ



瓦敦堡 八十九條 國王ハ國會ノ干涉ナク命令ヲ發スルノ權及法律ノ施行并其維持ノ爲ニ必要ナル處置ヲ爲スノ權ヲ有ス

西 四十五條 王ハ其國憲ニ依テ認許セラル、所ノ特權ノ外猶左ニ掲グルノ權ヲ執行ス

第一、法律ノ執行ニ關スル命令規則并ニ訓狀ヲ下ス事

葡 第七十五條 行政權長ノ職掌ハ左ノ如シ

第十二 法律ノ執行ヲ充分ニスルガ爲メ勅令訓狀及規則ヲ發布スル事

埃 十一條 政府ハ其權限ノ範圍内ニ於テ規則ヲ發シ法律ニ依準シタル指令ヲ爲シ法律ノ條章ノ適當スベキ事件ニ對シ其名義ニ據リ之ガ遵守ヲ命ズルノ權ヲ有ス

以上各國榮ネ君主命令ノ範圍ヲ以テ法律ヲ施行スル爲ノ規則ニ限ル獨リ埃國ハ政府ノ爲ニ規則及指令ノ權ヲ掲グルコト稍ヤ限局ニ涉ラズ

### 第二章 國土國民

#### 第八條

日本帝國ヲ組立テタル現在ノ疆土及附屬ノ島嶼ハ統一ノ版圖ニシテ永遠ニ分割スベカラズ。  
(參照)

佛 國ハ統一ニシテ分ツベカラザルモノタリ 千七百九十一年 同九十二年 同九十五年 同九十九年 憲法

普 一條 凡我ガ王國ノ土地現在ノ區域ハ普魯西國ヲ成ス

二條 普魯西國ノ疆界ハ法律ニ由ルニ非ザレバ變改スルコトヲ得ズ

ウユルテンベルグ 一條 王國ノ全部ハ分割スベカラザル統一ノ國土タリ

瑞典 七十八款 王國ハ賣却典當讓與又ハ其他ノ方法ニ依テ之ヲ分割スルコトヲ得ズ

荷 一條 歐羅巴州ニ於ケル荷蘭王國ハ現在ノ左ノ數州ヲ以テ成ル (下文略)

其他ノ各國大抵此ノ意ニ同ジ

#### 第九條

日本帝國ニ於テ公權ノ享有ヲ得ル爲ニハ日本國民タルヲ必要トス

日本國民タル身分ハ或ハ出生ニ由リ或ハ法律ヲ以テ定メタル要件ニ從ヒ歸化スルニ由テ之ヲ得

(參照)

巴威爾 憲法第四章第一條 巴威爾ニ於テ一切ノ民權即公權及私權ノ完全ナル享有ハ本

國人タル資格ヲ有スルヲ必要トス本國人タルノ資格ハ或ハ出生ニ因リ或ハ法律ニ於テ定

メタル規定ニ循ヒ歸化ニ因リテ之ヲ得ベシ

丁 五十一條 法律ノ效ニ由ルニ非ザレバ外國人ヨリ國民タルノ權利ヲ求ムル事ヲ得ズ



同 五十一條 法律ノ效力ニ由ルニ非ザレバ外國人ハ國民資格ヲ得ルコト能ハズ

英歸化法 第七條第三項 大英國内ニ於テ歸化證書ヲ付與シタル外國人ハ大英國内ニ在ル

トキハ英國出生ノ英國臣民ト同ジク政事上又ハ其他ノ權利權勢特權ヲ享有シ及ビ凡テノ

義務ニ服從スベシ但其外國人ニシテ歸化證書附與ノ前已ニ臣民タリシ外國ノ境域内ニ在

ルトキニハ之ニ關スル本國ノ法律又ハ兩國ノ條約ニ依リ其本國ノ臣民タルコトヲ脱却ス

ルニ非ザレバ英國臣民ト認ムルコトヲ得ズ五年間英國ニ居住シタルノ後ニ非ザレバ歸化證書ヲ附與セザルハ第一項ニ見ユ

國民權ノ要件ハ各國多クハ之ヲ別法又ハ民法ニ舉グ其之ヲ憲法ニ舉ゲタルハ西國葡國是ナリ

西 一條 左ニ掲グル者ヲ西班牙國人トス

一、西班牙國ニ生レタル者

二、外國ニ於テ西班牙人ノ父母ヨリ生レタル者

三、歸化ノ免狀ヲ得タル外國人

四、王國ノ或ル地方ニ於テ市民タルノ權ヲ得タル者

葡萄牙 七條 左ニ掲グル者ヲ葡萄牙國人トス

第一 葡萄牙國若ハ其屬地ニ生レテ現在巴西國ノ籍ニ入ラザル者但其父其本國ノ從務ノ

爲ニ葡萄牙國ニ駐在スル者ヲ除ク外外國人ヲ父トスルノ子モ亦葡萄牙國人トナス

第二 葡萄牙王國ニ來リ其本住ヲ定ムルトキハ其外國ニ生産セシ者ナルモ葡萄牙國人ヲ

父トスル子女及葡萄牙國人ヲ母トスル私生子女

第三 葡萄牙王國ニ其本住ヲ定メ本王國ノ從務ノ爲ニ外國ニ駐在スル葡萄牙國人ヲ父ト

スル子女

第四 本人奉ズル所ノ宗教ノ如何ヲ論セズ歸化シタル外國人但如何ナル要件ニ於テ歸化

免狀ヲ得ベキヤハ法律之ヲ定ムベシ

八條 左ニ舉グル者ハ葡萄牙國人ノ權利ヲ失フ

第一 外國ニ歸化スル者

第二 國王ノ允許ヲ經ズシテ外國政府ヨリ官爵若ハ恩金ヲ受ル者

第三 法術ノ審斷ニ因リ追放セララル、者

九條 政權ノ受用ハ左ノ件々ニ因リ停止ス

第一 形體ノ無能廢疾及心性ノ無能狂癲

第二 禁獄若ハ配流海外所屬ノ地ニ配置スル刑ニ配置スル刑ノ審判但期滿レバ政權剝奪ノ禁ヲ解ク

第十條

日本政府ヨリ任用シタル外國人ハ別段ノ約束アルニ非ザレバ任用ノ間歸化ノ國民トス

前項ハ除クテ可トス



外國人ハ既ニ歸化シタルモ仍内閣大臣參事院議官兩院議員及陸海軍將官タルコトヲ得ズ但日本帝國ノ爲ニ異常ノ功勞アルニ困リ特別ノ許可ヲ與フル者ハ別段トス  
(參照)

西牙牙 二條第二項 歸化セザル所ノ外國人ハ西班牙國ニ於テ政權及裁判權ニ干涉スル所ノ職務ヲ行フ事ヲ得ズ

巴威爾 四條 本國人又ハ憲法ノ明文ニ循ヒ歸化シタル外國人ニ非ザレバ王室ノ高等官吏及政府ノ文武高等官吏及僧官ノ爵祿ヲ享有スル事ヲ得ズ

埃國民權憲法 三條 凡ソ國民ハ均シク官吏タルコトヲ得外國人官吏タルノ許可ハ專埃國々民ノ權理ノ得有ニ屬ス

丁抹 十七條 國民權ヲ有スル者ニ非ザレバ官ニ任ズルコトヲ得ズ  
各國ニ於テ國人ハ歸化シタル者ニ非ザレバ官ニ就クコトヲ許サルヲ通例トス但シ獨逸聯邦ハ外國人ヲ使用スルノ道ヲ廣メ外國人ノ官ニ就クヲ以テ任用ノ間歸化ノ效力アル者トス其法左ノ如シ

獨國民籍條例 九條 直接又ハ間接ノ國務ニ當ル官吏ニ任ジ又ハ教務學務若クハ地方自治事務ノ爲ニ採用シタル外國人ニ若クハ他ノ聯邦ノ國民ニ附與シタル各聯邦ノ中央官衙

又ハ上等行政官衙ノ辭令書若クハ認可狀ハ歸化若クハ入籍證書ノ代リトナルモノトス但シ其辭令書若クハ認可狀ニ反對ノ明文アルトキハ此例ニ在ラズ

獨逸國官職ニ任ゼラレタル外國人ハ其任地聯邦ノ國民資格ヲ得ルモノトス  
又ウユルテンベルグ憲十九條第二項ノ文ハ尤明白トス即チ左ノ如シ

其他國務ニ奉任スルトキハ(外國人ヲ云)國民資格ヲ得、但其奉仕ノ時間ニ限ル十九條

然ルニ各國ニ於テ外國人又ハ歸化人ノ官ニ就クコトヲ許スト雖、其最高等官ニ至テハ仍之ヲ許サルヲ通法トス白國ノ如キハ大歸化ト通常歸化ヲ分チ大歸化ニ限り始メテ高官ニ任ズルコトヲ許ス其例左ノ如シ

葡 百六條 外國人ハ歸化スル者ト雖、執政ニ任ズルコトヲ得ズ

同 百八條 外國人ハ歸化スル者ト雖、參議官ニ拜スルコトヲ得ズ

白 千八百三十五年八月廿八日歸化法

通常歸化人ハ執政大臣元老代議兩院ノ議員及選舉人又ハ陪審タルコトヲ得ズ

憲 五條 外國人ニシテ白耳義人ニ均シク政權ノ受用ヲ得ルハ大歸化ノミニ限ル

同 八十六條 生レテ白耳義人ナルカ又ハ大歸化ノ允許ヲ得タル者ニ非ザレバ宰相タル

コトヲ得ズ



又荷蘭國ハ法律ヲ以テ或ル官ニ限リ外國人ニ限使スルノ許可ヲ列擧ス其憲第六條ニ云

凡ソ荷蘭國民タル者ハ一切ノ官ニ就クコトヲ得、外國人ハ法律ノ正條ニ依ルニ非ザレバ官ニ任ズル事ヲ得ズ(千八百五十八年六月四日ノ法律ハ即チ外國人ヲ使用スルノ制限ヲ定メタリ)

第十一條

凡ソ日本國民タル者ハ總テ左ノ權利ヲ保護セラレ

- 一、何等ノ名稱位例タルニ拘ラズ法律ニ於ケル一般ノ平等
- 二、特ニ許可ヲ要スル者ヲ除ク外法律ニ觸レズ及秩序安寧ニ妨ゲザル營業ノ自由
- 三、生計ノ救助ヲ受クル者刑法ノ監視ヲ受クル者及兵役ニ係ル制限ヲ除ク外内外移轉ノ自由

第一項ハ刑罰ニ非ザルニハカ

正案ノ外トアルモ列擧セテハ正條ノ外ト云フカ

- 四、法律ニ掲ゲタル場合又ハ裁判ノ效力ニ依ルノ外強制拿捕拘留ヲ受ケザルコト
- 五、法事ニ定メタル規定ニ定ラザレバ糾治ヲ受ケザル事
- 六、法律ニ指定シタル場合ヲ除ク外家主ノ承諾ナクシテ家宅ニ侵入スルヲ許サザルコト
- 七、正條ノ外刑法ノ處分ヲ受ケザルコト
- 八、公益處分ノ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外各人ノ所有財産ヲ侵サレザルコト
- 九、安寧秩序ニ妨グズ及國民ノ義務ニ背カザル信教ノ自由

十、法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由

十一、刑事ノ檢探及戰時又ハ内亂ノ場合ヲ除ク外郵便ノ秘密

法律ハ安寧秩序ヲ維持シ又ハ公益ノ必要ノ爲ニ正條ヲ掲ゲテ前ニ擧ゲタル各項ニ適當ノ制限ヲ設ケ及戒嚴ノ時ニ於テ一時停止處分ヲ行フベキ場合ヲ定ムベシ

(參照)

本條ハ各國ノ憲法大抵逐件ニ條列シ多キハ數十條ニ至ル者アリ其一條ニ之ヲ網羅シテ項目ヲ以テ叙列シタルハ葡萄牙ノ憲法是ナリ

國民權利ノ節目ニ至テハ間ニ或ハ佛國革命宣告餘習ヲ承ケ學術上ノ理論ヲ以テ法律ニ混淆シ過度ニ張言シタル者アルヲ除ク外大抵各國ノ同キ所ニシテ別ニ一々參照ヲ擧グルヲ要セズ故ニ今葡萄牙ノ憲法一條ニ網羅セル者ヲ引キ又普國ノ詳悉ニシテ遺サザルト伊國ノ簡明ニシテ該括ナルトヲ列擧シテ他ハ之ヲ略ス

葡 百四十五條 自由及各個安全及所有權ヲ基礎トスル所ノ葡萄牙國民ノ民權政權ノ侵害

スベカラザルコトハ王國憲法ニ因テ之ヲ保固スルコト左ノ如シ

第一 凡國人ハ法律ニ依ルノ外何等ノ事ヲ爲スニ或ハ之ヲ強ヒ或ハ之ヲ妨ゲラル、コトアルヲ得ズ



第二 法律ノ條規ハ既往ニ及ブノ力ヲ有セズ

第三 凡國人ハ言辭又ハ文書ヲ以テ其思想ヲ交通シ及監査ヲ受ルコトナク思想ヲ印刷頒行スルコトヲ得但思想自由ノ權ヲ使用スルニ因リ犯ス所ノ濫行ハ法律ニ定タル場合并規程ニ循フテ其責ヲ受ベシ

第四 凡國人ハ國教羅馬正教ヲ尊重シ及公共ノ風教ヲ起スコトナケレバ各自信奉スル宗教ノ爲ニ侵害ヲ受ルコトナシ

第五 凡國人ハ王國ニ居住シ或ハ警察法ニ依リ其財産ヲ帶有シテ任意ニ王國ヲ退去スル事ヲ得但シ此ガ爲ニ他人ノ權利ヲ犯スベカラズ債ヲ負フテ本國ヲ逃去スベカラザルヲ云

第六 凡國民ハ其家屋ヲ以テ不侵ノ棲處トナス家主ノ承允ナク若クハ家内ヨリ招キ呼ブコトナク又火災水害ヲ防禦スル爲ニ非ズシテ夜間人家ニ進入スルコトヲ得ズ

住居ノ侵入ハ法律ニ定メタル規定ニ循ヒ晝間ニ非ザレハ自由ナルコトヲ得ズ

第七 何人モ法律ニ掲グル場合ヲ除クノ外之ヲ拿捕スルコトヲ得ズ拿捕スル場合ニ於テハ裁判官自ラ署名シタル文票ヲ以テ拿捕スルノ理由及彈告者並ニ證人ノ名氏ヲ被劾者ニ告知スベシ但裁判官ノ居住ト相鄰接スル府邑其他隣接ノ地ニ於テ拿捕スルトキハ其時ヨリ二十四時間内ニ若シ裁判官ノ居住ヨリ遠隔スル地ニ於テ拿捕スルトキハ其距離遠近ニ準

シ法律ニ定メタル適當ノ期限内ニ之ヲ告知スベシ

第八 犯罪アル者ト雖モ本人若シ法律ニ許シタル場合ニ於テ充分ナル保證金ヲ供フルトキハ之ヲ獄中ニ拘留シ又ハ既ニ拘留シタル者ヲ收禁スベカラズ又六個月ノ禁獄若クハ追放ヨリモ重キ刑ニ當ラザル罪ニ對シ其犯人ハ保證金ヲ供ヘテ自由ヲ得ベシ

第九 現行犯罪ヲ除クノ外ハ當該部官ヨリ發出シタル命令書ニ依ルニ非ズシテ拿捕スルコトヲ得ズ若シ不法ニ拿捕スルコトアレバ命令シタル裁判官及請求シタル者ハ法律ニ掲グル刑ヲ受クベシ

禁獄ニ關スル條規ハ軍隊ノ紀律並ニ點數ノ爲ニ須要ト定メタル軍法ニ推及セズ又正シク刑法ニ依照セズト雖モ裁判所ノ命令ニ從ハザルガ爲カ若クハ定期限マデニ義務ノ執行ヲ怠リタルガ爲ニ法律ニ因リ拿捕ヲ命ズル場合ニモ推及セズ

第十 何人モ當該部官ニ由リ既定ノ法律ニ依リ及法律ニ定ムル規程ニ循フニ非ザレバ刑ヲ受クルコトナシ

第十一 司法權ノ不覇ハ保固ナルベシ何レノ官廳ト雖モ未決ノ詞訟ヲ奪ヒ聽訟ヲ閣置シ若クハ既ニ終リタル詞訟ヲ再起セシムルコトヲ得ベカラズ

第十二 法律ハ其保護ニ於テモ懲罰ニ於テモ全國民ニ對シ平等トス法律ハ各人ノ功德ニ比



例シテ之ヲ報酬ス

第十三 凡國民ハ皆文官、政務官又ハ武官ニ拜スルヲ得其才德ニ因ルノ外ハ殊別スル所アルベカラズ

第十四 何人モ其所有財産ニ比例シテ國ノ負擔ヲ助クルノ責ヲ免レズ

第十五 公益ノ爲ニ必要ニ又課務ニ聯貫シタルニ非ル特準ハ永ク之ヲ廢止ス

第十六 訴訟ノ性質ニ因リ法律ニ依據シ特別ノ裁判官ニ屬スル者ノ外ハ民事若クハ刑事ニ於テ臨時裁判所若クハ特別ノ委員ヲ設クベカラズ

第十七 正直公平ヲ基本トシテ民法刑法成典ヲ編成スベシ

第十八 自今、鞭撻ノ刑、拷問、烙刑、其他總テ人情ニ依ラザル酷刑ヲ廢ス増補律例第十六條ニ云フ法律ニ指定スベキ國事犯ニ對シ死刑ヲ廢ス

第十九 何レノ刑罰タリトモ犯罪人ノ外ニ及ボスベカラズ刑罰ハ犯罪者ノ一身ニ止マル故ニ何レノ場合ニ於テモ財産ノ沒收ヲ言渡スベカラズ及等級ノ親疎ヲ論ゼズ犯罪者ノ汚辱ヲ其親屬ニ移スベカラズ

第二十 獄舎ハ健全清潔ニシテ大氣ノ流通ヲ善クスベシ及犯罪ノ性質ニ準ジ囚人ヲ區別スルガ爲ニ獄舎ヲ分割スベシ

第二十一 所有ノ權ハ堅牢ニ之ヲ保固ス若シ法律上ニ證明シタル公益ノ爲ニ國民ノ所有ヲ使用スルコトヲ要スルトキハ該國民ニ其所有物ノ價值ヲ前給スベシ但此特例ヲ行フベキ場合及價給ヲ定ムル條規ハ法律ヲ以テ之ヲ指定スベシ

第二十二 國債ハ均シク之ヲ保固ス

第二十三 何レノ作業及工業農業モ公共ノ風教ニ戻リ國民ノ安全若クハ健康ヲ傷害スルニ非レバ之ヲ禁制スルコトヲ得ズ

第二十四 發明者ハ其發明若クハ發明ヨリ生ズル利益ノ所有者タルベシ又法律ハ有期ノ特準ヲ發明者ニ保固シ及發明シタル方法ヒユルガリガニオンノ流布ニ由リ發明者ノ被リタル損失ノ償金ヲ給與スベシ

第二十五 信書ノ祕密ハ侵スベカラズ驛遞局ハ信書不侵ノ件ニ於テ何等ノ違犯ヲ問ハズ宏ニ其責ニ任ズ

第二十六 國家ニ對シ文武ノ勳功アルニ由テ賜與シタル褒賞及法律ニ依準シテ賞典ヲ贈ハルニ由リ得有シタル權理ハ永ク之ヲ保固ス

第二十七 政府官員ハ其職務履行ニ當リ犯セル濫枉及緩慢ノ罪ニ付其下僚ノ責任スルコト能ハザルモノニ對シ嚴ニ其責ニ任ズ



第二十八 凡國民ハ文書ヲ以テ訴告請願ヲ立法權及行政權ニ具スルコトヲ得又憲法ニ背ケル罪ヲ兩權ニ告發シ該犯者ヲシテ其躬責ニ任ゼシメンコトヲ當該ノ部官ニ請求スルコトヲ得

第二十九 憲法ハ又公共施濟貧院病院育嬰局貯金預金局等ヲ置キテ救恤スル事ヲヲ保固ス

第三十 小學ノ教育ハ全國民ニ對シ其費ヲ課セズ

第三十一 憲法ハ世傳ノ貴族及其特典フレロチカフヲ承認ス

第三十二 諸藝文學技術ノ原料ヲ教授スベキ中學校及大學校ヲ置クベシ

第三十三 政權ハ次項ニ指定スル場合及時狀ヲ除ク外憲法及人身自由自由ニ工業ヲ營ムノ權ノ保固ヲ閣

置スルコトヲ得ベカラズ

第三十四 騷亂若クハ敵國侵入ノ場合ニ際シ國ノ安全ノ爲ニ人身自由ヲ保固スル規程ノ或ル部分ヲ定期間ニ閣置スルコトヲ要スルトキハ立法權ヨリ發布スル特別ノ法令ニ掲グベシ然モ此時國會所謂立法權集會セズシテ國難急迫ナレバ已ムヲ得ザル假ノ措置トシテ政府ニ於テ此ノ處分ヲナスコトヲ得ベシ但此處分ヲ因起シタル急難方ニ止ムニ云バ、速カニ其執行ヲ停ムベシ何レノ場合ニ於テモ政府ハ自ラ命令シタル拿捕及其他ノ豫防策ヲ説明シタル報告書ヲ國會集合ノ後即時ニ之ヲ送付スベシ此豫防策ヲ執行スルノ命令ヲ受ケタル

普

諸部官ハ總テ犯ス所ノ濫枉ニ付其責ニ任ズベシ

第二章 普漏生人ノ權利

第四條 凡ソ普漏生人ハ法律ニ對シ總テ平等トス

普漏生人ノ間ニ門族ノ特權アルコトナシ總テノ國人ハ法律ヲ以テ定ムル要件ニ循ヒ同ジク公官ニ就クヲ得ベシ

第五條 人身ノ自由ハ保固ス此ノ自由ヲ限制シ殊ニ逮捕ヲ許スノ程式及要件ヲ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 居宅ハ犯スベカラズ居宅ニ進人シ搜索シ並ニ書簡及書類ヲ差押フルハ法律ニ定ムル場合ニ際シ法律ニ定ムル程式ニ據ルニ非ザレバ之ヲ行フコトヲ許サズ

第七條 法律ヲ以テ定ムル裁判官ニ非ザレバ何人ニ對シテモ裁判スルヲ得ズ特別裁判所及臨時裁判委員ヲ設クルヲ許サズ

第八條 糾治ヲ命ジ及刑ヲ斷ズルハ必ズ法律ニ據ル

第九條 所有ハ犯スベカラズ。法律ヲ以テ證明シタル公益ノ爲及賠償ヲ前給スルニ非ザレバ所有ノ全部又ハ一部ヲ徵收スルコトヲ得ズ或ハ急迫ノ際ニ於テハ此賠償ノ額ヲ前定セザルベカラズ



第十條 准死ノ法及財産沒收ノ刑ヲ用フベカラズ

第十一條 移藉國籍ヲ脱シテ外國ニ移ルナリノ自由ヲ政府ヨリ限制スルハ獨リ軍役ノ義務ニ限ル移藉稅ヲ徵スルヲ許サズ

第十二條 宗教ノ自由並ニ教會ヲ結び及公私ノ館舍内ニ於テ宗教上ノ儀式ヲ施行スルノ自由ハ之ヲ保固ス○民權及參政權ノ享有ハ各民ノ宗旨ニ關スルコトナシ○宗教ノ自由ヲ施用スルガ爲ニ國民ノ義務及參政ノ義務ヲ妨グベカラズ

第十三條 教會及僧會ニシテ團社ノ權ヲ有セザル者ハ特別ノ法律ニ依ルニ非ザレバ此ノ權ヲ得ル能ハズ

第十四條 基督教ハ第十二條ヲ以テ與ヘタル宗教ノ自由ニ拘ハラズ宗教ニ關スル國ノ制度ニ於テ基本トス

第十五條 廢

第十六條 同

第十七條 教會管護權及此權ヲ廢スル爲ノ要件ハ別法ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 廢

第十九條 民法婚姻管轄廳ノ許可ヲ經テ僧侶ノ立合ヲ要セザル婚姻設置スルハ民籍ノ事ヲ併セテ定ムル處ノ特別ノ法

律ヲ以テス

第二十條 學術及教授ハ自由ナリ

第二十一條 初年ノ教育ノ爲ニ公立小學校ヲ設ク父母及後見人ハ其子及被後見人ニ公立小學校ノ爲ニ定メタル教課ヲ闕カシムルコトヲ得ズ

第二十二條 教育ヲ授ケ學校ヲ設立管理スルノ權ハ當該官廳ニ其行狀學術技藝ノ資格ヲ證明シタル者ニ於テ自由ナリ

第二十三條 學校ハ公立私立ヲ問ハズ政府ヨリ指任シタル當該官ノ監視ニ付ス公立小學校ノ教員ハ國ノ官吏ノ權利ト義務トヲ有ス

第二十四條 公立小學校ヲ設グルニハカメテ宗教ノ元則ニ注意スベシ小學校ニ於テ宗教上ノ教育ハ爲ニ設ケタル教會ノ統理スル處トス小學校事務ノ統理ハ町村ニ屬ス政府ハ法律ヲ以テ定メタル町村ノ參與ヲ以テ能力合格ノ人ヲ撰ビ小學教員ヲ命ズ

第二十五條 公立小學校ノ設立維持改良ニ要スル資費ハ町村ヨリ之ヲ辨ズ町村若シ資力ニ乏シキトキハ政府ヨリ之ヲ補フ特別ノ名義ニ於テ他人ノ負擔スル義務ハ舊ニ依ル政府ハ公立小學校ノ教員ニ其他資力及重要ニ應ジ一定ノ給料ヲ保證ス公立小學校ニ於テハ無代ニ教育ヲ與フ



第二十六條 教育ノ事件ヲ規定スルハ特別ノ法律ヲ以テス

第二十七條 凡ソ普通生人ハ言論文書印刷畫圖ヲ以テ自由ニ其思想ヲ表スルノ權ヲ有スベシ印刷検査ノ法ヲ設ルコトヲ得ズ他ノ印刷ノ自由ノ限制ハ必ズ法律ニ依ル

第二十八條 言論文書印刷畫圖ヲ以テ犯シタル罪ハ通常刑法ヲ以テ刑ヲ科ス

第二十九條 凡ソ普通生人ハ靜安ニ武器ヲ携ヘズシテ塙圍アル場所ニ集會スルノ權利ニ於テ豫メ官ノ許可ヲ得ルヲ要セズ此規定ハ塙圍ナキ場所ニ集會スルニ豫メ官ノ許可ヲ乞フコトニ關係セズ

第三十條 凡ソ普通生人ハ刑法ニ禁ゼザル所ノ目的ノ爲ニ會社ヲ結ブノ權アリ法律ハ特ニ

公共安全ノ維持ノ爲ニ本條及前條(第二十九條)ヲ以テ與ヘタル權利ヲ施用ヲ規定ス政

治上ノ衆會ハ法律ノ處分ニ由リ之ヲ制限シ及一時禁止スルヲ得ベシ

第三十一條 團社權ヲ許否スルノ要件ヲ定ムルハ法律ヲ以テス

第三十二條 凡ソ普通生人ハ請願ノ權利ヲ有ス

總名ヲ以テ呈出スル請願ハ官廳及團社ノ外ハ之ヲ許サズ

第三十三條 書簡ノ祕密ハ犯スベカラズ。刑事審問ノ爲及戰時ノ爲ニ缺クベカラザルノ制限ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 凡ソ普通生人ハ總テ兵役ニ服スルノ義務アリ

此義務ノ範圍及種類ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム(以下軍隊ノ部及封建餘制ヲ廢スルノ部之ヲ

略ス)

伊太利憲法 國民ノ權利及義務

第二十四條 凡國民ハ何等ノ名稱位列ニ拘ラズ法律ニ於テ平等トス凡國民ハ法律ニ定メタル特條ノ外均ク民權及參政權ヲ受ケ又文武官ニ任ズルコトヲ得

第二十五條 凡國民ハ各人財産ノ比例ニ從ヒ一様ニ國費ヲ負擔ス

第二十六條 人身ノ自由ハ之ヲ保固ス法律ニ掲ゲタル場合ニ於テシ及法律ニ定メタル規程ニ由ルニ非レバ何人モ拿捕セラル、コトナク且裁初所ニ勾引セラル、コトナシ

第二十七條 住居ハ侵ベスカラザル者トス法律ニ定メタル程式ニ依ラズシテ住居ヲ搜索スルコトヲ得ズ

第二十八條 出版ハ自由タリ然モ一ノ法律ニ由テ其濫弊ヲ懲治スベシ新舊約書及教法問答禮拜ノ書籍ハ督教<sup>第二等</sup>ノ准許ヲ得ルニ非レバ出版スルコトヲ得ズ

第二十九條 凡財産ハ一ノ除外特例ナク侵スベカラザル者トス然モ法律ヲ以テ證明シタル公益ノ要用アルトキハ法律ニ循テ正當ナル賠償ヲ給付スルニ依リ其全部或ハ局部ヲ讓與

乙案試草

五四九



スルノ義務アリ

第三十條 兩院ノ同意及國王ノ准許ナクシテ租税ヲ設ケ又ハ徵收スベカラズ

第三十一條 國債ハ之ヲ保固ス。政府ノ債主ニ向テノ契約ハ侵スベカラザル者トス

第三十二條 平穩ニ戒器ヲ携フルコトナクシテ集會スルノ權ハ之ヲ承認ス此權ヲ行フニハ

公益ノ爲ニ定メタル法律ニ循テス此條則ハ公衆縱入ノ場所ノ集會ニ於テ全ク警察規則ニ屬スル者ニ適用スベカラズ

本章ハ其詳略ノ間尤撰取ニ困ムヲ以テ今又「ロエスレル」氏及「モスセ」氏ノ立案ヲ參酌シ各條列舉ノ體ヲ用キテ第貳案ヲ草シ未ニ二氏ノ立案ヲ載セ參考ニ供ス

第二章

第 條 法律ニ定メタル場合ニ於テ其手續ニ依ルニアラザレバ何人ヲモ拿捕拘留スルコトヲ許サズ

第 條 法律ニ定メタル場合ニ於テ相當ノ手續ニ依ルニアラザレバ家主ノ承諾ナクシテ家宅ニ侵入シ及之ヲ搜索スルコトヲ許サズ

第 條 信書ノ祕密ハ侵スベカラズ民事刑事ノ裁判及倒産ノ場合並ニ戰時ニ於テ必要ナル制限ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第 條 刑罰ハ法律ノ正條ニ依ルニアラザレバ之ヲ科スルコトヲ得ズ

第 條 所有財産ノ權利ハ法律ニ定メタルノ外制限ヲ受クルコトナシ

公益ノ爲ニ所有財産ノ全部又ハ一部ヲ讓與セシムルハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第 條 移住營業ノ自由ハ法律ニ定メタル外制限ヲ受クルコトナシ

第 條 信教ノ自由ハ侵スベカラズ公權私權ノ享有ハ信教ノ如何ニ由テ異同アルコトナシ但シ

國民ノ義務ハ信教ニ由テ之ヲ避クルコトヲ得ズ

第 條 言論文書圖畫ヲ以テ思想ヲ吐露スルノ自由並ニ集會結社ノ自由ハ法律ニ定メタルノ外制限ヲ受クルコトナシ

ロエスレル氏立按

第 條 國民タル資格ノ得喪及歸化ニ關スル條則ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム



第二條 何人タリトモ政府ノ平等ナル保護ヲ受ク法律ノ前ニハ平等トス平等ニ文官武官及其他ノ公務ニ就クコトヲ得ベシ

第三條 何人タリトモ法律ノ制限内ニ於テ自由ニ移住スルノ權ヲ有ス

第四條 身體住居及權利ノ安全ハ之ヲ保護ス何人タリトモ正當ノ裁判官ノ裁判ヲ受クベキモノトス

第五條 所有權ハ侵スベカラズ所有ノ徵收ヲ許スベキ場合ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 何人タルトモ職業及營業ヲ自由ニ撰取スルヲ得ベシ但法律ニ背ク者又ハ公共ノ秩序安寧ヲ妨害スル者又ハ特ニ許可ヲ要スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 信教ノ自由ハ之ヲ保護ス但公共ノ秩序及安寧ヲ妨害スル者又ハ國家ニ對スル義務ニ背ク者ハ此ノ限ニ在ラズ

第八條 言論、集會、結社ノ自由ハ法律ノ範圍内ニ於テ之ヲ保護ス

第九條 信書ノ祕密ハ侵スベカラズ但公益ノ爲ニ必要ナル例外ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 何人タリトモ請願權ヲ有ス

第十一條 日本國民タル者ハ法律ノ範圍内ニ於テ兵役及納稅ノ義務ヲ有ス

第十二條 陸海軍ノ紀律ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム第二條ヨリ第十一條マデノ規定ハ陸海軍ノ法律

及命令ニ牴觸セザルモノニ限り之ヲ軍人ニ適用ス

第十三條 皇帝ノ行政權中ニ在ル所ノ特權（プレロガチーフ）ハ此章ノ規程ニ依テ妨害セラハコトナシ

### モスセ氏立按

第一條 何如ナル要件ニ依テ國民ノ資格ヲ得喪スルヤハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 法律ニ掲ゲタル場合ニ於テ其手續ニ從フニ非ザレバ何人ヲモ拘留スルヲ得ズ

第三條 住居主ノ意ニ反シテ住居ニ侵入スルコトヲ得ズ家宅搜索及信書書類ノ差押ハ法律ニ定メタル場合ニ於テ其手續ニ從テノミ之ヲ行フコトヲ得

第四條 信書ノ祕密ハ侵スベカラズ刑事裁判上ノ審問倒産及民事裁判並戰時ニ於テ必要ナル例外ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 刑罰ハ法律ニ依テノミ之ヲ宣告處斷スル事ヲ得

第六條 所有權ハ法律ニ定メタルノ外制限ヲ受クルコトナシ  
何人ニ對シテモ法律ニ依ラズシテ其ノ所有物ノ全部又ハ一部ヲ強テ賣却讓與セシムルコト



ヲ得ズ

第 條 移住、國境內ニ於ケル轉居營業ノ自由ハ法律ニ定メタルノ外制限ヲ受クルコトナシ

第 條 信教及本心ノ自由ハ侵スベカラズ私權公權ノ享有ハ信教ニ關係セズ公私ノ義務ハ信教

ニ依テ妨ゲラル、コトナシ

禮拜ノ自由ハ風儀及公然ノ秩序ヲ害セザル限リハ之ヲ保障ス

第 條 言論文書圖書ヲ以テ思想ヲ吐露スルノ自由並ニ集合結社ノ自由ハ法律ニ定メタルノ外

制限ヲ受クルコトナシ

第 條 請願權ハ凡テノ國民ニ屬ス

第 條 凡テ日本人ハ兵役ニ就クノ義務ヲ有ス此義務ノ範圍及種類ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

### 第十二條

凡ソ日本國民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ法律ノ規程ニ循ヒ天皇及議院ニ請願ヲナスノ權利ヲ有ス

(參照)

佛 千七百九 三條第三項 國民ハ警察規則ニ從ヒ兵器ヲ用キズシテ平穩ニ集會スル事又ハ

各人ノ署名シタル請願ヲ官府ニ進ムル事自由ナリトス

佛 千七百九 十五年 第二篇三百六十四條 請願ヲ進ムル者ハ官府ニ對シテ敬禮ヲ失フベカラズ

白 二十一條 各人ハ政府ニ向テ一人若ハ數人ノ署名ヲ以テ政府ニ請願ヲ進ムルノ權ヲ

有ス

連衆一名ノ請願ヲ進ムルノ權ヲ有スルハ獨リ聯合體ニ限ル(荷九條塙第一篇十一條粗

同)

普 三十二條 凡ソ普魯西國民ハ請願ノ權ヲ有ス

連衆一名ノ請願ハ官司及公會ヲ除ク外之ヲ進ムル事ヲ得ズ

瑞 四十七條 請願ノ權ハ保固トス

葡 百四十五條第二十八項(前ニ見ユ)

西 三條 凡ソ西班牙人ハ法律ニ定メタル規程ニ循ヒ國會及國王ニ請願ヲ呈スルノ權ヲ

有ス

米 補正一條 議院ハ擅ニ法度ヲ立テ宗旨ヲ定メ或ハ宗旨ノ自由ヲ禁ジ演說或ハ出權ノ

自由ヲ奪ヒ又ハ人民ノ靜穩ニ集會シ及痛苦ヲ免レン爲ニ政府ニ請願スルノ權利ヲ制縛

スベカラズ

人民帝王ニ請願スルノ權利ハ蓋英國一千六百八十八年二月十三日全國ノ貴族僧侶及人民ノ代

議士等「ウエストミンスター」ノ政事堂ニ集會シ「ラレンジ」王「ウキリヤム」並ニ王后「メ



レ一レ兩陛下ニ奏呈シテ定ムル所ノ約束ニ本ヅキ而シテ各國此レニ倣フ者ナリ

### 第十三條

教育ハ人民ノ自由ニ任ス但政府ハ公立私立ヲ問ハズ學校教課ヲ監視スルノ權ヲ有ス  
(參照)

荷 百九十四條 教育ハ政府ニ於テ經常ニ注意スル者トス

普通教育ノ組織ハ宗教ヲ敬重シ法律ヲ以テ定ム

全國各所ニ於テ政府ハ初等普通教育ノ爲ニ満足ナル供備ヲナス

教育ハ政府ノ監督ヲ除ク外及中學ト小學ニ係リテハ法律ニ定メタル條則ニ從ヒ教師ノ能力品行ヲ證明スルヲ除ク外自由トス

白 十七條 教育ハ自由タリ一切ノ防制處分ハ之ヲ禁ズ其犯罪ノ懲罰ハ法律ニ依テ之ヲ定ム

普 二十三條 學校ヲ建設シ教授ヲ爲スノ權ハ各人ノ自由タリ但シ當該官ニ對シテ其品行及學術ニ關スル能力ヲ證明スルヲ要ス

凡ソ公私學校及教育上ノ建設ハ皆政府ヨリ指定シタル部官ノ監督ヲ受クベシ  
學校ノ教師ハ國家官吏ノ權利及義務ヲ有ス

佛 千八百四十八年憲 九條 教授ハ自由トス教授ノ自由ハ法律ニ定メタル能力並ニ品行ニ關スル要件ニ從ヒ政府ノ監督ノ下ニ之ヲ行フ

此ノ監督ハ一ノ除外ナク教育及教授ノ總テノ建設ニ及ボス

奧 十七條 學科及教授ハ自由トス

學校ヲ建設スルハ各人ノ自由ニ任スルモ法律ニ從ヒ能力ヲ證明スルヲ要ス

家庭教育ハ本條ノ要件ニ從屬セズ

### 第十四條

凡ソ日本國民ハ兵役ニ就キ及其ノ財産ニ比例シテ租稅ヲ納ムルノ義務ヲ負フ

(參照) 各國ニ於テ兵役ノ義務ハ大抵之ヲ憲法ニ掲載ス、而シテ或ハ之ヲ國民ノ部ニ掲ゲ或ハ之ヲ特ニ分チタル軍兵ノ章ニ掲ゲ納稅ノ義務ニ於テモ亦或ハ之ヲ國民ノ部ニ掲ゲ或ハ之ヲ租稅ノ部ニ掲ゲ其例一樣ナラズ而シテ二個ノ義務ヲ總ベテ之ヲ一條ニ合セ掲ゲタルハ西班牙是ナリ  
今一二ノ例ヲ舉グ

西 六條 凡ソ西班牙人ハ法律ノ懲募ニ當リ兵器ヲ以テ本國ヲ防護シ及私有ノ財産ニ比例シテ國費ヲ支辨スルノ義務ヲ有ス

巴威爾四章(國民權利義務ノ章)十二條、凡ソ巴威爾國人ハ現行ノ法律ニ從ヒ均シク兵役



及後備軍ニ服スルノ義務アリ

十三條 王國ノ住民ハ位置ノ何タルヲ問ハズ又ハ舊時ノ特免ニ拘ラズ總テ一般ニ國費ヲ分擔ス

薩索尼 三十條 凡ソ薩索尼國人ハ本國ヲ防護シ及兵役ニ服スルノ義務アリ而シテ法律ニ於テ特例ヲ定メタルモノ、外之ヲ除免セズ

同 三十八條 國民ハ總テ國費ヲ分擔スルノ義務アリ

### 第十五條

軍隊ノ紀律ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム第十一、十二、十三條ハ其軍律ニ盾セザル者ノ外軍隊ニ準行セズ

(參照)

普 三十九條 第五條、第六條、第二十九條、第三十條、第三十二條ニ掲グル定規ヲ軍兵ニ適用スルハ其ノ軍事法律及紀律ト相矛盾セザルモノニ限ル

## 第三章 內閣及參事院

### 第十六條

天皇ハ內閣ニ臨御シ萬機ヲ聽覽ス

### 第十七條

內閣總理大臣及各省大臣ハ其職務ニ就キ各々其責ニ任ズ

### 第十八條

法律勅令其他國事ニ係ル詔勅ハ內閣總理大臣及主任ノ大臣又ハ臨時代理ノ大臣奉勅對署ス

### 第十九條

參事院ハ內閣ノ諮問ニ應ヘ法制ヲ草按シ及特定ノ條項ニ就テハ行政ノ事務ヲ審査ス

(參照) 各國ノ憲法、其內閣執政ノ職任ヲ掲セルニ於テ詳略各同カラズ白國普國ノ如キ內閣ノ官制ヲ以テ專行政ノ便宜ニ任セ法律制限ノ外ニ置クアリ又丁抹瓦敦堡ノ如キハ詳ニ內閣及各省ノ制置ヲ載セ併セテ其議事ノ方法ニ及ブアリ今各國ノ內閣及參事院ニ係ル全章ヲ列舉シ以テ詳略ノ異同ヲ見ル

### ○葡萄牙憲法

千八百二十六年

### 第六章 執政

百一條 諸般ノ國相局ヲ置ク法律ハ各局ニ於テ管治スル事務並ニ其數ヲ定メ及適宜ニ之ヲ分合スベシ



百二條 執政ハ總テ行法權ノ公文ニ對署シ又ハ署名スベシ執政ノ對署又ハ署名ナキ公文ハ執行スルコトヲ得ズ

百三條 執政ハ左ノ件ニ付其責ニ任ズ

第一 叛逆

第二 藏賄詐僞又ハ枉<sup>コックシヤン</sup>斂

第三 濫權

第四 法律ノ違犯

第五 凡ソ國民ノ自由安固又ハ所有ヲ害スル措置

第六 歲入濫費

百四條 前條ニ掲グル諸種犯罪ノ性質及其糺治ノ方法ハ特別ノ法律ヲ以テ之ヲ條定スベシ

百五條 言辭又ハ文書ヲ以テスル王命アルモ執政ノ責ヲ解クコトヲ得ズ

百六條 外國人ハ既ニ歸化スルモノト雖モ執政ニ任ズルコトヲ得ズ

第七章 參議院

百七條 參議院ヲ置ク參議院員ハ王ヨリ終身ヲ以テ之ヲ任ズ

百八條 外國人ハ歸化スル者ト雖モ參議官トナルコトヲ得ズ

百九條 (宣誓ノ事ヲ掲グ今之ヲ略ス)

百十條 參議官ハ一切ノ重要事件並ニ施政ノ條規就中宣戰講和外國商議及凡ソ七十四條ニ掲グル國王ノ節制權ニ係ル事務ヲ執行スルノ所ノ總テノ關係ニ於テ之ニ參與スベシ但シ第七十四

條中第五項ハ之ヲ除ク

百十一條 參議官ハ法律及國益ニ悖リタル所ノ意見又ハ詭誑明白ナル所ノ意見ニ付キ其責ニ任ズ

百十二條 王太子滿十八歲ニ至リタルトキハ其固有ノ權ニ依リ參議院ニ參列ス其他ノ王子ハ王ノ任命ニ由ルノ外參列ノ權ヲ有セズ

○瓦敦堡憲法 <sup>千八百三十一年</sup> 第二 內閣

五十四條 內閣ハ王ノ下ニ位スル最上ノ官衙トス而シテ專ラ王ノ顧問ニ備ハル

五十五條 內閣ハ各省ノ執政ト特選ニ係ル議官トヲ以テ組織ス

五十六條 國ノ施政ヲ組成スル所ノ諸省ハ左ノ如シ

司法省

外務省

內務文部教部省

乙案 試草



五十七條 王ハ随意ニ内閣員ヲ任免ス

内閣員若法衙ノ審斷ニ由ルニ非ズシテ罷免セラル、トキハ省長官ナレバ四千「フロリン」ノ手當ヲ受ケ專任議官ナレバ其給料ノ半額ヲ受クベシ但シ特別ノ約束ヲ以テ兩官トモニ其給料ノ三分ノ二ヲ超過セザル金額ヲ給與セラレ、場合ハ此限ニ在ラズ

五十八條 重要ノ事件就中國憲、官局ノ組織、版圖ノ交換、王權及主權ニ關係セル規則並ニ法律規則ノ布告、改正、廢止、解釋ニ就キ執政ヨリ國王ニ奏呈スル報告書ハ先ヅ之ヲ内閣ニ差出シ内閣ヨリ其意見ヲ副ヘテ國王ニ奏上スベシ但シ外務陸軍ノ兩者ニ係ル事務ハ其性質ニ依リ此成規ノ外タルベシ

五十九條 左ニ記載シタル事件ハ内閣ニ於テ諮問會議トシテ管掌スルモノトス

第一、國ノ諸般ノ政務

第二、官吏ノ免職轉任ノ上申

第三、司法官ト行政官トノ權限ノ爭

第四、教會ト政府トノ關係及教會ノ間ノ爭論ニシテ其管長ニ於テ協議ニ至ラザル者

第五、總テ王ノ臨時ニ諮詢スル事

六十條 司法ニ就テハ内閣ハ左ノ事件ヲ管知ス

第一、各省ノ決斷ニ對スル控訴、此場合ニ於テハ高等法院ノ長官ヲ閣議ニ加フ

第二、行政官ヨリ宣告シタル刑罰ニ對スル控訴此場合ニ於テハ上等裁判所所長ヲ除キ以下ノ裁判官中ヨリ選抜シタル法律家六名ヲ加フ

第三、第三十條ニ掲載シタル事件

六十一條 内閣員ハ一個身上ニ關ル事件ヲ除クノ外會議ニ參與スルノ權利ヲ奪ハル、コト無カ  
ルベシ

○白耳義憲法 千八百三十一年 第二章 執政

八十六條 生レナガラ白耳義人タル者若クハ大歸化ヲ得タル者ニ非ザレバ執政タルコトヲ得ズ

八十七條 王族ハ執政タルコトヲ得ズ

八十八條 諸執政ハ其議員タル時ニ非ザレバ兩院ニ於テ投評ノ權ヲ有セズ

諸執政ハ各院ニ參列ノ權ヲ有ス諸執政ヨリ要求スル時ハ議院ハ必ズ其發議ヲ聽クベシ兩院ハ諸執政ノ出頭ヲ求ムルコトヲ得

八十九條 何等ヲ場合ニ於テモ國王ノ言辭又ハ文書ノ命令ヲ以テ諸執政ノ爲ニ其責ヲ解クコト



ヲ得ズ

九十條 代議士院ハ諸執政ヲ論告シテ之ヲ大審院ニ召喚スルノ權ヲ有ス大審院ハ全員合會シテ之ヲ裁判スルノ權ヲ專有ス但シ被害人ヨリ要償ノ私訴及執政ノ職務ノ外ニ犯シタル重罪ニ係リ法律ニ定ムベキ者ハ此ノ例ニアラズ

○西班牙憲法

千八百四十五年 第九篇

六十三條 王其ノ大權ヲ執行スル爲ニ命令スル所ノ文書ハ當該ノ執政之ニ副署スベシ何レノ官吏モ須要ナル副署ヲ缺キタル命令書ヲ決行スベカラズ

六十四條 執政ハ元老議員又ハ代議士ニ兼任ジ立法兩院ノ議事ニ參列スルコトヲ得然レドモ投票ハ其任ヲ受ケタル立法院ニ於テスルノ外之ヲ行フコトヲ得ズ

○伊太利憲法

千八百四十八年 執政

六十五條 王ハ諸執政ヲ任ジ及之ヲ免ズ

六十六條 諸執政ハ議員タル時ニ非ザレバ兩院ニ於テ投票スルコトヲ得ズ然レドモ常ニ議院ニ參列スルノ權ヲ有シ議院ニ向テ要求スル時ハ議院ハ必其發議ヲ聽クヲ要ス

六十七條 諸執政ハ其責ニ任ズ法律及一切政府ノ文書ハ執政一人ノ對署アラザレバ其力ヲ有セズ

○荷蘭根本法

千八百十五年

第七章

參議院並各省

七十一條 參議院ヲ置ク其構制權任ハ法律ヲ以テ定ム

王ハ參議院ニ臨御シ參議員ヲ任ズ

太子ハ滿十八歳ニ至リ固有ノ權ヲ以テ參議院ニ列席シ顧問投票權ヲ有ス

七十二條 王ハ國會ニ下付セントスル起議案及國會ヨリ上奏シタル起議案並ニ凡ソ王國ノ内部ト歐洲外ニ於ル所屬地ノ政治ニ關ル一切ノ條則ヲ參議院ノ議ニ付ス

法律及命令ハ冠首ニ「參議院預聞ス」ト書ス

王ハ凡ソ須要ト判スル所ノ一般又ハ特殊ノ利益ニ關ル一切ノ事件ニ於テ參議院ノ意見ヲ問フ決定ノ權ハ獨リ王ニ在リ王ハ其決議ノ各件ヲ參議院ニ通示ス

七十三條 王ハ諸省ヲ設置シ任意ニ其長官ヲ任ジ及之ヲ免ズ

諸省長官ハ王位ニ屬スル執行ノ權限ニ從ヒ根本法及其他法律ノ執行ヲ看守ス

諸省長官ノ任責ハ法律之ヲ定ム

凡ソ王ノ決定及處分ハ諸省長官ノ一人之ニ對署ス

○李國憲法

千八百五十三年

第四章

執政

六十條 諸執政並ニ執政ノ代理タル諸官ハ兩院ニ參列ノ權ヲ有シ而シテ發議ヲ願フコトアルゴ



トニ議院必ズ之ヲ聞クベシ。各議院ハ諸執政ノ出頭ヲ求ムルコトヲ得  
諸執政ハ其議員タル時ヲ除クノ外投訴ノ權ヲ有セズ

六十條 各議院ハ諸執政ノ憲法違反及贓賄及謀反ノ罪ヲ論告スルコトヲ得。大法院其ノ事ヲ裁  
決スベシ。別法此外ニ諸執政ノ責任ノ場合及其ノ糺治並糺律ヲ定ムベシ

○丁抹根本法 千八百六十六年 第三章

十一條 王ハ國憲ニ掲載シタル權内ニ於テ最上ナル威權ヲ有ス而シテ其威權ハ執政ニ依テ之ヲ  
行フ

十二條 國王ノ身體ハ神聖ニシテ侵ス可ラザル者タリ執政ハ責任ニ任ズ。執政ノ責任ハ一ニ法律  
ニ依テ之ヲ定ム

十三條 王ハ執政ヲ任ジ及之ヲ免ズ王ハ執政ノ員數及其分任ヲ定ム立法及政府ノ裁決ニ付テ王  
ノ親署ハ一人或ハ數人ノ執政ノ對署ニ由リ法律上ノ效力ヲ有ス執政ハ署名シタル裁決ニ付キ  
責任ニ任ズ

十四條 王及國會ハ執政ノ職務ニ係ル罪ヲ糺治スルノ權アリ執政ニ對スル告訴ハ國會之ヲ審判  
ス

十五條 參議院ハ執政ノ集會ヲ以テ成ル太子ハ丁年ニ至レバ參議院ニ列ス王ハ第七條及第八條

ニ掲載スル時ノ外參議院ニ臨御ノ權ヲ有ス

十六條 法律及政府ノ要務ハ參議院ニ於テ商議ス王、參議院ニ臨御スルコト能ハザル時ハ執政  
會議ニ委任シテ商議セシムルコトヲ得此會議ハ執政ヲ以テ編成シ國王ノ委任ヲ受ケタル執政  
ハ會議ノ上席ヲナス各執政ハ筆記ヲ以テ其意見ヲ提出シ過半數ニ依テ決定ス上席人ハ出席人  
執政ノ署名シタル會議筆記ヲ王ニ奏進シ王ハ直ニ之ヲ可トスルカ或ハ參議院ニ於テ更ニ之ヲ  
商議ス可キカラ裁定ス可シ

(瑞典ノ憲法ハ大抵丁抹ノ制ニ同ジク執政會議ヲ以テ參議院トナス、而シテ其權任極メテ重ク  
法律上君主ノ大權ヲ制限スルニ至リ從テ其條項亦尤繁密ナリ、今略シテ舉ゲズ)

第四章 元老院及代議院

第二十條

天皇ハ元老院及代議院ノ輔翼ニ依リ立法ノ事ヲ行フ兩院議決ノ後天皇ノ裁可ヲ經ザレバ法律ヲ  
成サズ

(參照)



佛 一千八百一十四年 十五條 立法權ハ國王ト貴族院及代議院ト共同ニ之ヲ行フ  
同 一千八百一十五年 二條 立法權ハ皇帝ト兩院トニ由テ之ヲ行フ

西 十二條 法律ヲ制定スルノ權ハ國會ト國王トニ屬ス

葡 十三條 立法權ハ國會ニ屬ス但王ノ制可ヲ須要トス

荷 十四條 立法權ハ國王及國會ニ由テ共同ニ之ヲ行フ

伊 三條 立法權ハ國王ト兩議院即チ元老院及代議士院トニ由テ共同ニ之ヲ行フ

白 二十條 立法權ハ國王及代議士院及元老院ニ由テ共同ニ之ヲ行フ

普 六十二條 立法權ハ王ト兩院ト共同ニ之ヲ行フ凡ソ新法ヲ發スルニハ王ト兩院ノ同

諧ヲ欠クベカラズ

埃 代議憲法篇十三條 法律ノ起案ハ政府ヨリ國會ニ提出ス國會ハ又均シク其職任ノ事

件ノ上ニ法律ヲ起議スルノ權ヲ有ス

各般ノ場合ニ於テ兩院ノ諧同ト皇帝ノ制可ハ法律ニ効力ヲ與フル爲ニ必要ナリ

### 第二十一條

國ノ安全ヲ保ツ爲ニ己ムヲ得ザルノ情狀ニ由リ急施ヲ要スル事宜アルトキハ勅令ヲ發シ法律ニ代フルコトヲ得此ノ勅令ハ次ノ開會ニ於テ兩議院ノ承認ヲ取ルベシ。

保存ト何  
等ノハ物  
ヲ指スカ

(第二按)國會ノ叶同ヲ待タズシテ法律ヲ施行シ又ハ保存スル爲ニ勅令ヲ下附シ及國ノ安全ヲ維持スル爲ニ必要ナル處分ヲ行フハ天皇ノ大權ニ屬ス但勅令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ズ

(參照)

普 六十三條 若シ公共ノ安全ヲ保ツ爲ニ或ハ不意ノ凶災ノ爲ニ緊急ノ處置ヲ爲スヲ要

シ而シテ兩院偶々會セザルトキニ在テハ內閣總員ノ任責ヲ以テ發付シタル勅令ハ其建

國法ニ背カザル者ニ限り法律ノ力ヲ有スルコトヲ得但兩院ノ次會ニ於テ其勅令ハ兩院

ノ贊成ヲ取ルヲ要スベシ

埃 十四條 憲法ニ依リ帝國議會ノ職任ニ屬スベキ事件ニ付緊急ナル處分ヲ要スルニ臨

ミ議會開々開會セザルトキハ內閣總員ノ任責ヲ以テ帝勅ヲ下シテ之ヲ處分スルコトヲ

得然レドモ之ガ爲ニ憲法ヲ廢棄シ國庫ニ永續ノ負擔ヲ生ジ及官地ヲ賣付スルコトヲ得

ズ但內閣總員其勅令ニ手署シ此憲法ニ定ムル範圍内ニ在ルニ於テハ其條章ハ假ニ法律

ノ力ヲ有ス

右勅令ハ公布ノ後ニ開キタル帝國議會ノ會議ニ政府ヨリ之ヲ示スコトヲ怠ルトキ及

代議士院召集ノ日ヨリ四週日間ノ後ニ在リ猶之ヲ議院ニ移サザルトキ又兩院ノ中ニテ



之ヲ承認セザルトキハ其法律タルノ力ヲ失フ

丁

内閣總員ハ其ノ勅令ノ假ニ有スル法律ノ力ヲ失ヒタルヨリ即時ニ廢棄ノ責ニ任ズ

二十五條

緊急ナル場合ニ於テ國會偶々集會セザルトキニ當テハ王ハ假ノ法律ヲ公

布スルコトヲ得

此法律ハ國會ニ違反スルコトヲ得ズ此法律ハ常ニ次會ニ於テ國會ニ提出スベシ

(第二按參照)

(反對參照)

瓦八十九條

然レドモ王ハ國會ノ協同ヲ待タズシテ命令ヲ下シ及法律ヲ施行シ又ハ保存ス

ル爲ニ必要ノ處分ヲ施シ及緊急ノ場合ニ於テハ國ノ安全ヲ維持スル爲ニ一切ノ豫防處

分ヲ爲スノ權ヲ有ス

(反對參照)

佛

千七百九十六年

百四十六條

行政權ハ假ニモ法律ヲ制定スルコトヲ得ズ但法律ニ從ヒ其施行ヲ命令督責スル爲ニ詔令ヲ下スコトヲ得

法律ノ起案ヲ議院ニ付スルハ天皇ノ大權ニ由ル

第二十二條

(兩議院ハ法律起案ノ意見ヲ具ヘテ天皇ニ上奏スルコトヲ得)

法律起案ノ權ハ專ラ

王權ニ屬スルヲ以テ至當トス

(參照)

佛

千八百五十年

八條

大統領ハ法律起案ノ權ヲ專有ス

佛

千八百四十四年

十六條

王ハ法律ヲ起議ス

荷

十九條

兩院ハ何等ノ事件ニ付テモ王ニ向テ法律ノ起議ヲ奏願シ及其適當ナルコト見ル所ノ法律ニ記載スベキ件々ヲ指陳スルヲ得ベシ

瓦

七十二條

法律ノ起案ハ王ヨリ國會ニ提出スルコトヲ得國會ヨリ王ニ提出スルコトヲ得ズ但シ國會ハ新法ヲ制定又ハ現行法律ヲ廢止或ハ修正スベキノ諸願ヲ國王ニ奉呈スルコトヲ得

白

二十七條

法律起案ノ權ハ立法權ノ三部ニ於テ各之ヲ有ス

伊

十條

國王及兩院ハ各々法律起案ノ權ヲ有ス然ドモ賦稅ノ法及國費ノ豫算決算ニ關スル法律ハ最先ニ下院ニ下付セラルベシ

西

三十五條

王及立法各院ハ法律起案ノ權ヲ有ス

荷

百五條

王ハ理由ヲ説明スル宣命ヲ以テシ又ハ委員ヲ以テシ法律又ハ他ノ起案ヲ下

其他起議ノ權ヲ王ト兩院ニ分付スルノ國ハ左ノ如シ

佛

千八百三十年

第十條

國王及兩院ハ各々法律起案ノ權ヲ有ス然ドモ賦稅ノ法及國費ノ豫算決算ニ關スル法律ハ最先ニ下院ニ下付セラルベシ

佛

千八百三十年

第十條

國王及兩院ハ各々法律起案ノ權ヲ有ス然ドモ賦稅ノ法及國費ノ豫算決算ニ關スル法律ハ最先ニ下院ニ下付セラルベシ

佛

千八百三十年

第十條

國王及兩院ハ各々法律起案ノ權ヲ有ス然ドモ賦稅ノ法及國費ノ豫算決算ニ關スル法律ハ最先ニ下院ニ下付セラルベシ

佛

千八百三十年

第十條

國王及兩院ハ各々法律起案ノ權ヲ有ス然ドモ賦稅ノ法及國費ノ豫算決算ニ關スル法律ハ最先ニ下院ニ下付セラルベシ

乙案 試草



院ニ付ス

同 百十條 國會ハ法律起草ヲ國王ニ奏上スルノ權ヲ有ス  
 代議憲法篇 十三條 法律起草ハ政府ヨリ帝國議會ヘ送付ス然レドモ帝國議會モ亦  
 其權内事件ノ法律ヲ起議スルノ權ヲ有ス

第二十三條

天皇ハ裁可スル所ノ法律ヲ公布シ之ヲ施行セシム公布ノ方式及施行期限ハ法律ノ定ムル所ニ  
 依ル

(參照)

西 四十四條 王ハ法律ヲ制可シ及公布ス  
 白 六十九條 王ハ法律ヲ制可シ及公布ス  
 伊 七 條 國王ハ專ラ法律ヲ制可シ及之ヲ公布ス  
 行政憲法篇 十條 法律ハ根本法ニ依準シ兩議院承認ノ由ヲ記シ責任ノ執政ノ對署  
 二依リ皇帝ノ名ヲ以テ之ヲ公布ス  
 普 四十六條 王ハ法律ノ公布ヲ命ジ而シテ其ノ施行ノ爲ニ要用ナル規則ヲ發ス  
 荷 百十五條 王及國會ノ認可シタル法律案ハ荷蘭國ノ法律ト成ル而シテ國王之ヲ公布

ス

國法ハ侵スベカラス

七十四條 國王ハ左ノ件々ニ由テ節制權ヲ執行ス

第三 國會ノ定案及議決ヲ制シテ法律ノカヲ與フル事

憲法ニ制可及公布ノ期限ヲ指定スル者左ノ如シ

佛 千八百四十八年 五十七條 緊急ナル法律ハ國會ノ決議ヲ經タル日ヨリ三日ノ間ニ之ヲ公布  
 シ他ノ法律ハ一個月間ニ之ヲ公布ス

荷 五十九條 王ハ各個法案ニ對シ奏呈ノ日ヨリ一個月内ニ其制可ヲ與ヘ又ハ之ヲ拒ム  
 六十條 法案制可ヲ得ルトキハ王國ノ法律トシテ之ヲ公布スルノ準備タリ

同 二十四條 國會ノ決定ニ法律ノ効力ヲ與フル爲ニ王ノ批可ヲ得ルヲ必要トス王ハ法  
 律ノ公布ヲ命ジ及其施行ヲ監督ス兩院ニ於テ認可シタル法律按ハ次ノ集會ノ前ニ王ノ

制可ヲ得ザレバ其効力ヲ失フ者トス

(次項參照)

荷 百十六條 法律ハ各種法律ノ公布ノ方式及必行ノ期限ヲ定ム

第二十四條

乙案 試草



外國條約ニ由リ國疆ヲ變更シ又ハ國ノ負擔ヲ起シ及國民ノ公權ヲ制限スルニ渉ル者ハ兩院ノ認可ヲ經ザレハ其効ヲ有セズ

(參照)

普 第二條 普魯西國ノ疆界ハ法律ニ由ルニ非ザレハ之ヲ變改スルコトヲ得ズ

同 四十八條 貿易條約及一國若クハ國民ノ負擔ヲ起スベキ條約ハ其効力ヲ與フル爲ニ必兩院ノ承認ヲ經ルヲ要ス

奧 六 條 皇帝ハ實際條約ヲ結ブ

貿易ノ條約及帝國ノ全部若クハ局部ノ爲ニ負擔ヲ生ジ或ハ國民ノ爲ニ義務ヲ生ズル所ノ實際條約ハ其効力ヲ與フル爲ニ帝國議會ノ承認ヲ必要トス

白 六十八條 貿易ノ條約及國ノ負擔ヲナスベク若クハ各個ニ白國人ヲ係束スベキ所ノ條約ハ兩院ノ承認ヲ得タル後ニ非レバ其力ヲ有セズ土地ヲ讓ルコト及換ルコト及加フルコトハ法律ノ力ニ依ルニアラザレバ之ヲ行フコトヲ得ズ  
何等ノ場合ニ於テモ條約ノ密款ハ本款ヲ破壞スルコトヲ得ズ

西 四十六條 國王左ノ件ヲ行フニハ特別ノ法律ニ依テ承認ヲ得ザルベカラス

第一 西班牙國土ノ部分ヲ賣付換易讓與スルコト

第二 外國兵隊ノ王國ニ入ルヲ許ス事

第三 進攻盟約 同盟國ト外敵ヲ攻撃スルノ約 同盟國ト外敵ヲ攻撃スルノ約貿易條約及外國ニ扶助資金ヲ給與スル條約ヲ批准スル事

葡 七十五條 行政權長ノ職ハ左ノ如シ

第八 進攻條約防守條約助資條約貿易條約ヲ制定スル事但國ノ利益又ハ安全ニ於テ之ヲ許ス時ハ結約ノ後ニ之ヲ國會ニ通知ス。

平和ノ時ニ於テ取結ビタル條約ノ王國ヲ土地或ハ所屬地ノ讓與若クハ換易ニ關ルモノハ國會ノ承認ヲ得ルノ後ニ非レバ執行スベカラズ(增補第十條ニ云フ凡ソ政府ニ於テ外國ト取結ブベキ諸條約ハ之ヲ批准スルノ前ニ密會ヲ開ケル國會ノ承認ヲ受クベシ國憲第七十五條第八項第十四項ヲ修正スルコト斯ノ如シ)

荷 五十七條 歐羅巴洲内又ハ他洲ニ於テ王國所屬地ノ一部ヲ讓與若クハ交換スルノ條約又ハ法律上ノ權理ニ關リ若クハ之ヲ修正スル條約ハ國會ニ於テ其條規若ハ修正ヲ認可シタル後ニ非ザレバ國王ハ之ヲ批准セズ

丁 十八條 國王ハ戰ヲ宣ベ和ヲ決シ及同盟貿易ノ條約ヲ結ブ然レドモ國會ノ承諾ヲ得ルニ非レバ土地ノ一部分ヲ割キ及公權ノ現狀ヲ變ズル所ノ約束ヲ定ムルコトヲ得ズ



伊 五條 國庫ノ負擔若ク國疆ノ變政ヲ起スベキ條約ハ兩院ノ承認ヲ得ルニ非ザレバ其  
カヲ有セズ

第二十五條

兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法案ハ同一會期ノ中ニ再議ニ付スル事ナカルベシ

(參照)

普 六十四條 國王並ニ各院ハ法律ヲ起案スルノ權ヲ有ス兩院ノ一若ハ國王ヨリ批可セ  
ラレザル法律案ハ同一ノ會期ニ於テ再ビ提出スルコトヲ得ズ

伊 五十六條 立法權三部ノ一ニ於テ一タビ否拒セラレタル法律ノ發議ハ同一ノ會期ニ  
於テ再ビ提出スルヲ得ズ(西三十八條 同)

瓦 百八十三條 兩院ノ一ニ於テ否決セラレタル議案ハ同一ノ會期ニ於テ再ビ會議ニ附  
スルコトヲ得ズ若シ此ノ議案ヲ他ノ會期ニ附シ再ビ否決セラル、トキハ兩院ハ其議案  
ノ主點ニ付キ共同會議ヲ爲ス而シテ仍同意ヲ得ザル時ハ其國王ヨリ下附セラレタルノ  
議案ナレバ兩院ハ單ニ不贊成ノ旨ヲ國王ニ奏上スルヲ要ス但シ兩院ノ意見合同セザル  
トキハ之ヲ國王ノ裁決ニ委スベシ

第二十六條

元老院ノ組織ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

此勅令ハ法律ニ由ルニ非ザレバ將來ニ變更スルコトヲ得ズ

(參照)

普 千八百五十三年五月七日ノ法律ニ於テ憲法六十五條六十八條ヲ改正スルノ條云

第一院ハ勅令ニ依テ組織ス此勅令ハ兩院ノ協議ヲ經タル法律ニ依ラザレバ改正スル  
コトヲ得ズ

第二十七條

代議院ノ定員組織及選舉ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

(參照)

代議士院ノ定員組織ハ各國大抵之ヲ憲法ニ掲ゲ其選舉ハ之ヲ別法ニ讓ル者多シ左ニ其例ヲ舉グ

佛 一千八百三十年 三十條 代議士院ハ將來法律ニ從テ設クル所ノ選舉會ヨリ選舉シタル代議

士ヲ以テ編成スベシ

白 四十九條 選舉法ハ民口ニ從テ代議士ノ數ヲ定ム四萬人一員ノ比例ヲ越ルコトヲ得  
ズ。選舉法ハ又選舉人タル爲ノ要件及選舉ノ方法ヲ定ム

西 二十條 代議士院ハ選舉會ノ法律ニ依リ定メタル規程ニ循ヒ選命スル所ノ議員ヲ以

此條ハ瓦  
敦堡ノ百  
八十三條  
ニ適ス



ヲ編成ス但人口五萬ニ付少クトモ代議士一名ヲ出スベシ

葡 三十四條 代議士員ハ公選ニシテ有期タリ

増補第四條 代議士員ヲ命ズルハ直接選舉ヲ以テス

第九條 選舉法ハ左ノ條件ヲ規定スベシ

第一 選舉ノ程式及王國ノ人口ニ比例スル代議士員ノ數

第二 代議士ト兼務スベカラザル官職

第三 國民公務ニ服スル爲ニ代議士員ニ選マレザル場合

第四 王國大陸ノ諸州王國附近ノ諸州及海外所屬ノ諸州ニ於テ選舉稅額ノ證明

ヲナスベキ方法及程式

第五 選舉人タルベキ年齡 滿二十五歲 ヲ補足シ及選舉稅額ノ證明ヲ釋サルベキ大

學費ノ品級

荷 七十七條 國會議員ノ數ハ四萬五千人ニ一員ノ比例ヲ以テ人口ニ準ジ之ヲ定ム選舉

ノ權ニ係リ遵守スベキ他ノ條則ハ選舉法ヲ以テ定ム

丁 三十二條 代議士院議員ノ數ハ人口一萬千ニ一員ノ比例トス選舉ハ選舉法ニ依テ區

劃ヲ定メタル所ノ各選舉區ニ於テ之ヲ行フ而シテ各區ハ選舉ニ應ゼンコトヲ求ムル候

補人ノ内ニ付一員ヲ選舉ス

伊 三十九條 代議士院ハ法律ニ定メタル選舉區ヨリ選舉シタル代議員ヲ以テ編成ス

### 第二十八條

議員ノ任期ハ四年トシ選舉法ノ定ムルニ所ニ從ヒ二年ゴトニ其半ヲ改選ス

議員ハ再選ニ當ルコトヲ得

(參照)

荷 八十一條 第二院議員ハ四年ノ爲ニ選任ス第二院議員ハ特ニ規程スベキ順次ニ循ヒ

二年ゴトニ其ノ半數ヲ更選ス。前任ノ議員ハ再ビ選ニ當ルヲ得(白國同)

議員ノ任期英國ハ七年トス佛國ハ千七百九十一年ニ二年、九十五年ニ三年九十九年千八百〇

四年千八百十四年十五年三十年皆五年四十八年ニ三年五十一年ニ六年トス獨逸及普魯西丁抹瑞

士ハ三年奧地利斯巴威爾瓦敦堡ハ六年米ハ二年李遜ハ九年西班牙伊太利ハ五年巴丁ハ八年トス

今其正條ヲ略ス葡萄牙ハ四年荷蘭白耳義ニ同ジ

遞互改選半數ノ方法ハ大抵各國ノ同キ所ナリ但シ近來ノ學者其非ヲ論ズル者多シ佛國千八百

七十五年ノ法律第十五條ハ左ノ如ク規定シタリ

代議士ノ任期ハ四個年トシ議院ノ全部ヲ改選ス



第二十九條

代議院ノ議員ハ全國人民ノ代議人ニシテ其所屬府縣又ハ選舉區ノ人民ヲ代表スル者ニ非ズ故ニ議員ニ付與スル委任囑托ハ總テ其効力ヲ有セズ

此條ハ歐洲ノ理論ニシテ其實益アルヲ見ズルモ除ナリ

(參照)

佛 一千七百九十一年 四十二條 各州ヨリ選派スル代議士ハ一州ノ名代ニアラズシテ全國民ノ名

代タリ州ヨリ代議者ニ委托ヲ付スルコトヲ得ズ

伊 四十一條 代議士ハ全國民ノ名代ニシテ之ヲ選派シタル一州ノ名代ニ非ズ選舉人ハ

代議士ニ一ノ委任訓狀ヲ付スルコトヲ得ズ

獨 二十九條 代議院ノ議員ハ全國人民ノ名代タリ囑託及教令ヲ以テ之ヲ強フルコトヲ

得ズ

普 八十三條 兩院ノ議員ハ全國人民ノ名代タリ議員ハ其自由ナル靈覺ニ從テ發言シ約

東及訓條ニ由テ拘束セラル、コトナシ

瓦 百五十五條 代議士ハ全國ノ代議士ニシテ一ノ選舉區ノ代議士ト看做サズ白三十二條同

荷 七十四條 國會ハ荷蘭國民ヲ代理ス

瑞士 七十九條 兩議會ノ議員ハ教令ナク發言ス

奧 代議編 一條 帝國議會ハ奧地利帝國ヲ代理スル爲ニ之ヲ設ク分テ兩院即元老院及

代議士院トス

同 十六條 代議士院ノ議士ハ其選舉者ヨリ委任訓狀ヲ受ク可カラズ

丁 五十六條 國會ノ議員ハ專自己ノ良心ニ從ヒ選舉人ノ教令ニ從ハズ

佛 千八百七十五年法 十三條 委任訓狀ハ總テ効力ヲ有セズ

第三十條

議員ハ非職武官ヲ除ク外國庫又ハ地方稅ノ俸給アル行政官屬ト相兼ヌルコトヲ得ズ官吏ニシテ議員ノ選ニ應ズルトキハ非職タルベシ議員ニシテ官吏ニ任ズルトキハ議員ノ職ヲ失フベシ但  
教官技術官博物局員衛生會員其他將來ニ特ニ指定スル員屬ハ其職務ニ妨グズシテ議員ト相兼ヌ  
ルコトヲ得ベシ

僧侶ハ兩院ノ議員タルコトヲ得ズ

(參照)

官吏ノ議員タルコトヲ禁ズルハ米國瑞士是ナリ (甲) 官吏中政務官ハ議員ヲ兼ヌルコトヲ得其他ノ官吏ハ之ヲ兼ヌルコトヲ得ザルハ英國及葡萄牙國是ナリ (乙) 其他ノ獨逸各國及荷蘭丁抹西班牙等ハ官吏議員タルコトヲ得ルノ自由ヲ認メ但ダ其議員任期中ニ

教官技術官等ヲ指  
定スルハ  
之ヲ以テ  
之ヲ除キ  
將來ニ  
指來ス  
可ナト



新ニ官吏ニ任ジ又ハ陸任加俸シタルトキハ議員ノ職ヲ罷ムル者トシ更ニ再選ニ當リ始メテ兼任ヲ許ス(丙)茲ニ順次ニ其條項ヲ列舉ス

(甲)

米 第六章二條 元老員又ハ代議士ハ其任期ノ間、政府ニ屬スル文官ニ任ズルコトヲ得ズ。政府ニ屬スル官吏其位置ニ在ルノ間兩院ノ議員タルコトヲ得ズ

瑞士

六十六條 列邦議會ノ代議士聯邦行政會ノ員及行政會ヨリ命ゼラレタル官吏ハ國會ノ議員ヲ兼任スルコトヲ得ズ

(乙)

葡

二十八條 貴族院及代議士院ノ議員ハ共ニ執政官若ハ參議員ニ拜スルコトヲ得ベシ是時貴族院ノ議員ハ會議ノ列ヲ有ツコト故ノ如ク代議士院ノ議員ハ其職ヲ去リ更ニ新選ヲ受ケテ復職ス其重選セラレタルトキハ兩職ヲ兼任スベシ

同

二十九條代議士院ノ議員ニ選マレタルトキ既ニ執政官若ハ參議員ヲ勤ムル者ハ亦兩職ヲ兼任スベシ

同

三十一條 參議官及執政官ヲ除クノ外何等ノ官職モ貴族院若ハ代議士院ノ議員ノ職務ノ間假リニ其任ヲ止ム

同増補律例第三條ニ曰ク國事ノ爲ニ緊要ナル場合ニ際シ各院ハ政府ノ求ニ應ジ王國ノ首府ニ於テ服職スル議員ニ該職務ノ服行ト立法權ノ兼勤ヲ許スコトヲ得ベシ  
憲法第三十三條ヲ説明スルコト斯ノ如シ

(丙)

奧

代議篇八條 代議士院ニ選バレタル政府ノ官吏ハ其選舉委任ニ應ズル爲ニ離職ヲ要セズ

丁

五十六條 國會ノ議員ニ選舉セラレタル官吏ハ選舉人ノ委任ヲ承諾スル爲ニ政府ノ認許ヲ得ルコトヲ要セズ

荷

九十一條 國會ノ議員ハ同時ニ高等法院ノ法官若ハ大檢事會計檢査院ノ僚員州ノ理事官及僧侶ノ職ニ任ズルコトヲ得ズ

服務武官ニシテ兩院議員ノ職ヲ受ル者ハ奉職ノ間當然ニ非職員トナル既ニ議員ノ列ヲ去レバ更ニ服務ニ復ス

選舉會ニ上席スル官吏ハ其上席シタル所ノ選舉區ニ於テ議員ニ選舉セラルベカラズ官俸アル政府ノ職務ヲ奉ジ又ハ進等ヲ得タル國會ノ議員ハ其ノ列ヲ失フ但シ即時ニ重選セラル、コトヲ得



白 三十六條 兩院ノ議員政府ノ俸給アル官職ヲ受ルトキハ直チニ議員ノ列ヲ失フ而シテ更ニ新選ニ由ルニ非レバ其任ヲ復スルコトナシ

普 七十八條 官吏タル者兩院ニ入ル爲ニ官職ヲ辭スルコトヲ要セズ

若シ代議士タル者新ニ行政部ノ一官ヲ受ケ若ハ政府ノ使用ニ充テ若ハ俸給増加ヲ得テ他ノ官ニ轉ズル時ハ議院ノ列ヲ失ヒ及投訴ノ權ヲ失フ而シテ新選ニ依ルニ非ザレバ代議士ノ任ニ復スルコトヲ得ズ

(獨逸二十一條同)

佛國ハ政務官ニ於テモ亦議員ト相兼ヌルコトヲ禁ズルヲ以テ舊慣トナセシニ千八百七十五年ノ新法ヲ以テ之ヲ改正シタリ其條左ノ如シ

七條 陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ其官等及職掌ノ如何ヲ論ゼズシテ總ベテ代議士院ノ議員ニ選バル、ヲ得ズ此規則ハ第一後備及ビ非役ノ軍人ニ適用スルヲ得ベシト雖ドモ參謀ノ第二部ニ屬スル士官若ハ敵軍ト對シテ司令官ノ職ヲ行ヒシガ爲ニ其第一部ニ屬シタルモ既ニ現役ヲ除免シタル士官若ハ既ニ退職ヲ爲ス可キ權理ヲ有シタルモ猶其養老年金ノ下附ナキガ爲ニ留マリテ營中ニ在ル所ノ士官ニ對シテハ此規則ヲ適用スベキ限ニ在ラズ此場合ニ於テ右ノ士官ニ退職ヲ許シタル裁決ハ確定ノ者トス此規則ハ

現役ノ豫備軍及後備ニ適用ス可キ限ニ在ラズ

八條 國庫ヨリ俸給ヲ受ケテ公務ニ服スル者ハ代議士ノ任ヲ兼ヌルヲ許サズ故ニ官吏ノ代議士ニ選バレテ其任ヲ辭セシコトヲ届出デザルトキハ其資格審査ノ後八日以内ニ更ニ其後任ノ官吏ヲ命ズ可シ大臣、次官、セーヌ縣知事警視總監、大審院長、會計法院長、巴里控訴院長、大審院檢察長會計法院檢察長、巴里控訴院檢察長「アルセウエシルユニスラク」官「エツエク」上其首府ニ二人以上ノ「バस्तール」上ノ住居セル教會區リナシヨコンシストザールノ會長ニ任ジタル「バस्तール」中央教會ノ「گران、ラバン」上及ビ巴里教會ノ「گرانラバン」ハ此規則ニ依循ス可キ限ニ在ラズ

九條 下ニ記載シタル者モ亦均ク上文第八條ノ規定ニ依ル可キ限ニ在ラズ (一)或ハ競争ニ由リ、或ハ缺員ヲ生ジタル組合ノ申込ニ由テ講堂ノ講師ト爲リタル者 (二)一時ノ職務ニ任ジタル者、但シ其職務六個月以上繼續スルトキハ之ヲ一時ノ職務ト視做サズシテ上文第八條ニ掲ゲタル規定ニ依ラシム可シ

十條 官吏ハ代議士ニ任ジタル後ニ於テモ猶養老年金ヲ受クルノ權理ヲ保有シ且其代議士ノ任期滿ツルノ後ハ更ニ前官ニ復スルヲ得ベシ 文官ノ代議士ニ任ジタル時其在職ノ年數既ニ二十年ニ達シ且其代議士ノ任期滿チタル時其年齡既ニ五十年ニ達シタルコトヲ證



明スルトキハ特別ノ養老年金ヲ受クルノ權理ヲ有ス可シ 右ノ年金ハ一千八百五十二年六月九日ノ法律第十二條等三項ニ從テ規定ス可キ者トス 若シ官吏ノ代議士ニ任ジタル者ニシテ其任期滿ルノ後更ニ前職ニ復シタル者アルトキハ一千八百五十三年六月九日ノ法律第三條第二項及ビ第二十八項ニ掲ゲタル規則ニ從テ之ヲ處分ス可シ若シ其官吏ノ有スル官等ト其行フ所ノ職務トハ特別ノ者ナルトキハ其官吏ハ代議士ニ任ジタル後モ唯々其職務ヲ離ル、ノミニシテ其官等ヲ失ヒシニ非ザル者トス 十一條 若シ代議士ニシテ官府ヨリ俸給ヲ受ク可キ官職ニ就キタルトキハ其辭令ヲ受ケタル一事ヲ以テ既ニ議院ヨリ離レタル者ト見做ス可シ然レドモ若シ其官職ハ代議士ノ任ト相兼ヌルコトヲ得ベキ者ナルトキハ更ニ再選ヲ受クルコトヲ得ベシ但シ大臣及ビ次官ニ任ジタル者ハ再選ヲ受ク可キ限リニ在ラズ

第三十一條

一人兩院ノ議員ヲ兼ルコトヲ得ズ

(參照)

白 三十五條 何人モ同時ニ兩院ノ議員タルコトヲ得ズ (葡三十條荷八十八條伊六十四條埃代議篇一條普七十八條)

荷 八十條 數選舉區ニ於テ第一院若ハ第二院ノ議員ニ選マレタル者又ハ同時ニ兩院ノ議員ニ選マレタル者ハ何レノ選舉ヲ選ムカヲ告白ス

第三十二條

兩議院ハ毎年十一月上諭ヲ以テ之ヲ召集ス

(參照) 議院ノ召集ハ、必王命ニ依ル者アリ (甲)又ハ毎年定期ニ集會シテ王命ヲ待タザル

アリ (乙)茲ニ類ヲ分テ各國ノ例ヲ列舉ス

(甲)

丁 十九條 王ハ毎年通常會トシテ國會ヲ徵集ス

國會ハ王ノ許可ヲ得ズシテ集會二個月ヲ越ユルコトヲ得ズ

此定規ハ一ノ法律ニ由テ變改スルコトヲ得

西 二十六條 國會ハ每歲集會ス其之ヲ召集シ延期シ及閉會シ或ハ代議士院ヲ解散スル

ノ權ハ王ニ屬ス

埃 代議篇八條 議會ハ毎年一度皇帝之ヲ召集ス

議會ハ皇帝ノ特殊ノ命令アルニ非ザレバ維也納ニ集會ス

普 七十六條 兩院ハ毎年十一月ノ初メヨリ翌年正月ノ半ニ至ル迄ノ間ニ國王ヨリ常例